

JCCA中国

Japan Civil Engineering Consultants Association Chugoku Branch.
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会中国支部

2022.3
VOL. 50



CONTENTS

VOL.50 目次 2022. 3.

■ 巻頭言

- 01 COVID-19との遭遇 副支部長 坪井 俊郎

■ 夢追人

- 02 整備局からのメッセージ
これからの建設業界の技術力と魅力向上にむけて
中国地方整備局 企画部長 西澤賢太郎
- 05 大学からのメッセージ
近年頻発化する大雨の特徴について
広島工業大学 教授 田中 健路
- 08 産業医からのメッセージ
元気で長生きするために
広島県環境保健協会 三宅 弘明

■ 会 務

- 12 令和3年度中国支部第51回定時総会
12 役員会
13 役員、常設部会委員の異動

■ 総 務

- 14 総務部会等の開催
15 国土交通功労表彰
30 令和3年度鳥取県委員会主要活動報告
32 令和3年度災害時対応演習
34 講習会等
35 若手の会の活動報告
36 大学・高専・高校への業界説明会開催
37 官民合同新年互礼会

■ 業 務

- 38 業務部会の開催
39 令和3年度意見交換会実施概要
40 発注者と建設コンサルタンツ協会の意見交換会
51 中国地方整備局との意見交換会
58 広島県との意見交換会
64 岡山県との意見交換会
69 鳥取県との意見交換会
76 広島市との意見交換会
81 協会本部と中国支部意見交換会

■ 技 術

- 82 技術部会の開催
82 技術講習会、見学会
88 講師の派遣
89 道路委員会の活動報告
90 構造委員会の活動報告
91 港湾委員会の活動報告
94 防災委員会の活動報告
98 地域計画委員会の活動報告

■ 厚 生

- 100 令和3年度親睦活動
100 第56回ゴルフ大会

■ 寄 稿

- 105 外国人インターンを受け入れた夏
株式会社ウエスコ 渡辺 敏
- 107 ラントリップ（旅×ラン）のススメ
中電技術コンサルタント 井野口慎之輔
- 109 オートバイとの旅
荒谷建設コンサルタント 松本 宏二
- 111 創立50周年記念事業 絵本の寄贈活動紹介
ウエスコ 寒竹 悠子
- 112 広島駅南口広場再整備にCMRとして関わった感想
エイト日本技術開発 鷲津 宏明

■ 読者のコーナー

- 114 入社して感じたこと ウエスコ 森井 沙緒
114 1年を振り返って ウエスコ 清水 杏香
115 就職のきっかけと抱負 エイト日本技術開発 西村 大輝
115 現場に出て感じたこと 荒谷建設コンサルタント 小林 和生
116 入社して感じたこと 荒谷建設コンサルタント 唐澤 佳慧
116 入社して感じたこと 中電技術コンサルタント 荒木保乃香
117 入社して感じたこと 中電技術コンサルタント 坪井 勇樹
117 入社して感じたこと 復建調査設計 松谷 将吾
118 課題と今後の目標 復建調査設計 中野 友弘
118 入社して感じたこと 復建調査設計 前岡 夏槻
119 入社1年目を振り返って いであ 増井 優哉
119 入社して感じたこと 八千代エンジニアリング 藤槻 友依
120 入社して半年が経ちました 長大 針谷 周平

■ 新任自己紹介

- 121 ご挨拶 片平新日本技研 高 龍
122 ご挨拶 パスコ 篠原 真樹
123 新任ご挨拶 ニュージェック 竹本 卓司
124 新任のご挨拶 明伸建設コンサルタント 渡邊 聖
124 ご挨拶 荒谷建設コンサルタント 中川 孝浩
125 新任のご挨拶 ヒロコン 中田 武
125 ご挨拶 長大 和田 昌也
126 新任ご挨拶 中電技術コンサルタント 池上 慎司
126 ご挨拶 エイト日本技術開発 西 生郎
127 ご挨拶 大日本コンサルタント 樋口 学
127 新任のご挨拶 ウエスコ 大川 啓輔

■ 事務局

- 128 支部日誌
131 事務局からのお知らせ

表紙写真説明

撮 影 者：樋口 輝久

タイトル：『酒津の夏』

撮影場所：岡山県倉敷市酒津

中国支部設立 50 周年記念 社会インフラ写真コンテスト 特別賞



COVID-19との遭遇

(一社) 建設コンサルタンツ協会中国支部

副支部長 坪井俊郎

2019年の末、人類は長い間忘れていたウィルスという敵と遭遇した。あれから2年も経過したので少し振り返ってみたい。というのも自分を含め国内はもとより世界中の人々が未知のウィルスへの脅威に怯えながらほぼこの中にどっぷりと浸かり、時間が止まったような感じがしている。日本国内では2020年2月上旬に横浜港に寄港した大型クルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」での感染者発生の確認を境に始まった。感染者発生の波はそれ以降段々と大きくなりながら、減少と増加を繰り返した。そして、執筆時点(21/12末)においては、2021年夏季の大きな第5波を乗り越えて、今は数カ月前の感染状況が嘘のように静まり返り小康状態にある。少し不気味な感じもする。

新規感染者人数の推移を整理すると、2年前の第1波(20/4)でMax0.7千人/日 第2波(20/8)でMax1.5千人/日 第3波(21/1)でMax 8千人/日 第4波(21/5)でMax 7千人/日 第5波(21/8)でMax26千人/日。時間の経過とともに、感染者数が急激に増加していったことがわかる。とは言っても世界と比較すると日本は感染者数及び死者数は桁違いに少なくすんでいるのは不幸中の幸いである。この原因に関していろいろな説が出されているが、未だ定説に至るものはないようである。ただ感染症に対する医療整備体制が十分整わないことにより、救える命が救えなかったという事例が多くみられたのは非常に残念なことであった。

今回の「COVID-19」という感染症の特徴として生活上で特に困ったこととして、ウィルスに感染した後の症状が通常の風邪等の諸症状とほとんど区別できないため、新型コロナ以外の疾患であっても病院での診察が受けられないという状況があった。更に、感染力が強く発症前であっても感染することが判明し、自分の周りの人もひょっとして感染しているのではと疑心暗鬼に陥り、人との接触を拒まれる場面も多々経験した。

こんな中で感染への基本対応策として、「3つの『密』を避ける」という新しい行動様式、マスクの着用や手の消毒等が奨励されることとなり、現在に至って

いる。また、会社ではそれらに加えて、執務距離の確保や仕切り板等の設置、積極的な在宅勤務(テレワーク)の実施などに取り組んだ。初期段階は全く正体不明ということで手探り状態であったが、最近ではワクチンの接種や新しい治療薬の承認なども徐々にではあるが進み、落ち着きを取り戻しつつあるが、コロナ前の社会・経済状況に戻るというのは考えにくい。

今回の経験から、遠い過去のこととして忘れられていた感染症と人類の戦いは永遠の課題であることを再認識させられる機会となった。昨今は、経済のサプライチェーンは世界中にまたがり、交流人口の多さや交流スピードの速さはウィルス繁殖にとって大変に好都合である。従って、仮にコロナ感染が落ち着いた後、将来もまた新たな感染症が襲来することを前提としたリスク対応が必要となると言われている。そのリスク対応の鍵となるキーワードは、「非接触化」「分散化」「デジタル化」ではないかと私は考えている。

偶然であろうが、今回のコロナ禍前から、建設業界も含めビジネス界隈では、GAFAsの脅威が叫ばれ、各社がDX(デジタルトランスフォーメーション)に向けて奔走し始めた時と重なる。具体的に建設業界では、ICT、AI等を活用して生産性の向上・働き方改革・魅力ある職場づくりなどを目的に、官民を挙げてi-Construction、BIM/CIMの推進を実践していたところであった。こうした世の流れと感染症襲来へのリスク対応のベクトルがほぼ重なっていたのは不幸中の幸いである。これからより加速化させなければならない。

しかし、ここで気になることがある。新型コロナ対策としてテレワーク勤務やWeb会議などリモートワークが強く推奨され、現に定着してきた感はあるが、適宜リアルでの会話の必要性を最近強く感じる。人の繋がりの希薄化を懸念。もう一つは、感染症の終息は自国だけでなく、サプライチェーン全体ですなわち世界規模で感染が一定レベル以下にならなければ日本経済全体の成長はあり得ないので、長期戦を覚悟して事業運営しなければならないということ。最後に、「オミクロン株の感染拡大」が夢であることを祈りたい。

■ 整備局からのメッセージ



これからの建設業界の技術力と 魅力向上にむけて

中国地方整備局

企画部長 西澤 賢太郎

1. はじめに

平素から建設コンサルタント中国支部の会員の皆様には、中国地方整備局の事業を始め、国土交通行政全般にわたり、多大なご尽力と協力を賜っていること、ここに厚くお礼申し上げます。

貴協会の皆様は、計画、調査、設計、管理・点検等の各分野におけるプロフェッショナル技術集団であり、日頃から技術の研鑽、新技術への挑戦、関係機関との連携、PR活動、社会貢献等に取り組まれていることに対して深く敬意を表する次第です。

2. 建設業界を取り巻く状況

H30年7月豪雨により西日本では、多くの人命・家屋が失われ、社会インフラも大きな損傷を受けました。速やかな復旧・復興に向けて官民が連携してまい進している一方、中国地方ではその後も大雨による災害が続いています。R3年も7,8月に浸水、法面崩壊、地滑りなどが発生しました。最近は、「毎年日本のどこかで災害が発生」というより「毎年中国地方のどこかで災害が発生」するという状況です。

災害後の測量や調査等にあっては協会の皆様の迅速な対応が不可欠です。また、こうした災害を未然に防ぐ、食い止められなくても被害を最小化するためには、防災・減災、国土強靱化をさらに加速させていく必要があります。その点でも、皆様の役割は重要であり、施工業者等も含めて業界が一丸となって進めていくことが肝要です。

一方で、業界全体の課題として、担い手の高齢化や担い手不足があります。公共事業予算の落ち込みとともに人員の確保ができてこなかった側面などもありますが、何よりも、職業としてこの建設業界を選択する若い世代が減少していること、また就職しても数年のうちに離職してしまうことなども大きな要因です。職場環境の改善は待ったなしの状況であり、新3K（給与、休暇、希望）を合い言葉に業界全体で取り組みを進める必要があります。最近では「カッコいい」のKも加えて4Kという使われ方もしますが、「やりがい」という面も含めた魅力向上にも継続的に取り組む必要があるかと思えます。

3. 働き方の改革に向けた取り組み

職場環境の改善については、長時間労働の削減、休暇の取得など基本的な働き方について意識を変えると同時に、デジタル技術をうまく使って仕事のやり方を変えていくなど業務の効率を高めていくことが不可欠です。その意味でも頭が柔らかくデジタル技術の扱いにもなれている若い人に積極的に関わってもらうことが大切になってくるのではないかと思います。

中国地整においては、働き方について以下のような取り組みを進めており、今後も皆様からの声なども参考にしつつ、さらなる改善を図るとともに、自治体など他の発注機関とも連携して業界全体の改善につなげていく所存です。

〔週休二日の確保・時間外労働の削減〕

建設業界はこれまで土曜日が休めない、労働

時間が長い(時間外労働が多い)といった状況が長く続いてきており、この業界のイメージとして定着してしまっています。こうした状況を改善するため、業務の発注においては、週休2日を前提とした工期設定をおこなうとともに、その履行状況も確認しているところです。また時間外労働の縮減に対する取り組みとしてのウィークリースタンスについても相談窓口を設置して対応することとしています。

〔平準化(年度末工期の削減)〕

工事も業務も年間を通してみると常に年度末に仕事が集中し、特に第4/四半期は休暇が取りにくい、長時間労働が続くといったケースが多くなりがちです。こうした状況を改善するため、国債の柔軟な活用による複数年工期の設定なども含め、コンサルタント業務については、第4/四半期を工期末としないこととする取り組みを、目標値(令和5年には全体件数の40%程度とする)を持って進めています。

〔ICT技術の活用による効率化〕

建設業界では生産性革命としてi-Constructionに取り組んできました。多くの現場でICT施工が導入されるとともに、ICT施工を前提とした計画～設計の段階からBIM-CIMも導入されています。また、ICT技術を活用して、日常の打ち合わせのweb化、遠隔臨場による現場の確認等も進んできています。これらは新型コロナウイルスに対する感染防止とともに、日程調整や移動時間の短縮、安全性の向上などの面でも効果を上げているところです。

今後は、様々な業務過程(計画・調査・設計・施工・管理など)で、また、行政手続きや行政サービスなども含めたより広い分野で、デジタル技術を活用していくことが求められています。中国地整では局長をトップとするインフラDX推進本部を設置し、ICT施工、BIM-CIM、河川・道路・港湾等の各事業や各種行政手続きなどにおいてデジタル技術を活用した一層の効率化、行政サービスの向上を進めることとしています。

4. 担い手の確保・育成にむけて

社会資本は、災害から暮らしの安全を守り、地域住民の日々の生活において人流や物流を支える基盤としてなくてはならないものであり、その整備・管理を担っている建設業界が大きな使命を持っていることは言うまでもありません。社会への情報発信を怠らず努力を続けるとともに、業界を支える担い手の確保・育成について業界全体で取り組む必要があります。

〔魅力の発信〕

社会資本整備を担う建設業界の役割については、社会に認識を深めて頂くために、効果的に発信し、やりがいという面も含めPRしていくことが必要です。業界の働き方についても、i-constructionによる生産性向上を旗印に様々な新技術の導入が進んでおり、このような取り組みを積極的に社会に発信していく必要があります。「ちゅうごく建設技術フォーラム」の開催やICT現場見学会、出前講座など、引き続き関係者と協力しながら効果的に実施していきたいと思えます。

また、継続的な担い手の確保のためには、大学や高校などへの発信、教育関係者との連携も重要です。現場での新しい取り組み、働き方などについては、土木系以外の学生の取り込みも視野に、関係者が連携して幅広く発信するとともに、リアルな接点を増やしていく必要があります。

〔技術者の育成〕

デジタル技術の活用が急速に進行する中において、異業種との連携も含め新たな技術をいかに浸透、普及させていくか、研修等のやり方自体も変わってきています。これまで培ってきた技術力をベースとしつつ、新たに求められる技術等を積極的にとり入れ、トータルとしての現場力の維持向上を図る必要があります。

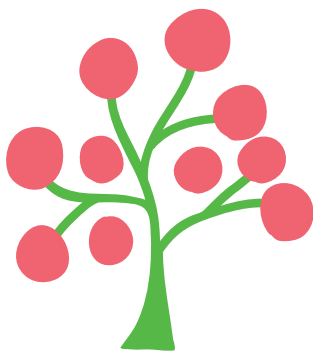
一方で、この業界が経験工学によるところが大であることは変わりません。これまで蓄積してきた足元の設計技術、施工技術、災害対応といった基本的な部分も、苦労話や失敗談とともに

に、次世代を担う技術者に伝承していくことが重要です。年齢構成上も人数割合が少なく、多くの役割を期待される若い世代にどのようにうまく伝えていくことができるか、試行錯誤しながら取り組みを続けなければなりません。

5. おわりに

社会経済の活性化、地域の安心・安全の確保といった建設業界の役割の重要性は将来にわたって変わるものではないと思います。この業界が今後もその役割を果たしていくためには、担い手が健全に働いていける環境づくり、時代の変化に適応した技術力の向上にむけた若手技術者の確保・育成、インフラDXの推進といっ

た議論から、カーボンニュートラル、SDGsなどへの対応といった論点まで、業界関係者がしっかり連携していくことが大切です。業界全体が「チーム」という意識で、意見交換や勉強会等を通じて、情報共有や意思疎通をよくしていくことがこれまで以上に求められていると思います。実際に意思疎通ができているだけで仕事が効率的になる場面も多々あるかと思います。中国地整としても、貴協会や関係団体、地方自治体等とも一層の連携をして、さまざまな課題に取り組んでまいりたい所存です。引き続き、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



大学からのメッセージ



近年頻発化する大雨の特徴について

広島工業大学 環境学部地球環境学科

教授 田中 健路

1. 豪雨災害をもたらす大雨の発生頻度の傾向

2010年以降の最近10年余間に、平成30年7月豪雨（西日本豪雨）や平成26年8月広島豪雨など、特別警報級、および、観測史上最大級の大雨が頻繁に発生している。直近の事例では、令和3年8月中旬の前線の停滞に伴う大雨が挙げられ、広島県北西部を中心に西日本豪雨を上回る降水量を観測した。しかしながら、当事例では、線状降水帯が停滞した広島県北西部を除き、3時間以下の短時間降雨が弱かったことなどから被害自体は僅少に抑えられた。

度重なる豪雨災害を受け、「数10年前と比べて雨の降り方が変わった」という声をよく耳にするようになったが、気象庁アメダスによる降雨観測でもその傾向が示唆される。気象庁気候変動監視レポート¹⁾によれば、全国1300地点を対象とした1時間50mm以上の非常に激しい雨の観測頻度は、10年あたり28.9回ずつ増加し、最近40年間で約1.5倍増加している。広島県内のアメダス観測点を対象として、1時間30mm以上の激しい雨の出現頻度を解析すると、1980年代においては1地点10年あたり約7.4回であるのに対し、最近10年間（2012～2021）では、約13.9回と約1.9倍に頻度が増加している。同様に1時間50mm以上の非常に激しい雨の発生頻度は、1980年代には1地点10年あたり約0.6回であるのに対し、最近10年間では約1.6回と約2.7倍に増加している。

2. 大雨の頻度の増加傾向をもたらす背景

豪雨災害をもたらす極端な降雨現象が発生す

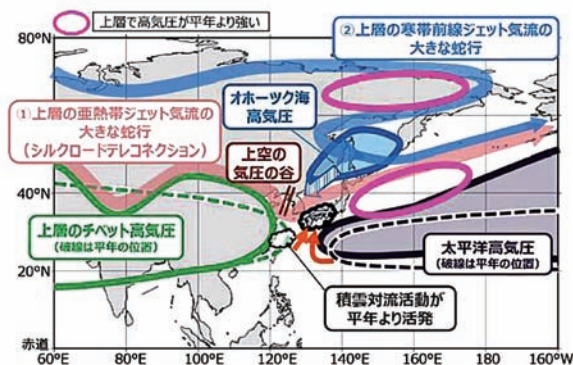


図1 平成30年7月豪雨に関する大規模気象場の特徴 (気象庁・異常気象分析検討会)²⁾

る際には、水平規模数千kmの大規模な場から局地的な地形まで多重規模（マルチスケール）の力学的な要因が重なる。図1は、気象庁異常気象分析検討会において分析された平成30年7月豪雨のうち、本州上空に前線が停滞した7月5～7日の期間のメカニズムの概略を示したものである。このうち、大規模な大気現象は、太平洋高気圧やチベット高気圧の発達位置が平年より南北に偏り、高気圧の北側の偏西風の蛇行が強まり朝鮮半島付近で気圧の谷が深まるという現象が対応する。これらの大規模な現象は前線周辺において、南側から流れ込む下層の水蒸気の量的増大と、前線北側からの乾燥空気の沈降による対流の強化の2つの要因として、豪雨の発達に寄与する。

この2つの要因のうち、後者は豪雨の急発達において非常に重要である。上空で水蒸気が凝結して雲の中に微細な水滴や氷粒子が浮遊している大気に乾燥した空気が接触すると、水滴や氷粒子から水分が蒸発（もしくは昇華）し、気

化熱が奪われ、乾燥空気の気温が低下する。すなわち、雲の外側では低温高密度、内側では高温低密度の関係となり、雲の内部では上向きの浮力が強まる。湿潤空気と乾燥空気のコントラストが強まるほど浮力が大きくなり、積乱雲の活動が活発になりやすい場となるのである。

大気中の水蒸気量を表す指標の一つとして、空気中の水蒸気密度を鉛直積分して得られる可降水量と呼ばれる物理量が挙げられる。気象庁長期再解析プロダクト（JRA-55）データを用いて、5月～9月における日本周辺の可降水量の長期変化傾向を解析した結果を図2に示す。図2によれば、西日本から東シナ海にかけて可降水量が増大傾向にあり、黄海西岸から渤海沿岸域で減少傾向にあることが示されている。前者の湿潤化の傾向については、東シナ海における海水温上昇に伴う蒸発量の増加や、太平洋高気圧の縁辺流に代表される、日本の南方海上からの水蒸気流入量の増加がその要因として挙げられる。後者の乾燥化の傾向は、大陸側からのジェット気流の蛇行に伴う乾燥空気の流れ込みが強まる傾向を表している。この2つの傾向が、西日本から東シナ海にかけての前線付近の乾燥空気と湿潤空気とのコントラストを強め、前線付近での積乱雲の活動を活発化させる方向に作用する。以上が、西日本において温暖化の進行により、降雨が強まる傾向を示唆するメカニズムの一つであると見られる。

ところで、平成30年7月豪雨や令和3年8月の大雨では、オホーツク海上の高気圧の南下により、本州上空の前線の北上が妨げ、中国地

方で72時間雨量500mmを超える長時間大雨に至ったという共通の特徴を持っている。オホーツク海上の高気圧の南下は、両者とも、台風が西日本上空で前線と合流しながら温帯低気圧化し、日本の東の太平洋上に移動した後起こった。低気圧の進行方向後方側の北西側の下層では、強い北風場となっており、これがオホーツク海上の高気圧を南下させる一因となった。また、台風の中心付近では、強い上昇気流が作られ、対流圏上層に達すると台風の外側へと発散する。上層での風の発散によって、台風の外側で沈降流が強まり、高気圧の勢力が少し強まることも前線の南北の動きを抑制する一因となる。

以上のように、地球温暖化の影響を示唆するものと、温暖化とは別の個別の現象が関与するものなど大雨の増加の要因は様々である。

3. 準停滞性の線状降水帯

近年の豪雨の中で、線状降水帯の停滞による局地的大雨が注目を集めている。線状降水帯の発生に関しては、前述の大規模場に沿った湿った空気の流入がまず重要であるが、上空1km以下の下層の空気を持ち上げる要因として、地形による水平収束、上昇流の発生も重要な役割を果たす。中国地方の場合、①太平洋側から豊後水道を經由して広島湾に流れ込む湿った空気、②九州山地の西側から周防灘側に流れ込む湿った空気、③対馬海峡および日本海側から山陰側に流れこむ湿った空気、のいずれかに加え、前線の南北にある対流圏中層（概ね上空3～5km）の乾燥空気の流入が生じると、準停滞性の線状降水帯が形成されやすい。ただし、わずかな気流の流向の変化や湿度の違いにより、発達位置や持続時間など大きく変化し、一定程度の再現計算は可能であっても、精確な予測は依然として困難である。

4. 今後の豪雨災害対策の方向性について

梅雨前線や秋雨前線の停滞に伴う大雨に対しては、今後も現在の傾向が持続することを念頭に置いて、河川整備計画の継続的な見直しが望まれる。国土交通省による検討部会において、

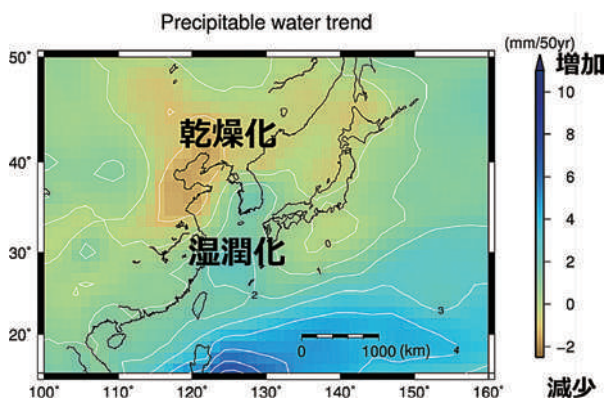


図2 日本周辺における下層水蒸気量の長期変化傾向

地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース (d4PDF) を基に試算している¹⁾。その結果によると、IPCC第5次評価報告書 (2013) で示されている2℃上昇シナリオにおいて、21世紀末における一級河川の治水計画の目標とする規模 (年超過確率1/100) の洪水の流量の平均値は20世紀末の平均値に対して約1.2倍になり、洪水の発生頻度の平均値は約2倍と見積もられている。また、4℃上昇シナリオの場合は、流量の平均値が約1.4倍、洪水の発生頻度の平均値は約4倍と見積もられている。二級河川においても、年超過確率が対象河川によっても様々であり、流量や洪水発生頻度の見積もりに多少の差異が予想されるが、いずれもリスクが増大する方向に変化すると判断して差し支えない。

土砂災害に関しては、降雨量の増大や強雨の発生頻度増加に伴う発生確率・頻度の増加が予想されるが、雨量指数R'などの土砂災害危険度評価指数の増減の程度については、今後の研究課題として残されている。将来の人口変化予測、交通需要を参照しながら、対策強化を図る溪流、斜面の優先順位を決めて取り掛かることが求められるであろう。

- 1) 文部科学省、気象庁：日本の気候変動2020、272p。(2020)
- 2) 気象庁：「平成30年7月豪雨」及び7月中旬以降の記録的な高温の特徴と要因について、気象庁報道発表資料、2018年8月10日発表。

【プロフィール】

田中 健路 (たなか けんじ)

学位、資格：博士 (理学) 気象予報士、防災士

役職：広島工業大学環境学部地球環境学科 教授、

広島工業大学地域防災減災教育研究推進センター 副センター長 併任

専門分野：気象学 (台風、前線性降水、局地気象)、海岸工学 (気象津波、高潮)

産業医からのメッセージ



元気で長生きするために

広島県環境保健協会 健康科学センター 健康クリニック
副所長 三宅弘明

元気で長生きするには、どうすればいいのでしょうか？

日本人の三大死因は、癌、心疾患、脳卒中です。まず、それにならないことです。そのために最も重要なのは、たばこを吸わないことと肥満にならないことです。たばこは癌の関係は明らかですし、肥満についても、最近ではメタボリックシンドロームとの関係から、とくに内臓脂肪が糖尿病、脂質異常症、高血圧症などの生活習慣病を引き起こすことがわかっています。その中でも、糖尿病が特に心疾患、脳卒中を引き起こす危険性が高いと言われています。

1. 癌の予防

一般的に、癌は食生活と禁煙だけで半分は防げると言われており、予防のためには、5つの生活習慣に注意するようにとされています。

まず第1に禁煙です。

国立がん研究センターの調査によると、喫煙者は非喫煙者と比べて、肺癌リスクが男性では4.4倍、女性では2.8倍、胃癌リスクが男性では1.8倍、女性では1.2倍となっており、他にも、喫煙によるリスクが高まる癌は、肝癌、乳癌、喉頭癌、食道癌、膵臓癌、膀胱癌、子宮頸癌などがあげられます。

禁煙してから10年後には、肺癌のリスクが喫煙者に比べて約半分に低下し、口腔癌、食道癌、胃癌、喉頭癌、膀胱癌、子宮頸癌のリスクも低下することが報告されています。

第2に適度の飲酒です。

アルコールは2日に1合程度では、癌死亡の

リスク低下が期待できますが、それ以上は飲酒量に比例して、死亡率は上昇します。また、飲むとすぐに顔が赤くなるようなアルコールを分解する酵素のない人は、飲酒により食道癌のリスクが特に高くなるとの報告があり、要注意です。

第3に、定期的な運動は、体内の抗酸化力を高めて、癌を抑制することがわかっています。

国立がん研究センターの調査によると、男女とも、身体活動量が高い人ほど、何らかの癌になるリスクが低下していました。

抗酸化力とは、身体の抵抗力みたいなものですが、これについては、後述します。

第4に、適正体重を維持することが望まれます。

現在、人間ドックなどで、肥満度の指標としてBMI（ボディマス指数）というものがよく使われています。これは体重を身長²で割ったもので、一般的には22が標準体重、25以上を肥満、18.5未満をやせとしています。癌を含む死亡リスクは、男性の場合BMI値21.0～26.9で、女性は21.0～24.9で最も低いことが示されました。つまりは、太りすぎても、やせすぎても、癌の発生にはよくないのです。

第5に、食習慣を見直すことが必要です。

①食塩として一日10g 未満。

②野菜、果物不足にならない。

③熱い飲食物、保存、加工肉は控えめになどといった食生活の改善が望まれます。

次に、それぞれの癌の予防策について検討します。

胃癌については、予防のために、

- ①週1から2日以上野菜果物の摂取をすること。
- ②塩分の多い塩蔵魚卵（たらこ、いくら）、塩辛、漬物、魚の干物を食べない。
- ③熱いものは飲まない。などがあります。

それにもまして、ヘリコバクターピロリ菌と言う細菌が胃の中に住んでいる人は、いない人より胃癌になりやすいことがわかってきました。1994年にはWHO（世界保健機構）でピロリ菌が「胃癌の発がん因子」と認定しました。

ピロリ菌は胃の粘膜に生息しているらせん形をした細菌で、胃の中は強い酸性状態なので通常の菌は生息できませんが、ピロリ菌は「ウレアーゼ」という酵素を分泌してアンモニアをつくり、胃酸を中和して生息し続ける、環境に対応できる賢い細菌です。

ピロリ菌の感染が長くなると、胃の粘膜が萎縮して、胃癌が発生しやすくなります。塩分の強い食事をする、胃粘膜を保護する粘液が破壊されます。そこにピロリ菌が長く住みやすいのです。

ピロリ菌の感染経路は完全に明らかになっていませんが、口から入ると感染すると言われています。生活環境が改善された現在では、80%が家族内感染で、しかも5歳以下で起こり、特に母子間が主流であるとされています。また幼少期に感染していなければ、大人になってからの感染は稀であるとも言われています。

ピロリ菌感染の有無は、血液や尿を採取して抗体の有無を調べたり、検査用の薬を飲み吐き出した息を調べる尿素呼気試験などがあります。一度感染が成立すると、除菌しない限り、自然消滅することは稀です。

ピロリ菌を退治するには、まず胃内視鏡検査で「慢性胃炎」あるいは「萎縮性胃炎」と診断されることが必要です。除菌治療方法は、胃酸分泌を抑える胃薬と、抗生物質2種類を1週間服用します。成功率は約70～80%ですが、失敗しても薬の種類を変えて、再度除菌を試みることができます。

ピロリ菌の除菌により胃癌の発生や死亡率の低下が期待されているため、除菌に成功した人

は安心して、その後は胃癌検診を受けないケースもみられます。除菌に成功すると胃癌発症リスクは低下しますが、決してゼロにはなりません。除菌後10年経過して、胃癌を発症する人もいますので、除菌後も定期的な胃内視鏡検査を受けること。少なくとも2年に1度の検査が必要です。

次は大腸癌ですが、お酒は一日2合以上なら、飲まない人の2.1倍リスクが増すといわれており、さらにタバコを吸うと、3倍リスクが増すといわれています。しかし、もっとも興味深いのは、最近のアメリカや日本の調査によると、運動は大腸癌、特に結腸癌の発生を40～50%減らすようです。

ところで、なぜ大腸癌検診（便潜血検査）は必要なのでしょうか？

便潜血陽性者が二次検査の大腸内視鏡検査を受けて発見される大腸癌のうち、7割が早期癌です。それに比べて、症状があっても内視鏡検査をして見つかる大腸癌のうち、早期癌は3割しかなくて、7割近くが進行癌である、というのが、その理由です。よって、年に一度は、便の検査を受けましょう。

他に、乳癌については、とくに閉経後の女性には、イソフラビンを含む大豆製品をたくさん食べるほど、乳癌リスクは抑制されるとされています。大豆については、子宮体癌、前立腺癌にも予防効果があるとされます。

また、食道癌にならないためには、

- ①熱いお茶を飲みすぎない。
- ②多量の飲酒をしない。
- ③喫煙はしない。

他にも、緑茶が胃癌を抑制するとか、適量のベータカロチンが癌を抑制するとか、ビタミンCなどのサプリメントが発癌抑制効果がある、などいろんな説がありますが、確証には至っていません。

しかし癌は、生活習慣の改善でかなりの部分防げるとともに、的確な検査で早期発見できますので、年に一度は検診を受けていただきたいと思います。

2. 心疾患、脳卒中の予防

心疾患、脳卒中にならないためには、おおまかに言って、糖尿病にならないこと、太りすぎないこと、たばこを吸わないことが大切です。

肥満で運動不足の人は、和食中心の食事が必要です。

それは、老化予防、しいては元気に長生きすることにつながります。そのためには、まずはよく噛むことです。

よく噛めば消化にも良いですし、食べすぎ防止にもなります。というのも、早く食べると、血糖値の上がる前に食べてしまうので、満腹感を感じる前に食べ過ぎてしまうのです。

また、最近よく話題になっているものに活性酸素というものがあります。これは人間の体がエネルギーを産生する過程などでどうしても発生するものですが、これが過剰に発生すると、体内の細胞に悪影響を与え、体をさびつかせてしまい、動脈硬化などの病気を引き起こし、老化にもつながります。これを酸化ストレスといいます。鉄が酸化すると、さびるのと同じことです。これに対抗する力を、抗酸化力といいますが、運動にもこの作用があるのは先述しましたが、食べ物の中でこの作用を強く持っているのが、玄米です。

玄米には、抗酸化作用のあるビタミンEをたくさん含んでおり、疲労回復や脳の活性化に良いと言われています。また、食物繊維やカルシウムや鉄なども多く含んでいます。他に抗酸化作用を持つ食品には、黒豆、緑茶、トマト、玉ねぎ、ヤマイモ、そば、赤ワイン、など、あげればきりがありません。他に、代表的な老化を特に防ぐ食物としては、1) ヨーグルト 2) 甘酒 3) 納豆 4) ひじき等があります。

ヨーグルトに含まれる乳酸菌には、体の免疫を高める働きがあります。甘酒は、脳の活性化やアルツハイマー病に有効であるといわれています。納豆は、熟した大豆に納豆菌をつけて発酵して作ったものですが、納豆菌には、血栓をとく働きのある酵素が入っており、脳卒中や心筋梗塞の予防にも有効です。ひじきは亜鉛をはじめ、ミネラルをたくさんふくんでいるので、

老化予防に良いとされます。

次に油についてですが、オリーブオイルがおすすめです。オリーブオイルは、抗酸化作用があり、加熱に強く、善玉コレステロールを増やします。マーガリンなどのいわゆるリノール酸は、植物性だから体に良いと思っている人が多いと思いますが、実はそうでもありません。マーガリンを加工して作る段階で、体にとって有害なトランス脂肪酸が発生し、これは、悪玉のコレステロールを増やします。

ほかに、体に良い油としては、イワシやサバ、サンマなどに含まれるEPA（エイコサペンタエン酸）、DHA（ドコサヘキサエン酸）があり、主に血液をサラサラにする働きがあります。

ビタミンCは、抵抗力をつけますし（いも、さといも、柑橘、いちご、緑黄色野菜）、ビタミンBは、疲労の緩和、美容に良いとされています。（多いのは、こんぶ、にんじん、いも）

ビタミンDはキノコ（他、いわし、干ししいたけ、かつお）にたくさんはいつていますし、マグネシウムとともにカルシウムの働きを助けます。カルシウムは気持ちを落ち着かせる働きがあり、牛乳、小魚、海草、緑黄色野菜に多く含まれています。

3. 三大死因とストレスとの関係

三大死因の予防のために、最近は、ストレス解消の方法をたくさん見つけておき、ストレスをためないようにすることも重要視されています。

ストレスを受けると、副腎から「ストレスホルモン」が分泌され、「自律神経（交感神経）」の活動も活発にし、血圧を上昇させ、脳卒中や心疾患などを引き起こすことがあります。

「癌とストレスの関係」について、国立がん研究センターの研究では、「ストレスを長期間受けている人では、癌を発症するリスクが11%高くなる」ことが明らかになっています。（はっきりしたメカニズムは、解明されていません）

高ストレス状態が続くと、体調や行動が「いつもと違う」ようになり、不眠、食欲低下、頭痛だけでなく集中力の低下、あいさつができない、つきあいが悪くなる、細かいことにこだわ

りすぎる、怒りっぽいなどの症状が出てきて、心療内科への受診も必要になります。

長生きするためには、食生活の改善、運動、禁煙以外にも、ストレスをためないことが重要です。強いストレスは、免疫力を低下させ、体内で、病気が蔓延する可能性があります。ストレスを完全に解消する特效薬はないけれど、たまには「楽観的になる」、「ポジティブになる」、「流れに身を任せる」姿勢が必要ではないでしょ

うか。同時に、コミュニケーション場面で、自分の思いを相手に、上手く伝えるスキルを積極的に身につけていく努力は必要であって、そうすれば感情をコントロール出来て、気分が落ち込むことも少なくなります。

今後の働き方や生活のスタイルも見つめ直し、仕事へのモチベーションを保ちながら心身のリフレッシュに努めましょう。

【プロフィール】

三宅 弘明 (みやけ ひろあき)

平成2年広島大学医学部医学科卒業。

平成6年広島大学医学部附属病院第一内科入局。

平成18年広島県環境保健協会健康クリニック勤務、現在に至る。

「資格」医学博士。内科学会認定医。消化器内視鏡学会専門医。産業医。



令和3年度中国支部第51回定時総会

令和3年4月23日(金)、広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋ホール5Aにおいて、会員会社の代表者、役員その他関係者の出席のもと、第51回中国支部定時総会が開催されました。

令和2年度の事業報告、収支決算の承認に引き続き令和3年度活動計画、予算案の報告が行われました。

総会に引き続き、業務部会委員及びJCCA編

集委員として積極的に支部活動の取組みをされた樋野光宏氏と、技術部会委員として積極的に支部活動の取組みをされた川端千秋氏に「功労表彰」が小田支部長から授与されました。

その後、Webによる協会本部副会長兼専務理事の酒井利夫氏による「最近の建設コンサルタントを巡る状況等について」と題して特別講演が行われました。



第51回定時総会 小田支部長の挨拶



第51回定時総会で功労表彰を受けられたお二人の記念撮影

役員会

●第1回役員会

開催日：令和3年7月16日(金)

於：復建調査設計㈱会議室

- 内 容：(1)総務部会の活動について
(2)業務部会の活動について
(3)技術部会の活動について
(4)厚生部会の活動について
(5)広島県との災害協定について

●第2回役員会

開催日：令和4年1月21日(金)

於：TKPガーデンシティ広島駅前大橋6C

- 内 容：(1)第52回定時総会の開催日程について
(2)第52回定時総会の議案について
(3)その他

役員、常設部会委員の異動

●支部理事

	新支部理事	←	前支部理事
株式会社ウエスコ	北村 彰 秀		松原 利 直

●支部監事

	新支部監事	←	前支部監事
株式会社福山コンサルタント	小 笹 俊 成		上 原 孝 博

●総務部会委員

	新委員	←	前委員
株式会社エイト日本技術開発	西 生 郎		宇 高 了 介

●技術部会委員

株式会社ウエスコ	新委員	←	前委員
	大 川 啓 輔		川 端 千 秋
中電技術コンサルタント株式会社	新委員	←	前委員
	池 上 慎 司		曾我部 淳

●業務部会委員

明伸建設コンサルタント株式会社	新委員	←	前委員
	渡 邊 聖		福 原 真 爾
株式会社荒谷建設コンサルタント	新委員	←	前委員
	中 川 孝 浩		久 保 修 治
株式会社ヒロコン	新委員	←	前委員
	中 田 武		内 海 一 幸
大日本コンサルタント株式会社	新委員	←	前委員
	樋 口 学		橋 本 尚 昌
株式会社長大	新委員		
	和 田 昌 也		
株式会社福山コンサルタント	新委員	←	前委員
	小 笹 俊 成		樋 野 光 宏

●総務部会島根県委員長

	新委員長	←	前委員長
株式会社ウエスコ	清 水 幸 人		福 井 一 彦

●独占禁止法に関する特別委員会

中電技術コンサルタント株式会社	新委員	←	前委員
	平 田 勲		福 原 和 顕
明伸建設コンサルタント株式会社	新委員	←	前委員
	向 井 義 和		寺 本 昭 浩

●JCCA中国編集委員

	新委員	←	前委員
株式会社エイト日本技術開発	檜 崎 拓 也		馬 場 浩

総務部会等の開催

●第1回総務部会・県委員長合同会議

開催日：令和3年6月15日(火)

場 所：復建調査設計㈱6階会議室
会場参加及びリモート参加

議 題：

(1)令和2年度活動報告及び令和3年度の活動について

①総務部会の活動

- ・本部広報戦略委員会報告
- ・支部広報活動について(提案)
- ・土木技術者育成会議報告
- ・高専、大学での業界説明会(報告・予定)
- ・広島県との災害協定締結報告
- ・支部経費削減について(支部旅費)
- ・RCCM資格試験について
- ・災害時対応演習について
- ・建設技術フォーラム開催について

②各県委員会の活動

- (2)第1回役員会について
(3)その他

●第2回総務部会

開催日：令和3年12月22日(水)

場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部
エイトビル2階会議室

議 題：

- (1)令和3年度第2回役員会について
(2)第52回定時総会について
(3)特別講演会開催について
(4)表彰者推薦について
(5)リクルート計画について
(6)広報活動について
(7)その他

●第1回JCCA中国編集会議

開催日：令和3年11月2日(火)

場 所：建設コンサルタンツ協会中国支部
エイトビル2階会議室

議 題：JCCA中国VOL.50の編集について

第24回中国支部若手の会

開催日：令和3年9月1日(水) Web会議

議 題：令和3年度活動内容の検討

第25回中国支部若手の会

開催日：令和3年10月13日(水) Web会議

議 題：活動報告

- ・本部若手の会活動報告
- 全体討議
- ・生産性向上WG
- ・業界PRWG
- ・その他

国土交通功勞表彰

令和3年度の国土交通功勞表彰は、中国地方整備局の令和2年度事業を対象として、令和3年7月20日（火）、ホテルメルパルク広島6階〔瑞雲〕で功勞者の表彰が行われました。中国支部会員の受賞は次のとおりです。

●業務関係受賞者

受賞種別	受賞総数	内会員受賞数	会員比率 (%)
優良業務請負団体局長表彰	32	26	81.25
優良業務請負団体事務所長等表彰	35	29	82.85
計	67	55	82.09
優秀建設技術者局長表彰	32	26	81.25
優秀建設技術者事務所長等表彰	35	29	82.85
計	67	55	82.09
合計	134	110	82.08



国土交通功勞表彰受賞式



中国地方整備局長から会員の受賞

●『国土交通功労者』優良業務履行団体表彰(局長表彰)

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	株式会社 長大	令和2年度岡山国道管内マネジメント業務	岡山国道事務所
	土木	株式会社 長大	山口県南部地域外環境影響検討調査業務	山口河川国道事務所
	土木	令和2年度八田原ダム水質保全対策外計画業務水源地環境センター・建設環境研究所・西日本技術開発設計共同体	令和2年度八田原ダム水質保全対策外計画業務	八田原ダム管理所
	土木	八千代エンジニアリング株式会社	木津川橋梁詳細設計業務	山陰西部国道事務所
	土木	八千代エンジニアリング株式会社	天神川水系水害対応タイムライン検討他業務	倉吉河川国道事務所
	土木	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	鳥取管内トンネル点検業務	鳥取河川国道事務所
	土木	令和2年度呉駅周辺道路整備検討業務長大・日本みち研究所設計共同体	令和2年度呉駅周辺道路整備検討業務	広島国道事務所
	港湾空港	株式会社 エイト日本技術開発	広島港海岸中央西地区陸間等設計業務	広島港湾・空港整備事務所
	土木	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度浜田電線共同溝設計業務	浜田河川国道事務所
	港湾空港	株式会社 エイト日本技術開発	水島港係留施設施工検討等業務	宇野港湾事務所
	補償	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度鳥取西道路(鳥取市桂見外)費用負担説明等業務	鳥取河川国道事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	岡山三川流量観測効率化検討業務	岡山河川事務所
	土木	中電技術コンサルタント株式会社	太田川河道計画外検討業務	太田川河川事務所
	土木	セントラルコンサルタント株式会社	令和2年度広島国道事務所管内交通安全設計他業務	広島国道事務所
	土木	復建調査設計株式会社	令和2年度中国管内幹線道路の役割・機能に関する検討業務	道路部
	土木	復建調査設計株式会社	福山橋梁点検業務	福山河川国道事務所
	土木	株式会社 片平新日本技研	浜田河川国道事務所管内橋梁補修・耐震補強設計業務	浜田河川国道事務所
	土木	株式会社 ウエスコ	広島・可部・呉道路施設点検業務	広島国道事務所
	土木	株式会社 ウエスコ	令和2年度志戸坂峠防災環境調査業務	鳥取河川国道事務所
	土木	株式会社 ウエスコ	令和元年度小田川付替環境調査他業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	山口管内電線共同溝外設計業務	山口河川国道事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	馬洗川畠敷地区排水施設設計業務	三次河川国道事務所
	土木	株式会社 建設技術研究所	苫田ダム定期検査検討業務	苫田ダム管理所
	地質調査	国際航業株式会社	道路防災危険箇所分析評価業務	中国技術事務所
	土木	株式会社福山コンサルタント	三次管内橋梁外点検その1業務	三次河川国道事務所
	土木	パシフィックコンサルタンツ株式会社	日野川水系治水対策検討他業務	日野川河川事務所

●『国土交通功労者』優良業務履行団体表彰（事務所長表彰）

表彰区分	部 門	会 社 名	業 務 名	事務所名
事務所長表彰	土 木	八千代エンジニアリング株式会社	千代川樋門等操作支援検討業務	鳥取河川国道事務所
	土 木	復建調査設計 株式会社	令和2年度国道9号米子外電線共同溝設計検討業務	倉吉河川国道事務所
	土 木	株式会社 ウエスコ	令和2年度頓原維持出張所管内道路附属物点検業務	松江国道事務所
	土 木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	出雲湖陵道路常楽寺地区外測量設計業務	松江国道事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	斐伊川河川管理施設監理検討業務	出雲河川事務所
	土 木	株式会社 ニュージェック	令和2年度志津見ダム事前放流設備施設改良検討業務	出雲河川事務所
	土 木	株式会社 長大	浜田河川国道事務所環境影響評価検討業務	浜田河川国道事務所
	測 量	復建調査設計 株式会社	令和2年度高梁川流量観測業務	岡山河川事務所
	地質調査	株式会社 ダイヤコンサルタント	令和2年度旭川ダム周辺地質調査業務	岡山河川事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	令和2年度岡山国道管内交安事業マネジメント検討業務	岡山国道事務所
	土 木	株式会社 総合技術コンサルタント	平成31年度玉島笠岡道路浜中地区橋梁詳細設計業務	岡山国道事務所
	土 木	大日本コンサルタント株式会社	令和元年度米倉高架橋管理基準検討業務	岡山国道事務所
	土 木	復建調査設計 株式会社	平成31・32年度岡南維持橋梁点検業務	岡山国道事務所
	土 木	パシフィックコンサルタンツ株式会社	芦田川治水計画検討外業務	福山河川国道事務所
	測 量	ダイホーコンサルタント株式会社	令和2年度芦田川河口堰堆砂測量業務	福山河川国道事務所
	土 木	株式会社 片平新日本技研	鍵掛峠道路橋梁詳細設計業務	三次河川国道事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	太田川・小瀬川護岸等変状調査検討業務	太田川河川事務所
	土 木	株式会社 建設技術研究所	令和2年度広島国道事務所管内橋梁補修設計その2業務	広島国道事務所
	地質調査	復建調査設計 株式会社	令和2年度岩国・大竹道路地質調査業務	広島国道事務所
	土 木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	令和2年度東広島・呉道路阿賀地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土 木	株式会社 荒谷建設コンサルタント	広島西部山系八木・緑井地区外測量設計業務	広島西部山系砂防事務所
	土 木	中電技術コンサルタント株式会社	安芸南部山系矢野東地区砂防堰堤予備詳細設計外業務	広島西部山系砂防事務所
	土 木	株式会社 エイト日本技術開発	広島西部山系五月が丘地区外砂防堰堤予備詳細設計業務	広島西部山系砂防事務所
	測 量	株式会社 宇部建設コンサルタント	令和2年度山口管内交通量調査業務	山口河川国道事務所
	土 木	株式会社 ウエスコ	山口東部管内橋梁点検業務	山口河川国道事務所
	土 木	温井ダム・高瀬堰管理フォローアップ検討業務水源環境センター・中電技術コンサルタント設計共同体	温井ダム・高瀬堰管理フォローアップ検討業務	温井ダム管理所
	港湾空港	パシフィックコンサルタンツ株式会社	浜田港福井地区防波堤（新北）施工検討業務	境港湾・空港整備事務所
港湾空港	復建調査設計 株式会社	広島空港滑走路端安全区域用地測量業務	広島港湾・空港整備事務所	

●『国土交通功労者』優良業務履行団体表彰（部長表彰）

表彰区分	部門	会社名	業務名	事務所名
部長表彰	土木	日本工営株式会社	令和2年度中国管内洪水予測システム改良他検討業務	河川部

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	大森 嘉郎	中電技術コンサルタント株式会社	岡山三川流量観測効率化検討業務	岡山河川事務所
	土木	大森 嘉郎	中電技術コンサルタント株式会社	太田川河道計画外検討業務	太田川河川事務所
	土木	小山田 哲郎	株式会社 長大	令和2年度岡山国道管内マネジメント業務	岡山国道事務所
	土木	坂本 和雄	令和2年度八田原ダム水質保全対策外計画業務水源地環境センター・建設環境研究所・西日本技術開発設計共同体	令和2年度八田原ダム水質保全対策外計画業務	八田原ダム管理所
	土木	吉岡 正幸	八千代エンジニアリング株式会社	木津川橋樑詳細設計業務	山陰西部国道事務所
	土木	西浦 清貴	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ	鳥取管内トンネル点検業務	鳥取河川国道事務所
	土木	池水 丈明	令和2年度呉駅周辺道路整備検討業務長大・日本みち研究所設計共同体	令和2年度呉駅周辺道路整備検討業務	広島国道事務所
	港湾空港	後藤 朋子	株式会社 エイト日本技術開発	広島港海岸中央西地区陸側等設計業務	広島港湾・空港整備事務所
	土木	只保 和雄	セントラルコンサルタント株式会社	令和2年度広島国道事務所管内交通安全設計他業務	広島国道事務所
	土木	森 三千浩	復建調査設計 株式会社	令和2年度中国管内幹線道路の役割・機能に関する検討業務	道路部
	土木	竹村 仁志	八千代エンジニアリング株式会社	天神川水系水害対応タイムライン検討他業務	倉吉河川国道事務所
	土木	高 龍	株式会社 片平新日本技研	浜田河川国道事務所管内橋梁補修・耐震補強設計業務	浜田河川国道事務所
	土木	川端 千秋	株式会社 ウエスコ	広島・可部・呉道路施設点検業務	広島国道事務所
	土木	鶴海 誠	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度浜田電線共同溝設計業務	浜田河川国道事務所
	土木	福光 年宏	株式会社 荒谷建設コンサルタント	山口管内電線共同溝外設計業務	山口河川国道事務所
	土木	松下 太郎	株式会社 ウエスコ	令和2年度志戸坂峠防災環境調査業務	鳥取河川国道事務所
土木	吉川 智勝	株式会社 建設技術研究所	馬洗川島敷地区排水施設設計業務	三次河川国道事務所	

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
局長表彰	土木	中村 亮	株式会社 長大	山口県南部地域外環境影響検討調査業務	山口河川国道事務所
	土木	矢野 晶人	株式会社 建設技術研究所	苫田ダム定期検査検討業務	苫田ダム管理所
	地質調査	田中 貴人	国際航業株式会社	道路防災危険箇所分析評価業務	中国技術事務所
	港湾空港	関 勇二	株式会社 エイト日本技術開発	水島港係留施設施工検討等業務	宇野港湾事務所
	土木	野上 和彦	株式会社 福山コンサルタント	三次管内橋梁外点検その1業務	三次河川国道事務所
	土木	小河 健一郎	パシフィックコンサルタンツ 株式会社	日野川水系治水対策検討他業務	日野川河川事務所
	土木	佐貴 方城	株式会社 ウエスコ	令和元年度小田川付替環境調査他業務	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所
	土木	小方 義昭	復建調査設計 株式会社	福山橋梁点検業務	福山河川国道事務所
	補償	伊丹 邦顕	株式会社 エイト日本技術開発	令和2年度鳥取西道路(鳥取市桂見外)費用負担説明等業務	鳥取河川国道事務所
事務所長表彰	土木	山下 健作	八千代エンジニアリング 株式会社	千代川樋門等操作支援検討業務	鳥取河川国道事務所
	土木	山野内 寛和	復建調査設計 株式会社	令和2年度国道9号米子外電線共同溝設計検討業務	倉吉河川国道事務所
	土木	吉澤 景介	株式会社 ウエスコ	令和2年度頓原維持出張所管内道路附属物点検業務	松江国道事務所
	土木	角 義隆	株式会社 荒谷建設コンサルタント	出雲湖陵道路常楽寺地区外測量設計業務	松江国道事務所
	土木	吉川 智勝	株式会社 建設技術研究所	斐伊川河川管理施設監理検討業務	出雲河川事務所
	土木	赤松 利之	株式会社 ニュージェック	令和2年度志津見ダム事前放流設備施設改良検討業務	出雲河川事務所
	土木	安木 進也	株式会社 長大	浜田河川国道事務所環境影響評価検討業務	浜田河川国道事務所
	測量	吉屋 和彦	復建調査設計 株式会社	令和2年度高梁川流量観測業務	岡山河川事務所
	地質調査	金住 健	株式会社 ダイヤコンサルタント	令和2年度旭川ダム周辺地質調査業務	岡山河川事務所
	土木	中原 圭太	株式会社 建設技術研究所	令和2年度岡山国道管内交安事業マネジメント検討業務	岡山国道事務所
	土木	岡本 亮二	株式会社 総合技術コンサルタント	平成31年度玉島笠岡道路浜中地区橋梁詳細設計業務	岡山国道事務所
	土木	横山 広	大日本コンサルタント 株式会社	令和元年度米倉高架橋管理基準検討業務	岡山国道事務所
	土木	天満 真士	復建調査設計 株式会社	平成31・32年度岡南維持橋梁点検業務	岡山国道事務所

●『国土交通功労者』優秀建設技術者表彰

表彰区分	部門	氏名	会社名	業務名	事務所名
事務所長表彰	土木	本多 信二	パシフィックコンサルタンツ株式会社	芦田川治水計画検討外業務	福山河川国道事務所
	測量	藤本 武志	タイホーコンサルタント株式会社	令和2年度芦田川河口堰堆砂測量業務	福山河川国道事務所
	土木	田淵 智秀	株式会社片平新日本技研	鍵掛峠道路橋梁詳細設計業務	三次河川国道事務所
	土木	吉川 智勝	株式会社建設技術研究所	太田川・小瀬川護岸等変状調査検討業務	太田川河川事務所
	土木	光川 直宏	株式会社建設技術研究所	令和2年度広島国道事務所管内橋梁補修設計その2業務	広島国道事務所
	地質調査	木下 博久	復建調査設計株式会社	令和2年度岩国・大竹道路地質調査業務	広島国道事務所
	土木	佐々木真希生	株式会社荒谷建設コンサルタント	令和2年度東広島・呉道路阿賀地区外測量設計業務	広島国道事務所
	土木	大倉 智	株式会社荒谷建設コンサルタント	広島西部山系八木・緑井地区外測量設計業務	広島西部山系砂防事務所
	土木	河井 恵美	中電技術コンサルタント株式会社	安芸南部山系矢野東地区砂防堰堤予備詳細設計外業務	広島西部山系砂防事務所
	土木	岡田 淳平	株式会社エイト日本技術開発	広島西部山系五月が丘地区外砂防堰堤予備詳細設計業務	広島西部山系砂防事務所
	測量	長安 哲也	株式会社宇部建設コンサルタント	令和2年度山口管内交通量調査業務	山口河川国道事務所
	土木	田中 秀治	株式会社ウエスコ	山口東部管内橋梁点検業務	山口河川国道事務所
	土木	坂本 和雄	温井ダム・高瀬堰管理フォローアップ検討業務水源地環境センター・中電技術コンサルタント設計共同体	温井ダム・高瀬堰管理フォローアップ検討業務	温井ダム管理所
	港湾空港	寺島 彰人	パシフィックコンサルタンツ株式会社	浜田港福井地区防波堤(新北)施工検討業務	境港湾・空港整備事務所
港湾空港	岩根 滉	復建調査設計株式会社	広島空港滑走路端安全区域用地測量業務	広島港湾・空港整備事務所	
部長表彰	土木	山下 大輔	日本工営株式会社	令和2年度中国管内洪水予測システム改良他検討業務	河川部

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●大森 嘉郎 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社
職 位：河川砂防部 計画グループ 担当部長
趣 味：サッカー観戦、釣り



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施した「岡山三川流量観測効率化検討業務」に対して中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、高水流量観測の浮子測法について、施設能力を上回る恐れのある洪水で観測員の安全確保のためやむを得ず観測を一時中断せざるを得ない場面でも、観測データを欠測させない手法として画像解析や電波流速計などの非接触型の流量観測の有効性について検討したものです。

業務の履行体制として若手技術者とベテラン技術者

を配置したことで、斬新な発想と堅実な対策を組み合わせることでシナジー効果が発揮できたことは奏功した点です。ご協力いただいた業務担当者に心から感謝の意を表します。

非接触型の流量観測は、実用化に向けて日進月歩で進展している技術であり、引き続きデータの蓄積や技術開発により精度向上が求められています。今後もこの受賞を励みとし、今後もインフラ整備に貢献できるよう自己研鑽と技術力の向上に努めたいと考えております。

最後になりましたが、業務期間中、ご指導賜りました岡山河川事務所の関係者の皆様には心より厚く御礼申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●大森 嘉郎 氏

会社名：中電技術コンサルタント株式会社
職 位：河川砂防部 計画グループ 担当部長
趣 味：サッカー観戦、釣り



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施した「太田川河道計画外検討業務」に対して中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、太田川水系河川整備計画作成（国管理区間）を目標とした河川整備計画に関する検討、太田川水系河川整備計画学識懇談会及び住民説明会の運営補助を行ったものです。

河川整備計画の検討は、治水、利水、環境そして維持管理と検討内容が多岐に亘りますが、知識、経験が豊かで、モチベーションの高いメンバーが団結

して取り組むことで、良い成果が収められたと考えています。また、学識者懇談会、住民説明会では、業務担当者以外の社内の支援者にもご協力いただき、ここに感謝の意を表します。

この受賞を励みとし、今後もインフラ整備に貢献できるよう自己研鑽と技術力の向上に努めるとともに、引き続き、次世代に向けた人材育成や技術継承にも取り組んでいきたいと考えております。

最後になりましたが、業務期間中、ご指導賜りました太田川河川事務所の関係者の皆様には心より厚く御礼申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●小山田 哲郎 氏

会社名：株式会社長大
職 位：第2計画事業部 第4計画部 チーフ
趣 味：モータースポーツ観戦



●受賞業務の概要と感想

本業務では、地域の道路課題の把握、道路の必要性検討、道路整備や渋滞対策の効果検証を行うとともに、これらの結果を委員会資料、広報資料等にとりまとめることで、道路行政の取組み周知を支援いたしました。

国道2号倉敷立体4車線完成の整備効果広報では、完成3か月後と完成半年後の節目での記者発表を支援いたしました。沿線事業所や住民のみならず、市民のヒアリング結果をETC2.0プローブ等の多様なデータで裏付けし、地域の特性に即した整備効果の発信に努

めました。また、整備中の道路においては、工事の様子やトンネル貫通の瞬間をドローンやビデオカメラで撮影し、道路事業推進のPRに資するムービーを作成しました。一般の方の興味を引くような編集を心掛け、動画共有サイトで発信したムービーは多くの方にご覧いただけました。

今回の受賞を励みに今後とも一層の技術力向上に努め、社会資本整備に貢献して参ります。最後になりましたが、関係者の皆様にはご指導・ご協力を賜り、深くお礼を申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●吉岡 正幸 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社

職 位：広島支店 技術部 部長

趣 味：散歩



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「木津川橋橋梁詳細設計業務」に対して、中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、山陰道の一部を形成する一般国道491号 俵山・豊田道路における木津川橋（橋長L=338m）〈PC6径間連続ラーメン箱桁橋〉の詳細設計を実施したものです。

本業務では、橋梁全体を3次元モデル化し、上・下部工の施工ステップに時間軸を属性付与した4Dモデルを作成し、施工計画に活用しました。また、上部

工桁端部や柱頭部の鉄筋およびPC鋼材などが過密となる箇所にもCIMモデルを活用した干渉の照査を実施し、鉄筋とPC鋼材などの干渉の回避を行いました。このほか、関係機関協議にもCIMモデルを活用したことにより、協議先関係者の理解度の向上を図り円滑に協議を終えることが出来ました。

今後は後続業務のことを踏まえ、設計段階でのCIMの活用方法について、事業関係者の作業の効率化、生産性の向上に繋がるかを判断しながら設計業務を実施していきたいと考えています。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●西浦 清貴 氏

会社名：株式会社オリエンタルコンサルタンツ

職 位：関西支社 地下構造部 担当次長

趣 味：ドライブ



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が担当した「鳥取管内トンネル点検業務」に対し、中国地方整備局整備局長より優良業務履行団体表彰、優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。また、業務を通してご指導をいただきました鳥取河川国道事務所の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本業務は、鳥取河川国道事務所管内のトンネルに対する定期点検を行ったものであり、2巡目の点検として、2か年で実施したものであります。トンネルを含め老朽化するインフラのメンテナンスは全国的な課題であり、本業務においても、インフラの健全性

を高めつつ維持管理費用を削減することが重要な課題でした。

本業務では、各トンネルを管理する維持出張所、補修施工業者と連携し、必要な措置を点検後迅速に提案、円滑な補修工事対応につなげるともに、発注者と受注者が一体となって取り組みながらトンネルの健全性の確保と、維持管理の効率化という対極する課題を解決したことが評価されたものと考えております。

今後はこの表彰を励みにより一層の努力と、皆様に信頼されるよう真摯な対応と技術の向上に努めてまいります。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●池水 文明 氏

会社名：株式会社長大

職 位：エグゼクティブ・マネージャー

趣 味：カレー



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度呉駅周辺道路整備検討業務」に対して、中国地方整備局より優良業務履行団体表彰ならびに優良建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、呉駅周辺における交通結節点事業に伴う基本設計、事業化に向けた整備効果検討、事業計画の立案及び事業手法の検討、検討会運営等を実施しましたが、地方都市では先駆けとなるバスタブプロジェクトの検討であったため試行錯誤の連続でした。

事業化に向けて関係機関調整等も多く非常にタイトなスケジュールで履行する中、多岐に渡る専門的な知識も必要とされたため、交通計画・都市計画・構造設計・建築など多分野の技術者が一丸となって対応した点を評価して頂けたと感じています。

広島国道事務所や本局道路部道路計画課の皆様をはじめ、ご協力頂きました関係機関の皆様にはご指導・ご協力を賜り、この場を借りて深くお礼を申し上げます。今後は、この受賞を励みとして更なる技術力向上に尽力したいと考えています。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●後藤 朋子 氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：国土インフラ事業部 広島支店 河川・港湾グループ グループサブマネージャー

趣 味：テニス・映画鑑賞



●受賞業務の概要と感想

広島港海岸整備は、広島沿岸域を台風・高潮及び津波、大規模地震後の液状化等から人口、資産を守るために実施されており、護岸背後の関係者と調整を図りながら事業が実施されています。今回実施した業務は、その中の一部であり、背後施設を高潮より守るため護岸・陸間を背後関係者と調整を図りながら検討を行ったものです。計画立案にあたっては、広島港湾空港

整備事務所の調査職員の皆様のご助言と背後関係者のご理解を頂きつつ、何とか当社なりの提案もできたものと思います。

今後とも、発注者の皆様の鋭いご指摘・ご要望に対応できる会社・技術者となるべく、関係者一同頑張っていきたいと思います。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●只保 和雄 氏

会社名：セントラルコンサルタント株式会社

職 位：大阪支社 道路交通部 部長

趣 味：スポーツ観戦



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施致しました「令和2年度広島国道事務所管内交通安全設計他業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠に光栄に存じます。業務期間を通じ御指導頂きました広島国道事務所の皆様方には心より御礼申し上げます。

本業務は、広島国道事務所管内において、道

路利用者の安全確保や道路交通環境の改善に向けた交通安全対策事業の推進を目的としたものですが、業務の特性として多岐にわたる課題に対し、迅速性および正確性を持って事業スケジュールに即し柔軟な対応に努めたことが高評価につながったものと考えております。

今回の受賞を励みに、さらなる研鑽と技術力向上に努め、社員一丸となり社会資本の整備に貢献して参ります。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●森 三千浩 氏

会社名：復建調査設計株式会社

職 位：総合計画部 道路計画課 課長補佐

趣 味：ドライブ



●受賞業務の概要と感想

この度は「令和2年度中国管内幹線道路の役割・機能に関する検討業務」に対して、優良業務履行団体表彰及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。

本業務は、中国管内における地域や幹線道路の現状や課題、将来像を整理するとともに、新たな広域道路ネットワークの強化の方向性を踏まえて、中国ブロック版の新たな広域道路ネットワーク計画(案)をとりまとめました。

新たな広域道路ネットワーク計画(案)のとりまと

めに関しては、数多くの関係者との調整が必要不可欠であるため、発注者の方々と活発な議論を行いながら、関係者との円滑な調整ができるよう説明力のある質の高い成果の作成に努めました。

今回の受賞を励みとし、今後も技術者として成長していけるように日々精進して参ります。

最後になりましたが、業務遂行にあたり、ご指導いただきました中国地方整備局道路部道路計画課の方々、業務に関わった担当者一同、的確なアドバイスをいただいた諸先輩方に、心より感謝致します。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●竹村 仁志 氏

会社名：八千代エンジニアリング株式会社
職 位：名古屋支店 河川・水工部 部長
趣 味：犬の散歩



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「天神川水系水害対応タイムライン検討他業務」に対して、中国地方整備局長より優秀技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務では、天神川流域を対象として、水害時の逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目的として、大規模氾濫に対応するための多機関連携型タイムラインを作成しました。市町や関係機関へのヒアリングを行い、タイムラインの成果として、1) 担当者が水害時の行動を漏れなく確認できる詳細版、2) 水位上昇の速い天神川の特徴を踏まえて、限られた時間

の中で班長や責任者が俯瞰的に行動を確認できる総括版、3) タイムラインの全体像を確認できる概要版、4) 関係機関が手間なく防災情報を収集でき、河川管理者のメール配信も支援するエクセルツール、5) 関係機関が共通で使用できるUTMグリッドを用いた図面を作成しました。また、タイムラインの作成のために、発足式、検討会、完成式の資料作成及び会場準備・運営を実施しました。

今後は、出水時のタイムラインの実運用状況を踏まえ、各関係機関の意見や要望を確認しながら、より実態に即したタイムラインにすることが重要と考えています。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●高 龍 氏

会社名：株式会社片平新日本技研
職 位：中国支店長
趣 味：ジョギング、スキー



●受賞業務の概要と感想

本業務は、浜田河川国道事務所管内の補修設計・耐震補強設計を行ったもので、当初は補修設計8橋、耐震補強設計7橋であったが、一般国道9号の江の川を渡河する江川橋について、緊急対応の補修設計が追加となった。江川橋は昭和24年に竣工された橋で、単純RCT桁橋（5連）と13径間鋼ゲルバー 2主桁橋で構成された橋長488.7mの橋梁である。補修工事の際に全面足場が設置され、その際詳細調査が行われた結果を基に、交通供用下で主桁の腐食損傷に対してL

形鋼を補強部材として設置する工法を検討した。また端支点部の主桁の腐食が著しい部位に対しては、応急対策工事を提案し設計と並行して工事が進められた。供用後70年経過した橋梁で、架け替えも視野に入れながら余寿命を少しでも延命し、当面の供用性を維持するために高い技術力が必要な業務であった。社内外の諸先輩方及び発注者様など、多くの方々にご指導頂き、無事設計を終えることができました。

ここに感謝の意を表します。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●川端 千秋 氏

会社名：株式会社ウエスコ
職 位：執行役員 支社長
趣 味：読書、ウォーキング



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施致しました「広島・可部・呉道路施設点検業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀技術者表彰を賜りました。業務履行にあたっては、ご指導いただきました広島国道事務所の皆様へ厚く御礼申し上げます。

本業務は、いわゆる2ヵ年業務で、広島国道事務所管内の道路施設を対象とする点検・現地調査・資料作成でした。防災点検、土工構造物点検、大型カルバート点検、門型標識点検を主とし、防災データベース更新、道路施設に関する緊急点検も対応しました。業務

履行中は、緊急連絡用で24時間電話を携帯し、それを目覚まし時計として利用していました。今でもその癖が抜けません。落石事案や豪雨時には夜中に鳴ることもありました。当然、私一人で対応できる訳もなく、その時点で最適な対応を担当者全員が迅速に行いました。今回は、ここを見て頂いたこと、早め早めの段取りや提案を評価して頂いたものと思います。

今回の受賞を励みに、これからも社会資本の維持、整備のために微力ながら貢献していきたいと考えています。今後とも皆様方のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●鶴海 誠 氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：国土インフラ事業部 浜田支店 道路・構造グループ グループマネージャー

趣 味：スポーツ観戦、ランニング



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「令和2年度浜田電線共同溝設計業務」に対して、中国地方整備局長表彰を賜り、誠にありがとうございました。業務を通してご指導いただきました浜田河川国道事務所の皆様には心より感謝いたします。

本業務は、浜田電線共同溝事業区間の3地区において、電線共同溝設計と歩道設計を実施しました。電線共同溝の配置計画では、上水道管やガス管の支障移転を極力少なくするため特殊部の形状検討を行いました。また、管路計画では基準の埋設深さが確保

できない浅井川渡河部において浅層埋設の防護方法を検討しました。特に、地上機器の設置計画では、歩道内に設置する地上機器が歩行者等の見通しに支障となることから、模型を現地に再現することによって見通しを検証しました。これらの現地に配慮した電線共同溝の設計が評価されたものと感じております。

今回の受賞を励みに、一層の自己研鑽と技術力向上に努め、良質な社会資本整備に貢献していきたいと考えています。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●福光 年宏 氏

会社名：株式会社荒谷建設コンサルタント

職 位：上席技師長

趣 味：ジャズギター、農業



●受賞業務の概要と感想

業務は、山口河川国道事務所管内における電線共同溝予備設計及び管内の修繕設計・測量・調査・設計を行ったものです。この度の受賞は国土交通省の方々のご指導もあり、この光栄に浴することができました。関係者のみなさんに深く感謝しております。

電線共同溝、越波対策、斜面崩落対策、海岸護岸補修、函渠修繕、落石対策、法面・路面変状対策、コンクリート舗装計画などの種々の設計とそれに付随した測量、地質調査を行いました。高評価のポイントとしては多岐に渡る検討課題に対して社員一丸となって業務を迅速に対応したこと、現地調査、解

析などは新たな調査、設計手法による積極的な提案とそれを実行したことだと思います。またUAV・MMS、各種解析シミュレーションの活用により業務の効率化と精度向上を図ることや、業務中に発生した国道法面の崩壊などは調査・測量・設計部隊が現地に直行し緊急対応したことなども評価されたものと思います。苦労した点としては、天候に関係なく現地に何度も赴き現地状況の把握に努めたことや、越波対策では管内全域での統一した対策工選定プロセスの模索や実際の対策決定までの過程で試行錯誤を繰り返したことなどが挙げられます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●松下 太郎 氏

会社名：株式会社ウエスコ

職 位：環境計画事業部 岡山環境計画課 課長補佐

趣 味：マラソン、コーヒー



●受賞業務の概要と感想

この度は、「令和2年度志戸坂峠防災環境調査業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、鳥取県と岡山県の県境に位置する一般国道373号志戸坂峠防災事業において、自主的な環境影響評価に資するため、生活環境と自然環境の調査を行ったものです。高標高地の特性や県境道路の事業域性による通年調査計画の立案、高い自然度をふまえた重点化調査、予測評価を見据えた結果整理を行いました。高標高地のため調査適期までに時間が

なく、両県にまたがるため地元や有識者、関係機関調整などが多岐にわたる状況でした。受発注者間の密な連携のもと、迅速な計画立案や同時進行での関係者間調整、有識者ヒアリングにより、遅延やトラブルなく確実に調査が実行でき、円滑に次の予測評価等へ引き継いだ事が評価を頂いた点だと思っています。

今回の受賞を励みに、今後も一層の自己研鑽と技術力向上に努め、社会資本整備に貢献していきたいと考えています。最後になりましたが、業務を通してご指導頂いた鳥取河川国道事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●吉川 智勝 氏

会社名：株式会社建設技術研究所
職 位：大阪本社 水工部 参事
趣 味：映画やMVの鑑賞



●受賞業務の概要と感想

この度は、「馬洗川畠敷地区排水施設設計業務」に対し、優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。業務遂行にあたり、ご指導をいただいた三次河川国道事務所職員の皆様や関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本業務は、平成30年7月豪雨により内水被害が発生した一級河川江の川水系馬洗川の右岸4.5k付近に位置する「畠敷救急内水排水機場のポンプ増強」（内水被害を定めて発足した願万地地区内水対策検討会で決定した国・県・市の三者連携による内水対策メニューの一つ）

を目的に、既設排水機場の改修設計を行ったものです。設計では、「吸水槽の土留矢板を側壁兼用とする構造案（コンクリートと鋼矢板の複合構造）の採用」、「水位条件維持のための頂版の版下げ」、「防油堤一体型地上式貯油槽の採用」などの既存施設の活用、コスト縮減、工期短縮の観点に立った工夫や、地元説明用の3Dパース作成、施工計画や施工区分の合同現地確認などの後工程に配慮した工夫を致しました。

今回の受賞を励みとし、継続的な自己研鑽に努め、常に地元目線を忘れずに、安全・安心社会の構築に貢献したいと考えています。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●中村 亮 氏

会社名：株式会社長大
職 位：環境事業部 事業部長
趣 味：－



●受賞業務の概要と感想

この度は、弊社が実施しました「山口県南部地域外環境影響検討調査業務」に対し、中国地方整備局長より「優秀建設技術者表彰」ならびに「優良業務履行団体表彰」を賜り、誠にありがとうございました。ご指導いただいた山口河川国道事務所の皆様、一緒に業務に携わった同僚に、深く御礼を申し上げます。

本業務は柳井・平生バイパスの環境アセスメ

ントを主としながら山陰道大井萩間、三隅長門間、岩国大竹道路、下関北バイパス、柳井バイパスなど多くの事業の課題対応を実施したり、委員会運営に携わったことが評価に繋がったものと考えております。

この受賞を励みとし、今後のインフラ整備に貢献するとともに技術継承にも取り組んでいきたいと考えております。今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●矢野 晶人 氏

会社名：株式会社建設技術研究所
職 位：大阪本社 ダム部 グループリーダー
趣 味：映画鑑賞、寺社仏閣巡り



●受賞業務の概要と感想

この度は、「苫田ダム定期検査検討業務」に対し、中国地方整備局長より優良業務履行団体表彰及び優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございます。本業務を遂行するにあたり、苫田ダム管理所職員の皆様には様々な御指導、御支援を頂きました。この場をお借りして、心より御礼を申し上げます。

本業務は、3年に1度実施されるダム定期検査に関して、現地調査、挙動解析等を行い、健全

度を評価したものです。業務においては、重力式コンクリートダム、表面遮水型ロックフィルダムの2基を管理している苫田ダムの現状や課題を踏まえた上で、ダムを安全・確実に管理していくために必要な、モニタリング方法、関連施設の補修設計等を行いました。

メンバー一同、今回の受賞を大きな励みとし、今後も自己研鑽に努め、安心・安全な社会資本整備に貢献していきたいと思っております。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●田中 貴人 氏

会社名：国際航業株式会社

職 位：西日本国土環境保全部 地質グループ 防災チーム長

趣 味：寺社仏閣巡り



●受賞業務の概要と感想

この度は「道路防災危険箇所分析評価業務」に対し、優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、誠にありがとうございました。

本業務は、岡山・広島県下の直轄国道を対象として、航空レーザ測量で得られた精緻な地形データを活用し、直轄国道へ影響を及ぼす恐れのある危険箇所の抽出、分析、評価を行うことにより、道路の安全性向上を図ることを目的とした業務です。

道路防災点検における従来からの課題であった危険箇所の見逃し防止に対し、全面的にレーザ測量

データを活用した先進的な取り組みであり、災害リスクを的確に把握するための「微地形表現図」への工夫のほか、我が社の得意とする空間技術を活かした提案が評価されたものと考えております。

この度の受賞を励みに、今後も技術者としてより一層の技術研鑽に努めて参ります。

最後になりましたが、業務遂行にあたりご指導賜りました中国技術事務所の皆様ならびに業務関係者の皆様に心より感謝するとともに、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●関 勇二 氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：国土インフラ事業部 事業部長

趣 味：スポーツ観戦



●受賞業務の概要と感想

この度は「水島港係留施設施工検討等業務」に対し、優良業務及び優秀建設技術者表彰を賜り誠にありがとうございます。

本業務は水島港の新たな係留施設について予備設計（構造形式抽出、概略設計、施工方法検討）を行ったものです。設計・施工条件がほとんど与えられない中、計画地が民間所有の岸壁に隣接するため、基本・詳細設計に入った段階で施工不可とならないことや大きな構造変更がないことが最優先事項でした。

条件設定に当たりマルチチームでの深淺測量やUAVによる空撮を行い海域・陸域の地形を把握したこと、説明資料としてBIM/CIMによる施工ステップ図を用いたことなど、積極的に提案したことが評価につながったものと考えます。

今回の受賞にあたりご指導いただきました中国地方整備局宇野港湾事務所の皆様、一緒に業務を行った担当者に心より感謝いたします。今後とも技術研鑽に努めて参ります。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●野上 和彦 氏

会社名：株式会社福山コンサルタント

職 位：取締役 北九州本社長

趣 味：サウナ



●受賞業務の概要と感想

本業務は、三次河川管内の国道54号及び尾道松江線における38橋の橋梁と3基の洞門に対する定期点検と第三者被害予防措置点検を行うことを主目的とした業務でした。

業務のなかでは、事務所の方々より様々なご相談をいただき、定期点検以外のことも対応させていただくことができました。点検業務の一方で、多くのご要請をいただいたお陰で、新たな知見や技術を得ることができ、大変有意義な業務を経験させていた

いただきました。事務所の方々には、大変、感謝し、お礼を申し上げたいと思います。

点検業務は、補修設計や補修工事の基礎資料となるメンテナンスの基本データであるため、その正確性が重要であり、損傷を確認、把握するとともに仮説した原因に対する検証、立証する観察力が求められます。そのことを念頭に本業務においては、実績や優位性のある既存の手法や技術に加えて、新たな技術も取り込みながら、点検技術のスパイラルアップと高度化の推進を考え取組みました。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●小河 健一郎 氏

会社名：パシフィックコンサルタンツ株式会社
職 位：中部支社 中部国土基盤事業部 部長
趣 味：ランニング・出張



●受賞業務の概要と感想

この度、弊社が実施しました【日野川水系治水対策検討業務】に対して中国地方整備局長より優良業務及び優秀技術者表彰を頂きまして、誠にありがとうございます。業務を通じてご指導頂きました日野川河川事務所の関係者の皆様には、心より厚く御礼申し上げます。

本業務は日野川の中上流部の河川整備上のネック箇所となっている五千石堰付近の改修方策を複数案立案し、治水・利水・環境・維持管理面での比較検討を行い最適案を検討したものです。改修案の検討

に当たっては、各種シミュレーションを実施し定量的な評価を心掛け、事務所職員の皆様、中国地方整備局の皆様と活発な意見交換を通じた業務プロセスが高い評価を頂いたものと考えていますし、弊社担当者として事務所職員の皆様とのチームワークの賜物とも思っております。

今回の受賞を励みに、土木技術者として更なる資質向上に努め、社会資本整備に貢献するとともに、次世代を見据えた人材育成にも取り組んでいく所存であります。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●佐貫 方城 氏

会社名：株式会社ウエスコ
職 位：環境計画事業部 岡山環境計画課 課長補佐
趣 味：園芸、キャンプ



●受賞業務の概要と感想

この度は「令和元年度小田川付替環境調査他業務」に対し中国地方整備局長より優良業務表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

本業務は小田川合流点付替え事業に係る法アクセス手続き後の環境管理として大気環境、水環境、動植物、生態系の現地調査を実施し、委員会運営補助等を行ったものです。高梁川水系小田川沿川では、平成30年7月豪雨に伴い甚大な被害を受けました。再度災害防止を図るため事業の完成前倒しなどハード対策を2023年度を目標に実施されています。タイトなスケジュールで工事が進む中、環境保全措置の実施

確認に加え、工事進捗に合わせた対応の随時提案が必要でした。築堤工事の影響が大きい時期の騒音・振動調査、重要度の高い猛禽類等への工事影響の確認など、学識者意見も踏まえた迅速かつ確な対応により円滑な事業進捗に繋がったことが評価を頂いた点かと思っております。

今回の受賞は心から嬉しく思っています。持続可能でより良い社会の実現に向け、今後も自己研鑽を重ね、責任を持って社会に貢献していきます。業務を通してご指導頂きました高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所の皆様には心より御礼申し上げます。

◇優秀建設技術者のプロフィール

※中国地方整備局長表彰

●小方 義昭 氏

会社名：復建調査設計株式会社
職 位：保全構造部 保全技術課 主任エンジニア
趣 味：子供に遊んでもらうこと、野球観戦



●受賞業務の概要と感想

この度は福山河川国道事務所発注の「福山橋梁点検業務」において中国地方整備局長表彰を賜り、ありがとうございました。

本業務では、直轄国道の橋梁について定期点検及び第三者被害予防措置を実施し安全・円滑な交通を確保するとともに、老朽化が進んだ橋梁の緊急点検及び損傷の原因を明らかにするための各種調査を実施しました。点検では、点検成果の品質確保に努めるとともに損傷の見落としがない取組みを実施しました。また、交通規制が伴う点検では、交通事故が発生しないよう各関係機関と十分に調整を図ると

もに、沿道に対して騒音等によりクレームが発生しないよう配慮しました。緊急点検では、発注者側から連絡を受けた当日に第三者被害予防措置及び応急措置を行い、桁下の安全性を確保しました。

道路保全事業に従事してまだ日の浅い私ですが、今回の受賞が励みになりました。今後はより一層の自己研鑽に努め、業務に従事して参りたいと考えています。

最後になりますが、業務を通じてご指導頂きました福山河川国道事務所の関係者の皆様、真夏の点検現場で頑張ってくれた橋梁点検員の皆様及びご尽力頂きました各関係者の皆様には心より感謝を申し上げます。

◇ 優秀建設技術者のプロフィール

※ 中国地方整備局長表彰

● 伊丹 邦顕 氏

会社名：株式会社エイト日本技術開発

職 位：計測・補償事業部 中国支社 補償グループ グループサブマネージャー

趣 味：お酒、野球観戦



● 受賞業務の概要と感想

この度、「令和2年度鳥取西道路（鳥取市桂見外）費用負担説明等業務」に対し、中国地方整備局長より、優良業務履行団体表彰ならびに優秀建設技術者表彰を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、業務履行において、多大なご指導をいただきました鳥取河川国道事務所の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本業務では、鳥取西道路事業に係る工事に起因する地盤変動により損傷等の生じた建物等の権利者に対し、費用負担額の算定内容等の説明、追加調査及び追

加算定を行いました。

本業務の履行にあたり、コロナ渦の中、自社独自の感染対策を実施し、地元関係者を最優先とする安心・安全の確保に配慮した検討と対策に加え、鳥取西道路関連業務全体の進捗管理に重点を置き、調査・点検・説明を一括管理するスケジュール管理表を提案しクリティカルパスを早期段階で把握することに努めました。

今回の受賞を励みとし、これからもなお一層の自己研鑽と技術力向上に励み、社会資本整備に貢献することも、若手技術者の技術力やモチベーションの向上に努めて参りたいと思います。



令和3年度鳥取県委員会主要活動報告

鳥取県委員会 下山 勉

1. 建コン協鳥取BIM/CIM勉強会 (第6回目)

- (1)日時 令和3年9月29日(水)
13:00～17:00
- (2)場所：鳥取県立倉吉未来中心セミナー R3
- (3)内容：①BIM/CIM等の活用拡大の取組について
②鳥取県におけるBIM/CIM業務について
③はじめから3次元で設計をするためには
④BIM/CIMの取り組みについて
⑤AIの取り組みについて
⑥RPAの取り組みについて
- (4)講師：①村上建設専門官
(国交省中国地方整備局企画部)
②藤井参事・岡係長
(鳥取県県土整備部)
③亀田氏(復建調査設計)
④宮内氏(アサヒコンサルタント)
⑤三上氏(エイト日本技術開発)
⑥足田氏・山本氏(シンワ技研)
- (5)参加者：会場：建コン26名、鳥取県職員3名
WEB：建コン51名、鳥取県職員6名
合計：建コン77名、鳥取県9名



鳥取県意見交換会 中国支部WEB参加



同会 鳥取県委員会対面



鳥取大学講義室 WEB説明会状況

2. 鳥取県との意見交換会

令和3年11月1日(月)、鳥取県庁において、鳥取県と建コン協会中国支部及び鳥取県委員会の意見交換会が開催されました。

鳥取県からは県土整備部の森田部長をはじめ6名の幹部職員等が、中国支部からはWebで小田支部長、金本業務部会長、吉岡同副部会長が、鳥取県委員会は対面方式で下山委員長をはじめ5名の委員の計8名が出席しました。

今回は、「担い手確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目について意見を交わすことができました。

3. 鳥取大学へのWEB業界説明

令和3年12月10日(金)鳥取大学工学部と農学部へ業界説明会を実施いたしました。今年度もコロナウイルス感染対策により中国支部別館よりWEB方式での業界説明会を開催いたしました。学生は講義室以外に自宅からも参加していただきました。来年は対面式にて行えればと思っております。

講師：高濱総務委員、杉山総務委員、
武田氏・岡本氏(若手の会)以上4名
参加者：17名

4. 高校への業界PR

鳥取県東部地区の3校に建設コンサルタントの業務紹介を行いました。当日は進路指導教諭に建コン協のパンフレット等を使用して説明を行い今後の進路指導に役立ててもらえるよう願いました。

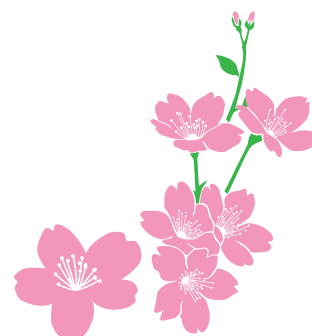
訪問先高校

- ①鳥取県立鳥取西高等学校 21.11.11 訪問
- ②鳥取県立鳥取東高等学校 21.11.29 訪問
- ③鳥取県立鳥取工業高等学校
「22.02にWEB説明会(30分)予定」



②鳥取東高等学校 進路指導：矢部敦子教諭
※建コン鳥取 澤・下山の二名が訪問

以上



令和3年度災害時対応演習

災害時対応演習は、「災害時行動計画」に基づき、災害対策本部、災害対策現地本部、並びに各災害対策支部が参加して、大災害の発生を想定して演習を行いました。本年度は三重県熊野灘沖を震源とする大規模地震・津波が発生したことを想定して、災害対策中国支部を設置、地

震発生時における災害対策が円滑に遂行され、協会会員並びに被災地域の要請に対して的確に対応することを目的に実施しました。中国支部内では会員会社へ災害対策本部からの応援要請を受け中部地方の被災箇所へ応援協力体制の確認等を行いました。

地震発生の概要

地震発生日時：令和3年9月1日(水) 11:00

地震発生地域：三重県熊野灘沖(海溝型)

発生規模：熊野灘沖を震源とするM9.0の地震が発生し、静岡県御前崎市・愛知県南知多町・三重県津市で震度7、静岡県・愛知県・岐阜県・三重県4県40市町村で震度6を観測したほか、関東地方から四国地方にかけて広い範囲で震度5～1を観測した。またこの地震に伴い震源域に近い尾鷲市で9.0m以上の非常に高い津波を観測するなど、関東地方から四国地方の太平洋側を中心に北海道から沖縄県にかけて広い範囲で津波を観測した。

被災状況：(1)人的被害：死者・行方不明者数 17,854名

(愛知県：6,572人、三重県：6,092人、静岡県：4,425人、岐阜県765人)

(2)建物被害：全壊棟数168,620棟

(愛知県：82,660棟、三重県：25,965棟、静岡県：59,160棟、岐阜県：835棟)

(3)土砂災害：急傾斜地崩壊等 749箇所

(愛知県：232箇所、三重県：298箇所、静岡県：133箇所、岐阜県：86箇所)

(4)高速道路被害：東名・新東名・名神高速道路、伊勢湾岸道、名古屋高速道路、東名阪道、伊勢道、紀勢道等の広範囲で、路面亀裂・陥没・クラック・路面段差等の損傷が各所で発生

(5)道路被害：国道をはじめ道路破壊578箇所、橋梁300箇所の被害により各地で通行止め、また放置車両等により交通麻痺発生

(6)河川被害：堤防決壊、岸壁破壊、船舶流失等被害が多数発生

(7)鉄道被害：東海道新幹線、在来線及び私鉄において運転休止が発生

(8)上下水道：震度7～6の広範囲にて510万戸以上が断水

(9)電力：中部電力エリアの広範囲において停電が発生し、1週間不安定な状況

(10)通信：発災直後より285万回線が影響を受け、輻輳の影響で80～90%の通信規制が実施される

注) 現地本部となる中部支部が現有施設または近隣会員施設において速やかに災害対応に当たることが可能であることを前提とした。

演習の主目的

演習の主眼は連絡・伝達網及びその機能のチェックとする。

(1)本部(災害対策本部)と支部(災害対策中部現地本部ならびに他の全支部の災害対策支部)との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討する。

(2)支部(災害対策中部現地本部ならびに他の全支部の災害対策支部)と会員各社との連絡網が正常に機能できるか否かを検討する。

(3)会員会社は出来るだけ同時に各社ごと演習を行い、その成果を検証する。

中国支部独自の演習

中国支部は、災害対策中国支部を復建調査設計㈱会議室に立ち上げ本部との連絡体制の確認を行いました。

また、中国支部独自の取り組みとして災害対策支部設置及び本部から要請のあった中部支部管内の支援について会員各社からの支援について正常に機能できるか否かを確認しました。今年度は、36社の参加がありました。



災害対策中国支部の演習状況写真



講習会等

●建設技術フォーラム2021 in ちゅうごく

「建設技術フォーラム2021 in ちゅうごく」は、令和3年11月18日（木）～11月19日（金）に開催されました。

今年のテーマは、「防災・減災、国土強靱化とインフラDX」～地域を守り、未来を創る建設技術～として開催されましたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインセミナー発表形式での開催となりました。

オンライン参加 68社

（建設コンサルタンツ協会中国支部からは6社の参加）

オンラインセミナー発表 15社

特別講演 「国土強靱化とインフラDX」

岡山大学 環境生命科学学域教授 西山 哲氏

基調講演 「橋梁トリアージによる持続可能なインフラ管理マネジメント～富山市の取り組み～」

富山市政策参与 植野 芳彦氏

パネルディスカッション

テーマ 「地方自治体におけるインフラメンテナンスの未来とインフラDX」

コーディネーター 広島大学 名誉教授

藤井 堅氏

パネリスト 富山市政策参与

植野 芳彦氏

呉市土木部長

吉本 正秀氏

市民団体「橋守隊CATS-B」代表

今井 勉氏

西日本高速道路エンジニアリング中国(株)

今代 稔氏

国土交通省道路局道路メンテナンス企画室長

清水 将之氏

建設技術フォーラム2021 in ちゅうごくポスター

■ 若手の会の活動報告

若手の会は、魅力ある建設コンサルタント業界を実現するために、若手技術者が業界の将来像や担い手確保などについて議論する場として、平成28年11月に設立されました。今年度はメンバー 26名で議論を進めてきました。

〈業界PRWG〉

建設コンサルタント業は、「街や人の未来を考え、人々に幸せをもたらす夢のある仕事」ですが、一般的には思ったほど認知されていません。業界PRWGでは、若手の視点で業界の魅力や社会インフラ整備の仕事を知ってもらうためのPR活動を企画しています。

〈生産性向上WG〉

生産性向上WGは、業界が抱える課題『生産性の低さ』にスポットを当て、解決のための提言・行動を行うことを目的として活動しています。

下表に今年度の活動概要を示します。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、WEBによる定例会議を2回実施し、次年度に向けた企画の検討を進めるとともに、業界説明会に参加してリクルート活動も実施しました。

若手の会メンバー（敬称略、R3.12現在）

氏名	会社名
森本 晶	相生エンジニアリング(株)
平田 真行	相生エンジニアリング(株)
浅野 拓馬	(株)荒谷建設コンサルタント
桑原健二郎	(株)荒谷建設コンサルタント
青山 芹奈	(株)荒谷建設コンサルタント
熊谷 憲一	いであ(株)
増井 優哉	いであ(株)
萩原 耀大	いであ(株)
田中 拓哉	(株)ウエスコ
岡井 陽平	(株)ウエスコ
門脇 悠太	(株)エイト日本技術開発
坂田 暁彦	(株)エイト日本技術開発
武田 和希	シンワ技研コンサルタント(株)
岡本 裕希	シンワ技研コンサルタント(株)
池上 僚	大日本コンサルタント(株)
西村可奈子	大日本コンサルタント(株)
藤本 雅大	中電技術コンサルタント(株)
藤本 悠二	中電技術コンサルタント(株)
田原 正隆	パシフィックコンサルタンツ(株)
森川 裕基	パシフィックコンサルタンツ(株)
上戸田拓也	(株)ヒロコン
青野 光輝	(株)ヒロコン
小山 理央	(株)福山コンサルタント
吉谷 薫	復建調査設計(株)
西原 章太	復建調査設計(株)
森 三千浩	復建調査設計(株)

活動概要（令和3年4月～令和3年12月）

開催日	項目	主な内容
R3. 9. 1 (水)	第24回定例会 (WEB)	・本部若手の会の活動報告 ・これまでの活動の振り返り ・令和3年度活動計画について
R3. 10. 13 (水)	第25回定例会 (WEB)	・本部若手の会の活動報告 ・グループディスカッション
R3. 12. 10 (金)～	リクルート活動	・中国地方内の大学・高専へ訪問もしくはWEB形式

大学・高専・高校への業界説明会開催

総務部会では、大学生、高専生に建設コンサルタントの仕事の内容や魅力、やりがいなどを伝え、業界を理解し、一人でも多くの学生に就業していただくことを目的として、大学・高専に赴き業界説明会を行っています。

ここ数年は若手の会の協力を得て、若手目線での業界の魅力ややりがいなども伝えていきます。

今年度説明会を開催した大学・高専は以下の通りです。今年は新たに高校においても説明会

を開催しました。なお、今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け一部ではWEB開催といたしました。また、開催を予定していたものの、年明けからの急激な感染拡大に伴い、協議の上急遽取りやめたものもありました。

建設コンサルタントの認知度はあまり高いとは言えず、今後も地道な広報活動を行っていきたいと考えています。

令和3年度業界説明会開催大学・高専・高校

開催月日	大学・高専名
令和3年11月11日	鳥取西高等学校（対面実施）
令和3年11月29日	鳥取東高等学校（対面実施）
令和3年12月6日	呉工業高等専門学校（環境都市工学分野）（対面実施）
令和3年12月10日	鳥取大学（工学部・農学部）（WEB開催）
令和3年12月15日	松江工業高等専門学校（環境・建設工学科）（対面実施）
令和3年12月15日	島根大学（総合理工学部地球科学科）（対面実施）

官民合同新年互礼会

令和4年官民合同新年互礼会は、1月4日（火）にリーガロイヤルホテル広島において開催されました。国歌斉唱で始まり、広島県建設工業協会の檜山会長の新年挨拶に続き、来賓の中国地方整備局長、広島県土木建築局長、広島市都市

整備局長、広島高速道路公社理事長及び西日本高速道路(株)中国支社長の挨拶が行われました。本年は新型コロナ感染拡大防止のため参加各社2名として開催され、飲食の提供は中止となりました。（参加者：約350名）



檜山広島県建設工業協会会長のあいさつ



■ 業務部会の開催

● 第1回業務部会

開催日：令和3年5月31日(月)
場 所：リモート会議
内 容：令和2年度意見交換会実施結果について(報告)
令和3年度業務部会の運営について(報告)
令和3年度中国ブロック意見交換会について
令和3年度発注機関別意見交換会について
任意仮設・指定仮設について(報告)
その他 第2回業務部会の予告他

● 第2回業務部会

開催日：令和3年9月8日(水)
場 所：リモート会議
内 容：令和3年度発注機関別意見交換会の開催について
令和4年度「要望と提案」に関する意見照会について
その他 第3回業務部会について

● 第3回業務部会

開催日：令和4年1月18日(火)
場 所：リモート会議
内 容：令和3年度発注者との意見交換会実施結果について
令和4年度中国ブロック意見交換会について
令和3年度協会本部・中国支部意見交換会について
その他

令和3年度 意見交換会実施概要

意見交換実施先	発注者側出席者	建コン側出席者
1. 中国地方ブロック (中国地方整備局・ 中国5県・広島市・ 岡山市) (R3.8.3)	〈中国地方整備局〉 多田局長 美濃部副局長 企画部長、河川部長、道路部長 営繕部長、港湾空港企画官 技術調整管理官、技術開発調整官 技術管理課長 〈各県・広島市・岡山市〉(WEB参加) 鳥取県県土整備部次長 島根県土木部次長 岡山県土木部技術総括監 広島県土木建築局総括官 広島県土木建築局技術管理担当監 山口県土木建築部技術管理課長 岡山市都市整備局長 広島市都市整備局次長	〈建コン協本部〉(WEB参加) 野崎会長 重永副会長、酒井副会長兼専務理事 常任理事(総務部会長) 常任理事(企画部会長・対外活動委員長) 常任理事(情報部会長) 常任理事(資格・CPD部会長) 常任理事(技術副部会長) 常任理事(九州支部長) 常任委員長、対外活動副委員長 参与・企画部長、業務部長、企画部次長 〈中国支部〉 小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 川口支部理事(WEB)、來山総務部会長 永田技術部会長(WEB) 亀田BIM / CIM推進室長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 15名(うち14名はWEB参加)
2. 中国地方整備局 (R3.11.12)	西澤企画部長 企画部技術調整管理官 企画部技術開発調整官 企画部技術管理課長 企画部建設専門官	小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 來山総務部会長、永田技術部会長 亀田ICT委員会委員 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 11名、オブザーバー 1名
3. 広島県 (R3.11.4)	細羽総括官(建設企画) 建設産業課課長、建設産業課主査 技術企画課技術管理担当監 技術企画課主査、技術企画課主任 建設DX担当課長、建設DX担当主査	小田支部長 坪井副支部長 來山総務部会長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 業務委員 5名、オブザーバー 1名
4. 岡山県 (R3.12.15)	長尾土木部技術総括監 土木部技術管理課長 土木部技術管理課参事 土木部技術管理課総括副参事	小谷副支部長 金本業務部会長 吉岡業務副部会長 業務委員 2名、岡山県委員 6名
5. 鳥取県 (R3.11.1)	森田県土整備部部長 県土総務課建設業・入札制度室室長 県土総務課建設業・入札制度室係長 技術企画課参事監兼課長 技術企画課課長補佐、技術企画課係長	小田支部長 川口支部理事兼鳥取県副委員長 金本業務部会長、吉岡業務副部会長 下山鳥取県委員長、澤鳥取県副委員長 鳥取県委員 2名
6. 広島市 (R3.11.30)	木村都市整備局次長 都市整備局技術管理課長、 財政局契約部工事契約課長 道路交通局道路部街路課長 下水道局施設部管理課建設担当課長	小田支部長 來山総務部会長 金本業務部会長 吉岡業務副部会長 業務委員 2名、オブザーバー 1名
7. 協会本部 (R4.2.1)	〈協会本部〉(WEB参加) 野崎会長 重永副会長、酒井副会長兼専務理事 常任理事(総務部会長) 常任理事(企画部会長・部活委員長) 常任理事(情報部会長) 常任理事(資格・CPD部会長) 常任委員長、対外活動副委員長 参与・企画部長、業務部長、企画部次長	〈中国支部〉 小田支部長 坪井副支部長、小谷副支部長 來山総務部会長、金本業務部会長 吉岡業務副部会長、業務委員 2名 以下WEB参加 荒谷支部理事、藤井支部理事、松原支部理事 川口支部理事、峯谷支部理事、 永田技術部会長、岩苔厚生部会長

■ 発注者と建設コンサルタンツ協会の意見交換会（R3.8.3開催）

令和3年8月3日（火）に広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局をはじめ中国地方5県と広島市、及び岡山市の発注者と建コン協本部の意見交換会が開催されました。

国土交通省からは多田局長をはじめ10名の幹部職員が、自治体からは中国5県、広島市、岡山市から8名の幹部職員が出席されました。（自治体の方々はWEB参加）

建コン側からは、野崎会長をはじめ本部の副会長・理事等14名がWEBで出席し、中国支部

からは小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、川口支部理事、來山総務部会長、永田技術部会長、亀田BIM / CIM推進室長、金本業務部会長および業務委員16名の合計24名（うち16名はWEB）が出席しました。建コン協から「建設コンサルタントの要望と提案」と調査資料集等を提示し、「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目について、忌憚のない意見を交わすことができました。意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



地方ブロック意見交換会の状況

■ 発注者との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

1. 担い手確保・育成のための環境整備

(1) 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 履行期限（納期）の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

- 1) 建設コンサルタント業務の納期分散の実現のため、設計変更後の目指すべき納期目標（建設コンサルタント業務の第1四半期20%程度・第2四半期30%程度・第3四半期10%程度・第4四半期40%程度・3月30%以内）と整合を図った施策の強化と計画的展開
 - 国債（ゼロ国債・2ヶ年国債）・翌債の活用（秋納期業務の発注）
 - 繰越の柔軟な運用
 - 前倒し発注等発注時期の分散化

【中国地方整備局からの回答】

- ・中国地方整備局では、履行期限の平準化の取り組みとして、毎年度平準化目標を定め、各事務所等で目標を達成するよう国債、翌債等を活用して計画的な業務発注に努めております。また、工期延期が生じた場合でも繰り越しを柔軟に活用して、できる限り3月期限の工期にならないように取り組んでおります。
- ・令和2年度の平準化の取り組み結果は、第1四半期は目標10%以上に対して約7%、第2四半期は目標20%以上に対して約7%、第3四半期は目標20%以上に対して約8%、第4四半期は目標50%以下に対して46%、その内3月納期は目標30%以下に対して約20%でした。
- ・今年度（令和3年度）も、更なる平準化を図るため、目標を4月～6月15%以上、7月～9月20%以上、10月～12月20%以上、1月～3月45%以下、3月30%以下として取り組んでいるところです。引き続き、年度内納期を軽減させるとともに履行期限の平準化に努めて参ります。

〈平準化目標と結果〉

令和2年度			令和3年度	
時期	目標	結果	時期	目標
第1四半期(4月～6月)	10%以上	約7%	第1四半期(4月～6月)	15%以上
第2四半期(7月～9月)	20%以上	約7%	第2四半期(7月～9月)	20%以上
第3四半期(10月～12月)	20%以上	約8%	第3四半期(10月～12月)	20%以上
第4四半期(1月～3月)	50%以下	約46%	第4四半期(1月～3月)	45%以下
(内3月納期)	30%以下	(約20%)	(内3月納期)	(30%以下)
翌年度・国債	—	約32%		

- 2) 発注時における条件明示の徹底による標準履行期間を確実に確保(BIM/CIM対応期間等も考慮)した計画立案及び業務遂行
→計画した標準履行期間を確保できなくなった場合の履行期限の延期

【中国地方整備局からの回答】

- ・詳細設計業務においては、発注時に条件明示チェックシートに基づき設計条件を明示しております。また、条件明示チェックシートを活用した適正な履行期限の確認も行うこととしております。
- ・BIM/CIM対応期間等を考慮した履行期間をどの程度確保するかにつきましては、貴協会のご意見を伺うなどして、必要な工期の確保に努めて参ります。
- ・受注者の責めに帰することができない理由により当初予定していた履行期間が確保できなくなった場合は、受発注者で協議の上、適切な工期の確保に努めております。

- 3) 年度末納期と技術提案書作成時期の重複を解消するためのプロポーザル方式・総合評価落札方式業務の公示・提案時期の分散化

【中国地方整備局からの回答】

- ・年度末における業務負担の更なる軽減を図るため、早期発注や国債等を活用して業務の平準化及び公示時期の分散化に取り組んでいます。

- 4) 業務スケジュール管理表に基づく適確な契約管理(変更契約時期の適切化：3月実施の回避等)

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務スケジュール管理表の活用は、全ての「詳細設計業務」及び、「検討業務等」で実施することとしております。
- ・作成した業務スケジュール管理表に基づく適正管理に努めることで3月期の工期延期や契約変更とならないよう努めているところです。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び中国地方整備局・5県2市からの回答

② 受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

- 1) 「ウィークリースタンス」の全業務への適用・実施計画および実施報告による確実な推進と地方自治体への展開の一層の強化

【中国地方整備局からの回答】

- ・平成30年12月より、全ての業務を対象にウィークリースタンスの取り組みとして、
「水曜日は、勤務時間外の連絡及び16時以降に掛かる打合せは行わない。」
「水曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌日木曜日を期限日としない。」
「金曜日に資料作成依頼を行う場合は、翌週月曜日を期限日としない。」
「資料作成依頼を正規の勤務時間外には行わない」
「資料作成依頼を行う場合には、適切な期間を確保し期限を設定する。」
の5項目を特記仕様書に記載し、ワークライフバランスの改善を進めております。また、令和元年7月以降に契約した業務は、ウィークリースタンスの実施状況を記録、特記仕様書に示した実施報告シートを完成検査で検査職員に報告してもらうとともに、技術管理課に提出してもらう取り組みを行っています。

〈ウィークリースタンス実施結果〉

令和元年度	令和2年度		
報告件数	105件	報告件数	261件
完全実施件数	92件	完全実施件数	245件
実施できなかった件数	13件	実施できなかった件数	16件

- 2) 深夜・休日勤務につながる業務指示、待機指示（委員会对応業務など）の削減（改正労働基準法遵守のための長時間労働の解消）と解釈の違い等による手戻り発生や過剰要求による作業量増大を排除するために、特記仕様書への具体的記述。

【中国地方整備局からの回答】

- ・受注者のワークライフバランスに配慮し、業務の指示等は深夜や休日勤務等が生じないよう事務所には改めて周知して参ります。
- ・また、手戻りの発生や過剰要求による作業量増大についても事務所に指導して参ります。

- 3) 実態に即した適切な費用計上（緊急時のやむを得ない場合における短期的深夜対応・休日出勤等に対する割り増し）

【中国地方整備局からの回答】

- ・緊急時における深夜対応や休日勤務を要請した場合には、実態に即した適切な設計変更を行って参ります。

- 4) 計画系業務を含む幅広い業務を対象とした業務スケジュール管理表及び設計条件明示チェックシートを用いた管理、ワンデーレスポンスの実施等の徹底

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務スケジュール管理表は「詳細設計」及び計画系業務を含む「検討業務等」を対象とし、ワンデーレスポンスについては全ての業務を対象として事務連絡を発出しているとともに、特記仕様書に記載し、適切な対応に努めるよう事務所を指導しているところです。

- 5) ICTの導入・活用による業務効率化の促進（業務におけるテレワーク推進のため、テレワークガイドライン（案）の活用、発注者のテレワーク環境整備の加速化、ASPサービスなどの活用による情報共有、業務基礎データ（道路台帳等）、各種技術基準類、事務所公表資料・閲覧資料等の電子化・Web公開、変更契約の電子入札の推進、捺印書類の省略 等）

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務効率化のためWeb会議による打合せを推進しております。また、契約の電子化は令和2年4月から運用を開始しております。
- ・ASPについては、本省と連携し活用を検討して参ります。

6) 入札・契約関連書類の統一ならびに簡素化による事務負担軽減

【中国地方整備局からの回答】

- ・入札・契約関係書類について、整備局でひな型を作成することで、書類の統一を図っているところ です。
- ・また、平成29年度から一括審査方式試行、令和2年5月からはプロポーザル方式や総合評価方式における技術提案数を軽減するなどの対応を行っているところです。
- ・引き続き、事務の負担軽減となるよう努めて参ります。

③ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

1) BIM/CIM適用事業拡大及び対象分野の拡充

【中国地方整備局からの回答】

- ・BIM/CIM活用の全国的な基本方針としては、令和5年度からの全面活用を目標として、令和2年度からは大規模構造物の予備設計・詳細設計は原則実施し、初期段階の概略設計等においても積極的に活用することとされています。
- ・中国地方整備局では、橋梁やトンネル及びダムなどの大規模構造物に加え、令和3年度からは道路設計と樋門設計も「発注者指定型」で発注するなどしてBIM/CIMの適用拡大に取り組んでおります。また、新規着手する事業箇所では、測量・調査段階からの3次元データの利活用を積極的に推進します。
- ・引き続き、BIM/CIMの活用拡大に向け努めて参ります。

2) 3次元設計における業務量の増加への当面の対応措置と積算体系の早急な整備

【中国地方整備局からの回答】

- ・3次元設計の経費増加については、見積りにより対応しているところです。積算体系の整備とともに、ご意見は本省に伝えて参ります。

3) 3Dモデルによる設計照査手法の検討試行(品質確保、手戻り防止等)

【中国地方整備局からの回答】

- ・3次元モデルの設計照査手法については、BIM/CIM設計照査シートの運用ガイドライン(案)のBIM/CIM設計照査シートで定められている照査項目を確認することで、成果の品質確保や手戻り防止等につながると考えております。引き続き、BIM/CIM試行結果を反映し、本省と連携して設計照査手法の向上に努めて参ります。

4) 受発注者双方のBIM/CIM技術者の育成教育(各種講演会、セミナー、資格制度検討等)

【中国地方整備局からの回答】

- ・BIM/CIM技術者育成のため、講演会や勉強会等を実施しております。今年度も引き続き講演会や勉強会等の開催を予定しております。

(2)受発注者協働による災害対応に向けた継続的な環境改善

① 被災地域に対する迅速かつ適切な災害対応(費用面を含む)と改正労働基準法遵守との両立

- 1) 災害対応業務への従事職員が対応していた既往業務の効果的な業務中止命令と工期延期の実施、管理技術者交代要件の緩和

【中国地方整備局からの回答】

- ・災害対応等が発生した場合は、受注者と情報共有を図り、業務の一時中止や工期延期など、災害復旧対策を優先した円滑で柔軟な対応を行って参ります。
- ・管理技術者の交代が必要な場合には協議をお願いします。
- ・費用についても被災地の状況による作業条件の制約などから、現行の積算基準をそのまま適用することが適当でないと考えられる場合には、積極的に見積を活用するなど、適正に対応して参ります。

2) 災害対応業務への従事職員に対して労働基準法第33条の適切・確実な適用に関する厚生労働省への働きかけ

【中国地方整備局からの回答】

- ・労働基準法第33条については、厚生労働省から各都道府県労働局長への通知(令和元年6月7日)が発出されており、「地震、災害、風水害、雪害、爆発、火災等の災害への対応(差し迫った恐れがある場合における事前の対応含む。)、急病への対応その他の人命又は公益を保護するために必要」については、36協定で定めた限度とは別に労働時間の延長等が認められております。また、平成30年9月18日通知より、地質調査、測量及び建設コンサルタント業務も対象となる事業場として認められているところです。

3) 広域(複数の発注者)にまたがる災害対応マネジメントに対する受発注者協働での支援体制・仕組みの整備・充実(例えば、国による災害指定に関する対応、災害支援要請の一元化、早期の支援体制構築のための被害情報収集を目的とした自主的リエゾン派遣の検討、官民合同の災害訓練開催、ICT技術の活用など)及び地方自治体に対する国の支援

【中国地方整備局からの回答】

- ・広域にまたがる災害対応の支援要請などが生じた場合に、受注者及び貴協会と行政機関のお互いが、連携して対応できる仕組みについて検討して参ります。

(3)人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

① 若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度の工夫改善の継続(若手技術者表彰制度の導入とその有効活用等)

【中国地方整備局からの回答】

- ・若手技術者等の活用・育成のために、平成26年度よりプロポーザル方式、総合評価落札方式の業務において管理補助技術者を配置できる取り組みを行っております。また、優良業務であれば管理技術者である若手技術者も表彰されます。
- ・令和2年度よりプロポーザル方式の業務を対象に、女性技術者の活用を含めた働き方改革の一環として、厚生労働省の認定制度である「くるみん」「えるぼし」の認定企業に入札参加時の加点評価を行うこととしております。

【鳥取県からの回答】

- ・本県ではR2年度(対象：R1業務)から若手技術者に対し、総合評価入札における配置予定技術者の加点対象項目にするとともに、優良技術者の表彰制度を設け、技術者のモチベーション向上を図るとともに、業界全体の活性化を図っており、今後も継続する予定です。

【島根県からの回答】

- ・当県では、総合評価方式及びプロポーザル方式を試行で実施し、業務成果の品質確保を目的に企業や管理（担当）技術者の能力に重点を置いた評価のみを加点対象としており、現時点では若手技術者及び女性技術者の配置等を評価の対象としていません。また、業務委託の優秀建設技術者表彰制度においても、若手技術者表彰を特に設けていません。
- ・今後、担い手確保等の観点から、若手および女性技術者の活用・育成にも繋がる制度になるよう検討したいと考えています。

【岡山県からの回答】

- ・本県では優良業務に関する表彰は実施しておらず、今後の検討課題であると考えております。表彰制度を検討する場合には、国や他県の状況を参考に、お話の若手技術者・女性技術者の育成も含め、その活用方策についても幅広く検討したいと考えております。

【広島県からの回答】

- ・若手技術者や女性技術者の活用・育成を促進するため、総合評価落札方式の企業と配置技術者の業務成績等を求める実績評価2型において、若手技術者（40歳以下）又は女性技術者を管理技術者として配置した場合に加点評価をしております。
- ・表彰制度については、国や他県の動向を注視して参ります。

【山口県からの回答】

- ・本県では、入札参加資格審査において、子育て支援・女性活躍支援について評価しています。

【岡山市からの回答】

- ・本市においては、現在のところ、若手技術者・女性技術者の活用などを考慮した入札制度は実施しておりませんが、今後は国や先行する自治体の動向を研究し、参考としていきたいと考えています。

【広島市からの回答】

- ・本市では、建設コンサルタント等業務において、若手技術者及び女性技術者の活用・育成のための入札契約制度を実施していませんが、他の自治体等の状況を参考に、引き続き研究していきたいと考えています。

② シニア人材の活用のための制度改善（照査技術者として継続できる評価制度：現行の管理技術者実績の評価だけでなく照査技術者実績も評価・考慮等）

【中国地方整備局からの回答】

- ・経験豊富なベテラン技術者に継続的に照査技術者等として活躍してもらうことは、品質確保や技術の伝承からも有益だと考えています。
- ・中国地方整備局では、管理技術者の実績だけでなく、担当技術者、照査技術者として従事した実績も照査技術者の資格要件として評価しております。

【鳥取県からの回答】

- ・本県においてはシニア人材の活用に特化した制度はないため、他県の事例を参考にさせていただきたいと思います。

【島根県からの回答】

- ・①と同様に、総合評価方式及びプロポーザル方式の試行では企業や管理（担当）技術者の能力に重点を置いた評価のみを加点対象としており、シニア人材の配置及び照査技術者の実績に着目した評価項目を特に設けていません。
- ・今後、国および他県の取組状況等を参考にしながら、検討を行って参りたいと考えています。

【岡山県からの回答】

- ・本県では土木工事の建設コンサルタント等業務では総合評価落札方式は実施しておりませんが、制度の導入について今後検討していく際には、お話のシニア人材の活用に資する評価制度も含め幅広く検討したいと考えております。

【広島県からの回答】

- ・照査技術者については、総合評価落札方式における企業の品質確保に関する評価項目として、照査技術者を複数名配置する場合に加点評価することとしております。
- ・シニア人材の活用（照査技術者の実績の評価も含む）については、本県の発注業務における必要性を把握し、導入の可否も含め検討して参ります。

【山口県からの回答】

- ・本県では、入札の際、シニア人材活用のための制度を導入していません。今後、国や他の自治体の状況を参考に研究して参ります。

【岡山市からの回答】

- ・本市では、委託業務の総合評価落札方式は採用していません。今後は、先行する国や自治体の状況を参考にしながら、検討して参ります。

【広島市からの回答】

- ・本市では、建設コンサルタント等業務において、照査技術者の業務実績として施工年月日や技術者の当時の立場等は求めていませんが、シニア人材の活用について、他の自治体等の状況を参考に、引き続き研究していきたいと考えています。

③ 建設コンサルタント技術者の社会的地位向上、やりがい創出を図るため銘板への技術者名明記の取組み推進

【中国地方整備局からの回答】

- ・建設コンサルタント技術者の社会的地位向上や、やりがい創出のため、中国地方整備局では橋梁やトンネル等の銘板へ設計を担当した社名及び管理技術者氏名を表示するようにしております。

【鳥取県からの回答】

- ・本県では、技術者名を銘板に記載することは行っていません。他県の事例を参考にさせていただきたいと思います。

【島根県からの回答】

- ・当県では、重要構造物の銘板に施工会社とあわせて設計コンサルタント会社名を明記することとしていますが、現時点で技術者個人名を明示することまでは考えていません。

【岡山県からの回答】

- ・本県では、平成28年4月に土木工事共通仕様書を改定し、橋梁等の銘板に、設計業者の名称に加え管理技術者の氏名を記載することとしております。

【広島県からの回答】

- ・設計技術者のやりがいや魅力の向上を図る取組みについては、銘板への技術者名の記載も含め、国や他県の取組みを参考にし検討して参ります。

【山口県からの回答】

- ・本県では、銘板への技術者明記は実施していません。今後、国や他の自治体の状況を参考に研究して参ります。

【岡山市からの回答】

- ・本市では、平成31年度より、岡山市土木工事共通仕様書で技術者明記の銘板工の仕様を規定しています。

【広島市からの回答】

- ・本市では、土木工事共通仕様書において明記しているとおり、橋歴板には、設計を行った建設コンサルタントの管理技術者氏名を記載しています。

2. 技術力による選定

(1)地方自治体における発注方式の改善（技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進）

- ① プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加
 - ・国の「斜め象限図」の周知と適用促進
 - ・技術力・品質に優れた企業が選定されず、くじ引きによる選定が多発する価格のみによる一般競争入札の撤廃
(不良不適格業者の排除、簡易な技術競争の導入促進)
 - ・ブロック発注者協議会での技術力を基本とする発注方式の議論

【鳥取県からの回答】

- ・本県においても、くじ引きによる落札者の決定が多発していることから、令和元年度から総合評価落札方式の試行件数の拡大・検証を行っており、令和4年度には総合評価入札を本格導入することとしています。
- ・「斜め象限図」の活用については、総合評価落札方式の発注量に直接関係することから本格導入に向けて検討して参ります。

【島根県からの回答】

- ・現在試行中のプロポーザル方式・総合評価落札方式の選定の考え方において、「斜め象限図」を参考としています。
- ・本県では、くじ引きによる選定はほとんど発生していません。今後も、本県の実情を踏まえ、国および他県の取組状況等を参考にしながら、入札制度の検討を行って参りたいと考えています。

【岡山県からの回答】

- ・本県では、プロポーザル方式は業務内容に応じて高度な調査設計業務等において個別に実施しているところであり、今後も必要に応じて実施して参りたいと存じます。また、土木工事の建設コンサルタント等業務では総合評価落札方式は実施しておりません。制度の導入については今後、検討して参りたいと存じます。

【広島県からの回答】

- ・プロポーザル方式については、業務内容が技術的に高度・特殊な場合や、技術提案により優れた仕様の成果を期待できる場合に採用することとしております。
- ・また、総合評価落札方式については、平成22年度から試行を開始しており、原則、設計金額が500万円以上を対象としております。
- ・一昨年度から災害復旧事業の迅速かつ円滑な執行を図るため、総合評価落札方式の試行を縮小しており、令和2年度は49件（測量、地質調査を除く土木関係建設コンサルタント業務の件数）の実施となっております。
- ・なお、技術力・品質に優れた企業を選定できるよう、今後とも総合評価落札方式の適切な運用が図られるよう検討して参ります。

【山口県からの回答】

- ・本県では、プロポーザル方式、総合評価落札方式の統一的な制度は導入していませんが、個別案件として、昨年度から技術的難易度が高い一部の業務においてプロポーザル方式を実施しており、今年度は一部の業務において総合評価方式を試行する予定としています。プロポーザル方式、総合評価落札方式の統一的な制度の導入については、国や他の自治体の状況を参考に今後検討して参ります。

【岡山市からの回答】

- ・建設コンサルタンツ業務等の発注方法は原則一般競争入札としているが、必要に応じて個別にプロポーザル方式を実施しているところであり、積極的な活用を進めていきます。
- ・入札契約方法の選択については、国や先行する自治体の事例を研究し、今後の参考としていきたいと考えています。

【広島市からの回答】

- ・本市においては、創造性や高度な技術力等が求められる設計業務については、プロポーザル方式を採用した事例がありますが、総合評価落札方式やプロポーザル方式の技術競争による発注方式の導入・拡大については、今後、発注関係事務の改善に向けた更なる取組を推進する必要があることを踏まえ、国の動向や他の政令市の状況等を注視し検討していききたいと考えています。

3. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① 設計条件明示チェックシートの契約図書としての明確化（業務公示時の特記仕様書に添付）及び効果的な運用・活用

【中国地方整備局からの回答】

- ・予備設計等において作成した条件明示チェックシートを基に、事務所で「設計業務の条件明示検討会（仮称）」を開催し詳細設計業務発注時に明示すべき設計条件を確認することとしております。
- ・条件明示チェックシートの提示は、契約後の業務着手時等に提示することとしておりますが、引き続き効果的な運用を検討して参ります。

【鳥取県からの回答】

- ・契約図書に位置付けています。他県の事例を参考にさせていただきたいと思っております。

【島根県からの回答】

- ・今年度より設計条件明示チェックシートを契約図書として運用を始めたところであり、今後も効果的に活用できるように努めます。

【岡山県からの回答】

- ・本県では、お話の設計条件明示チェックシートは活用しておりませんが、特殊な設計条件等がある場合には、発注時に特記仕様書に記載することとしており、今後もこの取扱いを徹底して参ります。

【広島県からの回答】

- ・条件明示チェックリストの取組みは行っておりませんが、代わりに業務発注毎に設計条件を特記仕様書に明示しているところです。
- ・条件明示チェックリストの取組みについては、国や他県の動向を注視して参ります。

【山口県からの回答】

- ・ 本県では、設計条件については特記仕様書や業務条件書に記載することとしており、設計条件明示チェックシートは利用していません。その利用については、国や他の自治体の状況を参考に今後研究して参ります。

【岡山市からの回答】

- ・ 土木設計業務においては、条件明示チェックシートは、発注者と受注者の双方にとって必要であり、導入に向けて、国や先行する自治体の状況を参考にしながら、検討していきます。

【広島市からの回答】

- ・ 本市では、設計書や特記仕様書等に設計条件等を記載するなど、積算条件の明確化に努めています。設計条件明示チェックシートの活用につきましては、今後、他の自治体等の取組状況を参考にしながら、引き続き研究していきたいと考えています。

(2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

① 詳細設計における各工種の設計目的・設計条件・成果内容の明確化と適切な費用計上

1) 施工計画における作業実態と歩掛との乖離の解消（見積り等により実態に即した費用計上）

【中国地方整備局からの回答】

- ・ 詳細設計の設計条件等は、条件明示チェックシートを活用することで業務内容を明確にし、受発注者間での認識の違いが生じることが無いよう周知しているところです。
- ・ 施工計画作成などにおいて、標準歩掛と乖離した作業を依頼する場合などにおいては作業内容に応じた適正な設計変更を行うこととしております。

2) 特に指定仮設と任意仮設の仕様書や設計協議における違いの明確化、任意仮設と指定仮設の成果の取扱い（任意は参考図、指定は設計図）、その責任所在の明確化と歩掛の改善、指定仮設への条件変更時の設計変更

【中国地方整備局からの回答】

- ・ 仮設物は構築後の管理において、迂回路などのように発注者等が管理する必要があるものを指定仮設、仮締め切りなどのように受注者が管理するものを任意仮設として定義しています。
- ・ 仮設設計にあたっては、指定仮設、任意仮設の区分に限らず確実な施工が可能となる設計を業務において実施願います。
したがって、任意仮設であっても、施工性、安全性など、施工にあたっての構造要件を満足することが必要であることから標準歩掛が適用できない場合もあると思料しているところであり、標準歩掛が適用できない場合においては、見積もり等により適切な設計変更を行うこととしております。

(3)維持管理・更新事業等における技術的課題解消に向けた発注契約方式などの改善

① 設計者・施工者連携方式（設計の受注者が工事段階で関与する方式、工事の受注者が設計段階から関与する方式（ECI方式））の検討等合理的な入札契約制度の選定

1) ECI方式については、橋梁修繕の他、災害対応も含めた設計者・施工者連携方式として活用

【中国地方整備局からの回答】

- ・ 中国地方整備局では、岡山国道事務所の「国道2号大樋橋西高架橋」でECI方式を採用し、3次元情報活用モデル事業として取り組んでいます。
引き続き、要件が合致する案件がある場合においては積極的な活用に努めます。

② 点検・診断、補修・補強設計における適切な費用計上

1) 点検・診断における仕様や積算条件の明確化とそれに基づく実勢価格に応じた積算価格の設定

【中国地方整備局からの回答】

- ・「橋梁定期点検要領」及び「橋梁における第三者被害予防措置要領(案)」に基づく橋梁点検は標準歩掛により積算しております。
- ・その他の点検及び診断、補修、補強については、見積もりにより積算しておりますが、現地の状況等で積算条件が異なるため、積算条件を明確にした上で見積もりを行い、実勢価格に応じた積算を行うこととしております。

2) 補修・補強設計における条件明示(条件確認シート活用)と見積りによる適切な積算価格の設定、条件変更時の条件確認シート活用による適切な設計変更

【中国地方整備局からの回答】

- ・業務発注にあたっては、適正な条件明示に努めるとともに標準歩掛の適用がない設計にあたっては、見積もりによる積算を行っているところです。
引き続き、適正な条件明示と積算を行って参ります。

③ 高度な技術が要求される場合の補修・補強設計業務におけるプロポーザル方式の採用

【中国地方整備局からの回答】

- ・補修・補強設計業務の発注にあたっては、業務内容や規模等に応じ、適切な発注方式を選定しているところです。技術的に高度なものや専門的な技術を要する大規模又は特殊な構造物で、技術提案に基づいた仕様を作成することが優れた成果を期待できる業務については、プロポーザル方式の活用を行うこととしています。また、施工者の技術力とノウハウを設計段階から投入するECI方式の活用にも努めて参ります。

中国地方整備局との意見交換会（R3.11.12開催）

令和3年11月12日（金）広島市南区のTKPガーデンシティ広島駅前大橋において、国土交通省中国地方整備局と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

中国地方整備局からは西澤企画部長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、小谷副支部長、來山総務部会長、永田技術部会長、金本業務部会長をはじめ

20名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目、重点テーマとして1項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



西澤企画部長の挨拶



小田支部長の挨拶

中国地方整備局との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

I. 担い手の確保・育成のための環境整備

(1)働き方改革に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 「ウィークリースタンス」に積極的に推進していただいておりますが、取組みが形骸化しないよう事務所等への継続的な指導をお願いします。また、令和元年度から実施されている「ウィークリースタンス実施報告書」により、実施状況を把握していただき、必要に応じて改善をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・平成30年から取組みを事務所内に指導しているところであり、定期的実施状況を確認している。
- ・令和元年度および令和2年度の実施状況からウィークリースタンス、ワンデーレスポンスともまだ完全ではないと考えている。
- ・実施できなかった項目としては、会議が長引くことや、現場の人が集合できる時間の関係で「16時以降の打合せ」が多く挙げられている。対面かオンラインかということもあるが、この点を改善することが最も困難である。
- ・ウィークリースタンス、ワンデーレスポンスについては、業務の執行だけでなく関わっている技術者の方々のライフスタイルにも関係があることから、引き続き適切に実施するよう指導していく。遅くなるようであれば最低でもオンラインにするような配慮を指導していくなど、舵取りを引き続き実施する。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ② 納期(変更後)の年度末集中はかなり緩和され、改善していただいております。引き続き、国債(ゼロ国債、2ヶ年国債)・翌債の活用及び繰越の柔軟な運用により、納期平準化に向けた取組みをお願いします。また、平準化の指標は、土木建設コンサルタント業務を基本として把握いただくようお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・令和2年度の土木関係建設コンサルタントおよび測量・地質調査の履行期限をみると、例えば3月末工期では、測量・地質調査は改善しているが、それに比べて土木関係建設コンサルタント業務は改善が進んでいない。
- ・測量・地質調査は早めに発注することが可能で、遅くなるようであれば途中で打ち切り来年度発注することもできるが、設計や計画系等の検討業務は途中で中止できず、次年度どの業者が受注するか分からないことから、業務の継続性から3月末工期が多くなっている状況である。
- ・国債により、業務自体は秋に発注して次年度夏に完了することができるが、それに伴う行政行為の委員会等がセットになっている場合が多く、委員会が下半期の終わりごろから集中するため改善が難しい。改善にあたっては行政機関、政府全体で考えていかなければならない。
- ・事務所に対しては業務の国債枠をとるよう指導しているが、それに関連する行為が追い付いていない。
- ・引き続き、特に土木関係建設コンサルタントの分野に特化して、3月末の工期を4月に繰越することが可能なものは実施していくよう指導しているところであるが、どうしても対応できないものもあることはご承知いただきたい。

- ③ プロポーザル等の提案書の作成の効率化のため、作成資料の簡素化、資料閲覧の効率化(公開用成果品電子データの貸与等)の検討を引き続きお願いします。また、プロポーザルヒアリングのWeb会議活用、総合評価落札方式の書面による評価については、継続的な実施をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・参加表明書の様式、作成資料や資料閲覧の効率化については、クラウドによって閲覧する仕組みを構築している整備局があることを認識している。先行している整備局の情報を入手しながら、より効率的に行える仕組みを検討したい。
- ・プロポーザルはより高い技術力を見極める必要があることから、原則Web会議を活用してヒアリングを実施し評価している。総合評価方式は、新型コロナウイルス感染症防止対策の一環として、現在はヒアリングを省略して書面による評価を継続している。
- ・総合評価方式については、新型コロナウイルス感染症の防止対策で本来実施すべき事項を簡素化しており、新型コロナウイルス感染症が収まった後、それを継続するかどうか検証することとなる。その結果、恒久的に簡素化を実施しても問題ないと判断されれば、継続されるものとする。今回の意見を本省に伝え、検証にも考慮していただくようにする。

- ④ プロポーザル方式における評価結果の内訳の早期公表については、各所に周知いただいておりますが、業務効率化のため、引き続き、インターネット(入札情報サービス等)による早期公表の検討をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・具体的な公表の方法については事務連絡「建設コンサルタント業務等における入札及び契約の過程並びに契約の内容等に係る情報の公表について」で詳細に定められている。公示から契約内容、業務設計書についてはインターネット（入札情報サービス：PPI）で、選定業者名、選定理由、選定結果書、特定業者名、特定理由、特定結果書、積算内訳書等については閲覧によって公表することになっている。詳細に定められていることもあり、現在は閲覧することとなっている公表資料については事務所等のみでの閲覧としている。
- ・プロポーザル方式の評価結果は、早期の情報公開で対応できるようにする意味が大きいので、このような意見があることを本省に伝えていく。

- ⑤ 業務発注時や変更時には、手戻り防止等のための条件明示の徹底とともに、適正な履行期限の設定をお願いします。また、手戻り防止には、業務スケジュール管理表や設計条件明示チェックシートの業務管理への活用が有効と考えられます。引き続き、計画業務を含む幅広い業務を対象とした活用推進をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・条件明示チェックシートや業務スケジュール管理表の活用について、形式的には実施しているが、条件明示などの中身の精度や、期限が切られているものに対する検証の度合いに問題があると考えている。受注後、関係者が情報共有することが必要であり、業務の遅延や問題点を早く共有することが緩和されるための対応の一つであると考えている。

(2)受発注者協働による災害対応に向けた環境整備

- ① H30年7月のような大規模豪雨災害や新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時には、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいています。今後とも、このような事象発生時には、同様のご配慮をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・対応マニュアルに基づき、必要な措置（履行中業務の一時中止、工期延期）、実勢単価の整合性について相談に応じている。これに関してはハードルが高くないので、都度相談いただきたい。

II. 技術力による選定

(1)プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

- ① 概数発注業務、概略発注業務において、業務発注段階で、業務内容等を可能なかぎり明確にさせていただくとともに、業務実施段階で、業務内容、および、技術者資格の範囲が極力変化しないようお願いいたします。また、新規工種が追加となる場合には当初の落札率の適用をしないようお願いいたします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・過疎化対策・補正予算を含めた確実な執行ということで、これまでの設計・協議ストックが非常に不足している現場もあり、業務の発注についても概数発注、概略発注が非常に多くなっている。
- ・すぐに改善することは難しいため、発注時点なるべく詳細な情報を提供していくよう条件明示していく。特に工種が異なるもの、協議によって内容が変わる可能性があるものについては積極的に対応したい。
- ・内容変更が基本的には大きく生じないよう努めていくが、ストックの関係上どうしても発生する場合があります、ご理解いただきたい。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ・落札率に関して、工種が大きく変化するもの（例えば測量調査に地質調査を追加する、河川設計に道路設計を追加するなど）については、相談いただいた上で対応可能なものは考慮したい。
- ・当初見込みに入っていない追加があれば、監督職員と協議いただきたい。その際に判別が困難なものについては整備局へ協議の相談があるはずなので、そこで議論していきたい。
- ・要望に沿えないものは本省にもしっかり伝えていくので、まずは意見をいただきたい。

(2)地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの拡大と育成

- ① 令和元年度より、地域コンサルタントの技術力向上、育成を目的とした「業務チャレンジ型」、地元企業の受注機会拡大のための「地元企業参加型JV」の導入を試行していただいておりますが、地域コンサルタント、地元企業の経営の安定や技術力向上に有効と考えられますので、試行の継続をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・地域コンサルタントの技術力向上・育成を目的として、令和元年11月から「業務チャレンジ型」の試行を始めている。業務成績や業務実績の評価ではなく、災害時の協力や協定の締結といった地域の貢献度を評価するとともに、簡易な実施方針を求めて評価するということにより、国土交通省の実績がない企業の競争参加機会を確保する。より地域コンサルタントの参加機会を確保するというものである。
- ・令和2年9月からは、地元企業でも対応可能な業種（例えば測量や地質調査を含む業務）を対象として「地元企業参加型JV」の評価を試行・開始しており、件数を拡大する必要があると考えている。
- ・地域コンサルタントの技術力向上・育成を図ることができる仕組みとして「業務チャレンジ型」、「地元企業参加型JV」は有効であると考えている。地域コンサルタントの受注機会確保につながる仕組みの試行に務めていきたい。

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① 重要事項の決定が必要な打合せには総括調査員または主任調査員に出席いただくよう指導していただいておりますが、速やかな意思決定による業務効率化や手戻り防止に効果があると思っておりますので、引き続き、事務所等へのご指導をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・主任調査員は業務全体を把握する必要があり、重要な判断については事務所長、副所長を含め対応することが基本なので、出席するよう事務所に対し指導を行っている。
- ・現場の実態として、課長はあまり時間がとれないため、係長が対応しているケースが多々ある。そこで議論された内容が課長や所長等にあがっていく段階で、意思の疎通が十分にとれていない、問題点の洗い出しができていないなどがあることは否定できず、やり方を研究していく必要があると考えている。
- ・意思決定すべきことは業務着手時にポイントを整理する、あるいは次の協議で議論したいことを予め双方で共有することで、事前にお互い認識をもっておくという細かい工夫が求められている。
- ・働き方改革で制限が求められる中、工夫をすることが必要であり、引き続き協力をお願いしたい。

(2)詳細設計等での三者会議における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、積極的な推進をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・ 第三者会議や設計審査会については特記仕様書に記載している。もし必要な場合で発注者の方から声掛けがない場合は、コンサルタントの方から提案いただければ対応したい。
- ・ 建設コンサルタンツ協会内でも認識を強め、設計思想の確認などを徹底して行うなど意思疎通を図ることを是非お願いしたい。このことが設計・施工・維持管理段階での手戻りの防止につながると考えている。
- ・ 受発注者間というより技術者同士の仕事のやり方として非常に重要と考えているので、協会の中での伝達をお願いするとともに我々もしっかり取り組んでいきたい。

【重点テーマ】

BIM/CIMを中心としたインフラ分野のデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組みについて

【話題提供等】

- ・ 中国地方整備局におけるインフラ分野のDXの取組みについての情報提供をお願いします(BIM/CIMを中心として)。

【中国地方整備局からの回答】

- ・ 国土交通省では社会経済状況の厳しい変化に対応し、インフラ分野においてもデータとデジタル技術を活用して、国民ニーズの基に社会資本や公共サービスを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を改革し、インフラへの国民理解を促進するとともに、安全・安心で豊かな生活を実現すべく省横断的に取り組みを推進している。
- ・ そのような目的のもと、令和2年7月に国土交通省はインフラ分野のDX推進本部を立ち上げている。これに続いて本年4月にインフラDX総合推進室を設置し、大臣官房技術調査課長を室長として本省、国総研などの研究所、整備局等の組織支分部局が連携してインフラDXに取り組んでいくという体制を構築した。
- ・ 【インフラ分野のデジタルトランスフォーメーション(DX)】は、建設現場の課題(将来の人手不足、災害対策、インフラ老朽化の進展)に加えて、社会経済情勢の変化(技術革新の進展、新型コロナウイルス感染症への対応等)の状況の中で、データとデジタル技術を活用して社会資本や公共サービスを変革する、業務そのものや組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を改革して、安全・安心で豊かな生活を実現するといったことを目標に取り組みを進める。具体的なアクションとして大きく4つのテーマによってこの取り組みを進めていく。
- ・ 【行政手続きや暮らしにおけるサービスの変革】では、「行政手続きの迅速化」として、例えば“特車通行手続きの迅速化”、“暮らしにおけるサービスの向上”については“ITやセンシング技術等を利用してホームでの転落防止などの技術の促進”や“ETCによるタッチレス決済を普及”させるよう進めていく。また「暮らしの安全を高めるサービス」として“長時間先の水位予測情報の提供”をこれまで以上に行うなど、暮らしに直結するサービスを変えるようなテーマで取り組んでいく。

- ・【ロボット・AI等活用で人を支援し、現場の安全性や効率性を向上】では、「安全で快適な労働環境の実現」として“無人化・自律施工による安全性・生産性の向上”を図り、また“パワーアシストスーツ等の活用による苦渋作業減少”にも取り組んでいく。「AI等を活用し暮らしの安全を確保」については、AIなどの活用によって点検員の“判断”を支援することや、CCTVカメラなどの活用による自動検知に取り組む。「熟練技能のデジタル化で効率的に技能を習得」については、熟練技能者が減少していることを踏まえた技術を構築する、といったテーマで取り組んでいく。
- ・【デジタルデータを活用し仕事のプロセスや働き方を変革】では、「調査業務の変革」のため“衛星を活用して被災状況を把握”することや、「監督検査業務の変革」のため“監督検査の省人化・非接触化”を目的としたドローン活用、画像解析や三次元測量を活用した出来形管理技術を確立していく。また「点検管理業務の効率化」ということで、遠隔臨場やリアルタイム映像からAI技術を活用して損傷状況の判断を行う、といったテーマで取り組んでいく。
- ・【DXを支えるデータ活用環境の実現】では、デジタルデータ技術を活用する上で、利用できる環境を構築するため、“社会課題の解決策の具体化”、“データ活用の基盤の整備”、3次元データ活用環境を整備するため“3次元データ等の補完・活用環境の整備”、我々が管理する“インフラ・建築物の3次元データ化”を行いコスト管理につなげる、というテーマで取り組んでいく。
以上が国土交通省全体としての取り組みとなる。
- ・「中国地方整備局のインフラDX推進の取り組み」の体制について、インフラDXの取り組みを進めていくため、既存の「中国地方整備局i-Construction推進本部」を改変して、整備局横断的に取り組みを推進する「中国地方整備局インフラDX推進本部」を本年10月12日に立ち上げた。
- ・これまでi-Constructionとして建設現場の生産性革命、働き方改革などの取り組みを行っている。BIM／CIMもその一連であり、調査・測量から設計、ICT活用工事、維持管理、この4つの段階で3次元データを活用しながらマネジメントをしていく取り組みである。これをさらに建設現場から広げて行政手続き等サービスの革新や、ロボット・AIの活用などの分野も含めて取り組みを行っていく、これがインフラ分野のDXのイメージである。
- ・中国地方整備局のインフラDX推進の体制として、「中国地方整備局インフラDX推進本部」にあわせて「中国地方整備局インフラDX推進本部・幹事会」を設置している。その下には各分野で個々に検討を行うグループを設けており、それぞれの取り組み分野について検討を行っていくこととしている。また、「中国地方生産性向上研究会」として学識者や県などの自治体、業界団体も含めてインフラDX分野で検討協力を行っていくという組織を設けている。
- ・推進本部のスケジュールについて、当面は令和4年度の取り組み内容の目標設定に向け、これまでの取り組み実績のレビューを行いながら、取り組み方針について検討を進めていく予定である。
- ・「BIM／CIM活用の取り組み」について、令和5年度までに小規模を除くすべての公共工事においてBIM／CIMを原則適用するということを目指して段階的に適用拡大しているところであり、令和3年度は大規模構造物の詳細設計で原則適用ということを進めている。当面は一般土木と鋼橋上部についてこのような形で取り組みを進める予定となっている。
- ・「令和5年度のBIM／CIM原則適用により実現している内容(想定)」では、設計段階において「3次元モデル成果物作成要領(案)」に基づく3次元モデルの作成及び納品が実施されており、施工段階においてもこの3次元設計モデルを用いた詳細設計の照査を行い施工計画の検討に活用する、という状況を想定している。またBIM／CIMの中ではリクワイヤメントを設定するようになっており、業務・工事それぞれの内容や状況に応じた項目についてリクワイヤメントを設定し、BIM／CIMデータを有効的に活用するよう進めていくこととしている。リクワイヤメントについては令和3年度から若干内容が変更されている。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望 及び中国地方整備局からの回答

- ・「中国地整BIM／CIM活用の取り組み」として、BIM／CIM活用業務の件数は、令和元年度で工事・業務を合わせて44件、令和2年度で60件である。令和3年度において、橋梁設計、トンネル、ダム本体の設計、道路設計、河川構造物設計（樋門設計）については、発注者指定型で原則BIM／CIMを適用し、河川構造物設計（護岸設計、水門設計、排水機場設計）、砂防構造物設計については受注者希望型とする。工事において、3次元設計成果が既にあるものについては原則適用する（発注者指定型）という形で進めることとしている。
- ・「BIM／CIM活用に関する検討」を進める中で課題が確認されている。受発注者の業務における活用状況を把握し、BIM／CIMを活用する上での課題を把握しながら、効果的なBIM／CIMの活用のあり方について検討を進めていきたい。
- ・現状で把握している中では、調査・設計・施工の3次元データについて、各段階から次の段階に移行する場面でソフトウェアやデータの互換性・整合性に課題があると聞いている。今後の維持管理、補修点検などの場面での活用を意識した場合に、どのような3次元データを用意すればよいかなどが見えていない。このような課題を把握し、今後の対応について分析・検討を行っていきたい。

【要望等】

- ① BIM／CIMをはじめとしたDXの推進、DXに係る受発注者双方の技術者育成のため、各種セミナー、研修会等の協働開催（中国地整と建コン協協働だけでなく、他発注者、他協会等を含む）の検討をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・令和2年度のi-Constructionの技術力向上・育成・展開の取組みとして、各県での研修や講演会、推進連絡会を活用した市町村への普及拡大のための講演会、業界等との意見交換、および職員を対象とした研修・セミナーを実施した。
- ・今年度も同様な形で進めている。

- ② BIM／CIM適用業務の拡大・効率的な推進のため、情報共有や課題解決を目的とした意見交換会等（既存体制の充実を含む）の開催の検討をお願いします。

【中国地方整備局からの回答】

- ・「インフラDX推進体制」で説明した「中国地方生産性向上研究会」は、もともと「i-Construction推進本部」にあったものであるが、引き続き「インフラDX推進体制」の中にも組み入れて検討していくという形で考えている。
- ・「中国地方建設現場の生産性向上研究会」の資料には、これまで行ってきた内容を示しており、今後もほぼ同様の内容で引き続き研究会を行っていききたいと考えている。

広島県との意見交換会（R3.11.4開催）

令和3年11月4日（木）広島市中区のTKP広島本通駅前カンファレンスセンターにおいて、広島県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島県からは細羽総括官をはじめ8名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長と坪井副支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ11名が出席しました。

今回は、一般テーマとして「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」「その他」の4項目、重点テーマとして1項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



細羽総括官の挨拶



小田支部長の挨拶

■広島県との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

I. 担い手の確保・育成のための環境整備

(1)受発注者協働による働き方改革および生産性向上の推進・強化

① 業務の平準化については、積極的に取り組んでいただいておりますが、引き続き、繰り越しの柔軟な対応を含む標準履行期限の確保、前倒し発注等発注時期の分散化による業務納期の平準化への取組みの継続をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・平成30年災害以降、本県においては繰越制度の柔軟な運用等によって、適切な履行期間の確保に努めているところであるが、さらに業務納期の平準化への取組を行っていく必要があると考えている。
- ・今後、債務負担行為、繰越翌債の活用等により、適切な履行期間の確保と業務納期の平準化に取り組んでいきたい。

② すでに、「労働環境改善」として、ウィークリースタンスを実践していただいておりますが、今後とも、着実な推進と形骸化しないような取組みをお願いします。

【広島県からの回答】

- ・令和元年6月から、災害対応等の緊急を要する業務を除く全ての業務を対象に、労働環境の改善を図ることを目的としてウィークリースタンスを実施している。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

・引き続き、受発注者双方で設定したウィークリースタンス実施項目を着実に実施するよう取り組んでいくが、もし形骸化しているような実情があれば、個別の案件でも構わないので確認させてほしい。

③ 共通仕様書に明示されているワンデーレスポンスについては、関係職員に対して文書で周知していただいておりますが、引き続き、着実な取組みをお願いします。

【広島県からの回答】

・引き続き業務の円滑化に向けてワンデーレスポンスに努めるよう指導していくが、発注者から回答がなく困っている実態があれば教えてほしい。

④ 業務の手戻り防止には、業務スケジュール管理表の導入・活用による業務管理、条件明示チェックシートの導入・活用が有効と考えられます。引き続き、導入に向けての検討をお願いします。

【広島県からの回答】

・本県においては設計・測量チェックマニュアルを作成し、打合せ段階において業務の主要事項、設計の基準値等をまとめたチェックシートを受発注者間で情報共有して成果品の品質確保、手戻り防止を図っている。

・業務スケジュール管理表と条件明示チェックシートの導入については、国等の動向を注視して考えていきたい。

(2)受発注者協働による災害対応に向けた環境整備

① H30年7月のような大規模豪雨災害や新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時には、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいております。今後とも、このような事象発生時には、同様のご配慮をお願いします。

【広島県からの回答】

・今年7月、8月の豪雨災害等においても、災害に関する業務を優先して行うことができるよう、既契約業務の一時中止、業務期間の延伸等の措置を行うなど適切に対応している。

・今後も同様の緊急事態が発生した場合においては、同様の措置を行うことを考えている。

(3)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

① 安定的な企業運営の観点から、管理技術者が複数の業務に従事する必要があります。測量・地質調査業務を含む合併業務における管理技術者配置条件の緩和の検討をお願いします。(例えば、国土交通省同様、管理技術者の配置を業務全体で1名とする等)

【広島県からの回答】

・業務分野毎に管理技術者には一定の資格・経験等を求めるようにしているので、合併業務についても業務分野毎に管理技術者の配置を求めている。国では緩和されているということなので、引き続き検討させていただきたい。

② 補修・補強設計業務において、発注時や変更時には、条件明示とともに見積りによる適切な積算価格の設定をお願いします。とくに、橋梁補修設計業務において、部材毎の損傷程度に応じた積算金額になるよう、歩掛の見直しの検討をお願いします。

【広島県からの回答】

・橋梁補修の積算については、橋梁補修設計業務標準積算基準書に基づいて行っている。積算基準書では橋長に加えて損傷範囲が局部的・限定的な場合と全体的な場合に分けて標準歩掛を設定している。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・ 今後は設計の実情を踏まえて損傷範囲を上部工と下部工毎に分けるなど、標準歩掛の見直しを検討していく。

(4)人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

- ① 若手技術者・女性技術者の活用促進に向けて総合評価落札方式(実績評価2型)の評価点を改定いただいております。引き続き、若手技術者の年齢制限の緩和(例えば、国土交通省同様、45歳以下を若手とする)の検討をお願いします。今後、「高年齢雇用安定法」の改正、施行を踏まえ、シニア人材活用のための制度についても導入検討をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・ 本県では中長期的な担い手の確保・育成に向けた取組として、令和2年度に若手技術者、令和3年度に女性技術者の評価を導入したところであり、その効果を検証し、今後の運用を検討していきたい。会員の皆様におかれては、厳しい状況下ではあるが、担い手の確保・育成に引き続き取り組んでいただきたい。
- ・ また、シニア人材活用については国等の動向を注視していくが、まずは実態の把握として現在各社でどのような立場でどのような業務を担っているのか、実情を教えてください。

II. 技術力による選定

- ① 業務の品質確保の観点から技術力により選定され、技術力を発揮した業務遂行が必要と考えています。斜め象限図を活用した適切な発注方式の採用・拡大をお願いします(高度な技術が要求される補修・補強設計業務を含む)。

【広島県からの回答】

- ・ 発注方式については、測量・建設コンサルタント等業務発注事務処理要綱・総合評価落札方式試行要領に基づいて、業務の内容を踏まえ適切に選定している。
- ・ 今回いただいた意見を踏まえ、引き続き業務内容に応じた適切な発注方式を選定するよう努めていきたい。

- ② 県内の市町においても技術力による選定が必要と考えています。引き続き、技術力による選定のための市町の入札制度改定への指導をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・ 市町に対しては、発注者協議会や公契連を通じて、入札契約制度に関する取組みを情報提供している。市町が新たな入札契約制度を導入する際、本県に問い合わせ等があった場合は、適切に助言等を行っていく。

III. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取り組みとして、受発注者合同現地踏査については、業務特性に応じて、特記仕様書に明示し、実施することになっています。国交省では既に全ての業務において導入されており、その有効性が確認されています。引き続き、取組みの強化をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・ 本県では設計・測量チェックマニュアルを制定して、打合せ段階において業務の主要事項、設計等の基準値等をまとめたチェックシートを受発注者間で情報共有し、成果品の品質確保、エラー防止を図っている。
- ・ 受発注者による合同現地踏査については、設計条件や施工の留意点等の明確化や共有を図ることができ、成果の品質向上につながると認識している。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・発注にあたっては業務内容を踏まえながら必要に応じて特記仕様書等に明示するとともに、業務途中においても受発注者による合同現地踏査が有効とされる事象が生じた場合には、受発注者協議の上、実施していただきたいと考えている。

(2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、対象工事の拡大等、積極的な推進をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・事業目的、設計条件等の情報共有や施工上の課題など、発注者が必要と判断した工事を対象として三者会議を実施していく。

IV. その他

- ① 平成26年に改正品確法が施行されましたが、未だ最低制限価格や低入札価格調査制度を導入していない県内の市町があります。ダンピング受注防止の観点からも引き続きご指導をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・ダンピング対策については、発注者協議会、公契連を通じて市町と情報交換を図り適宜助言を行っている。近年、導入いただいている市町も徐々に増えている状況であるが、依然未導入の市町もある。
- ・今後もダンピング対策について理解いただき、最低制限価格、低入札価格調査制度の導入について理解いただくよう今後も継続して取り組む。

- ② 対面打合せ時の接触による感染症拡大を防止するため、打合せや検査を実施する場合、Web会議システム等を積極的に活用していただいております。引き続き、感染症拡大を防止のためだけでなく、業務効率化のため、平常時においてもWeb会議システム等の積極的な活用の推進をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・Web会議システムを活用した打合せ・検査については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のみならず、受発注者の業務効率にもつながると考えている。平常時においても活用していきたいと考えている。

【重点テーマ】

- ・BIM/CIMを含む、インフラ分野のデジタルトランスフォーメーション(DX)の取組みについて

【話題提供等】

- ・貴県におけるインフラ分野のDXの取組みについての情報提供をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・広島県においては、建設分野における調査・設計・施工から維持管理のあらゆる段階においてデジタル技術を最大限に活用して官民が連携してインフラをより効果的・効率的にマネジメントしていくために目指す姿、具体的な取組案をとりまとめた「広島デジフラ構想」を令和3年3月に策定した。このデジフラ構想では、40項目の具体的な取組案を掲げており、この中でインフラマネジメント基盤(DoboX)の構築、BIM/CIMなどi-constructionの推進に取り組むこととしている。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

- ・この中では、「インフラマネジメント基盤 (DoboX) の構築・運用拡大」について、我々が柱の一つとして取り組んでいるところである。現状として道路の規制情報や河川の観測情報などのインフラデータが、各々のシステムで個々に管理されているので連携ができていない、オープンデータ化が十分に進んでいない状況である。このため、将来県保有のデータのみならず、様々な主体が保有するデータが一元化・オープン化されている、オープンデータの利活用によって新たなビジネスやイノベーションが創出されているという状態を目指している。
- ・DoboXについては、令和3年9月に契約策定して現在開発中である。令和4年の出水期(6月頃)を目指して開発しており、完成後には県が保有しているデータなどをオープン化していきたいと考えている。
- ・まずは地盤情報や県土全体の3次元デジタル化について、オープンデータ化するので設計に利用いただきたい。

【要望等】

- ① BIM / CIMをはじめとしたDXの推進、DXに係る受発注者双方の技術者育成のため、各種セミナー、研修会等の協働開催の検討をお願いします。

【広島県からの回答】

- ・建設分野におけるDXの推進にあたっては、建設分野における関係者のデジタルリテラシーの向上が重要であると考えており、今年から研修内容や研修対象者、研修の運営手法の検討に着手している状況である。
- ・またデジフラ構想の取組姿勢の一つとして、様々な関係者を巻き込むということを掲げており、来年度以降で建設コンサルタンツ協会とも連携して研修会等を開催したいと考えている。「広島デジフラ構想」では「建設分野におけるデジタルリテラシー向上に係る研修の実施」を掲げており、研修も実施していきたい。

- ② DX推進のひとつとして、契約関係書類、業務関係書類の簡略化・電子化等、ICTを活用した業務手続きの効率化への取組みをお願いします。

【広島県からの回答】

- ・「広島デジフラ構想」の取組の一つとして、令和6年度に電子契約システムの運用開始を掲げており、建設工事や設計業務等の契約相手となる業界関係者の意見を伺いながら、電子契約システムの検討を進めたいと考えている(電子契約については「広島デジフラ構想」の「公共事業の調達事務の電子化」に記載)。
- ・引き続き業務関係書類も含めて簡略化や電子化に取り組んでいきたい。
- ・ICTを活用した業務効率化としては、建設現場等の遠隔臨場に関する試行要領を策定したところであり、地質ボーリングの検尺立会等へ積極的に活用していきたいと考えている(「広島デジフラ構想」の「受発注者間の協議・臨場等の高度化・効率化(i-constructionの推進)」に記載)。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島県からの回答

③ BIM / CIM 適用業務の拡大・効率的な推進に対応して、情報共有や課題解決を目的とした意見交換会等の設置の検討をお願いします。

【広島県からの回答】

・ 業界関係者の意見を聞き、課題を把握したうえで取り組む必要があると考えており、意見交換の場も設置していきたい。また「広島デジフラ構想」の「建設分野におけるDX推進のための官民協働体制の構築」に掲げているとおり、官民協働体制の構築を考えていきたい。

④ 3次元設計における当面の業務量の増大に対する措置（余裕をもった履行期限の設定等）の検討をお願いします。合わせて、積算体系の早急な整備をお願いします

【広島県からの回答】

・ 現時点では、従来の2次元の設計を基に3次元設計を行っていることから、従来に比べて業務量が増大していると伺っている。また、3次元設計に必要な費用については、業務により3次元化設計を行う範囲が様々であること、国でも標準歩掛が設定されていないことから、現在見積により対応している。

・ 適正な履行期間の設定と積算体系の整備については、国の基準、要領等の整備の動向を注視しながら検討していきたい。

岡山県との意見交換会（R3.12.15開催）

令和3年12月15日（水）岡山県庁において、岡山県と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

岡山県からは長尾技術総括監をはじめ4名の幹部職員が、中国支部からは小谷副支部長、金本業務部会長をはじめ11名が出席しました。

今回は、「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目について意見を交わすことができました。

意見交換会の議事の要旨は、下表の通りです。



岡山県との意見交換会

岡山県との意見交換会要旨

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

I. 担い手の確保・育成のための環境整備

(1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 履行期限（納期）の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

- 建設コンサルタント業務の納期分散の実現のため、設計変更後の目指すべき納期目標（建設コンサルタント業務の第1四半期20%程度・第2四半期30%程度・第3四半期10程度・第4四半期40%程度・3月30%以内）と整合を図った施策の強化と計画展開をお願いします。
 - 国債（ゼロ国債・2カ年国債）・翌債の活用（秋納期業務の発注）
 - 繰越しの柔軟な運用
 - 前倒し発注等発注時期の分散化をお願いします。

特に橋梁に関する業務はコンサル側の人材不足にあり工期に余裕をもった発注をお願いします。

【岡山県からの回答】

- 県では、中国地域発注者協議会において設定した、業務に係る「第4四半期納期率」の目標も踏まえ、建設産業の働き方改革の促進に資するよう、ゼロ県債や2カ年債務、翌債を活用し、前倒し発注や履行期限（納期）の分散化、標準履行期間の確保に努めているところであり、引き続き、履行期限の（納期）の平準化や標準履行期間の確保に努めて参ります。
- 令和2年度の平準化の取組み結果は、目標0.50に対して0.47で、目標を達成することができました。

第4四半期納期率の目標

R2	R3	R4	R5
0.50	0.45	0.42	0.40

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

・今年度も更なる平準化を図るため、目標を0.45として取り組んでいるところです。

② 受発注者協働によるワークライフバランスの更なる改善に向けての施策の推進・強化

・すでに、「労働環境改善」として、ウィークリースタンス（ノー残業デー、フライデー・ノーリクエスト、マンデー・ノーピリオド等）を実践していただいています。今後とも全業務への適用・実施計画・実施報告による確実な推進をお願いします。

【岡山県からの回答】

・ウィークリースタンスについては、災害対応等の緊急を要する業務を除くすべての業務を対象に、令和2年4月から実施しているところですが、一部徹底できていないという業界からの声も踏まえ、改めて担当職員に対し、取組の目的を再度周知するとともに、確実に実行するよう徹底したところであり、今後とも、建設コンサルタント業界の就労環境の改善に向けて適切に対応して参りたいと存じます。

③ 建コン協会中国支部では、計画系業務を含む幅広い業務を対象とした業務スケジュール管理及び設計条件明示の徹底、ワンデーレスポンスの着実な取組みをお願いしています。岡山県においても同様をお願いします。

【岡山県からの回答】

・本県では、国のような「業務スケジュール管理表」や「設計条件明示チェックシート」は活用しておりませんが、必要に応じて、適正なスケジュール管理に努めるとともに、設計条件等については、発注時の特記仕様書に記載することとしております。

・今後もこの取扱いを徹底し、業務が円滑に実施できるよう、ワンデーレスポンスの徹底に努めて参ります。

④ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

・BIM/CIM適用事業拡大及び対象分野が拡充されています。岡山県における取組みの現状と今後の予定を教えてください。

・特に、今後の業務発注の予定及び積算体系の整備の状況についてお願いします。

【岡山県からの回答】

・本県では、今年度試行的に測量（UAV）業務を発注したところであり、今後、対象分野の拡充について検討して参ります。

・積算体系の整備状況については、歩掛を含め国に準拠していることから、現状は見積で対応しており、今後の国の動向を注視して参ります。

⑤ インフラ分野のデジタルトランスフォーメーション（DX）の取組みについて岡山県の状況を教えてください。

【岡山県からの回答】

・県管理道路斜面の点検の迅速性や安全性の向上、対策工事における省力化、工法選定の最適化、工事の優先度判定などに活用するため、令和3年度から「道路防災DX事業」として、航空レーザー測量データを基に、落石発生源となりうる急崖面等を判読できる高精度のデジタル地形図の整備を進めていくこととしており、今後は他の分野においても検討が必要と考えております。

(2)受発注者協働による災害対応、緊急事態に向けた継続的な環境改善

① 大規模災害、新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時には、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいています。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

今後も災害対応業務への従事職員が対応していた既往業務の効果的な業務中止命令と工期延期の実施、管理技術者交替要件の緩和をお願いします。業務の一時中止指示等については、文書によることの徹底をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・大規模災害等発生時における履行中業務の一時中止の指示や工期延期については、今後とも適切に対応するとともに、その指示に当たっては文書によることを徹底して参ります。
- ・なお、管理技術者交替要件の緩和については、契約の適正な履行の確保を図るため、主任技術者や照査技術者は原則変更できないこととしており、やむを得ない理由により変更を行う場合には、監督員にお申し出下さい。

② 建コン協会中国支部では、対面打合せ時の接触による感染症拡大を防止するため、打合せや検査を実施する場合、Web会議システム等の積極的活用をお願いしています。岡山県のWeb会議システム等の導入状況、活用状況を教えてください。

国交省では電子契約が導入されましたが、緊急事態や働き方改革への対応の観点から、岡山県におかれましても導入のご検討をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年5月から、建設コンサルタント等業務委託についても、岡山県情報共有システム(ASP)の一部機能を利用できるよう臨時措置を講じたところです。
- ・Web会議等は、移動時間や手待ち時間が削減され、現場作業の円滑化や業務の効率化が図られることが期待できるため、本庁、県民局等それぞれにおいて、実施のための環境整備に努めるとともに、必要に応じて活用しているところです。Web会議の利用を希望される場合は、監督員にお申し出下さい。
- ・また、電子契約については、役務や物品、サービス等の調達においても有効であることから、今後の全庁的な動きや国等の状況を注視して参りたいと考えております。

(3) 企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

① 最低制限価格については、改善していただいておりますが、企業経営の安定のためだけではなく、品質確保・向上に向けた担い手確保・育成や技術力向上・生産性向上のための企業投資に対応する最低制限価格の継続的な引き上げをご検討いただきますようお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・最低制限価格については、国の低入札価格調査基準の水準を踏まえて設定しているところであり、引き続き、応札状況や国の動向を注視して参りたいと存じます。

② 補修・補強設計業務において、発注時や変更時には、条件明示とともに見積りによる適切な積算価格の設定をお願いします。特に、橋梁補修設計業務において、部材毎の損傷程度に応じた積算金額になるよう、歩掛の見直し検討をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・本県では、橋梁の補修・補強設計において、より具体的な条件明示となるよう、点検結果を参考図書として添付することを検討しています。引き続き、業務の内容・積算条件を明示するよう努めて参りたいと存じます。
- ・補修設計業務歩掛の見直しによる適切な積算価格の設定については、国や他県の状況を注視しながら適切に対応して参りたいと存じます。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び岡山県からの回答

- ③ 業務の途中段階で、共通仕様書や特記仕様書に記載されている内容以外の資料作成等を指示される場合がありますが、このような場合には、費用及び履行期間の変更対象とする等のご配慮をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・設計書等がない追加作業や変更の作業は、書面で指示し、費用や履行期間の変更を行っており、引き続き、書面による指示や適切に変更を行うよう周知・徹底して参ります。

II. 技術力による選定

(1) プロポーザル方式・総合評価落札方式等の適確な運用・改善

- ① 平成26年度に改正品確法が導入されました。「発注関係事務の運用に関する指針」に基づき、技術力・品質に優れた企業を選定するため、業務内容に応じて、総合評価落札方式、プロポーザル方式のような技術競争による発注方式の導入・拡大をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・プロポーザル方式については、業務内容に応じて高度な調査研究業務等において個別に実施しているところであり、今後とも必要に応じて実施して参ります。
- ・また、総合評価落札方式の導入については、今後研究して参りたいと存じます。

(2) 人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

- ① 若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度の導入検討、シニア人材活用のための制度の導入検討をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、並びにシニア人材活用のための制度の導入については、国や他県の動向を注視して参りたいと存じます。

(3) 地方自治体における発注方式の改善

- ① 技術力を基本とした企業選定のため、業務分野に応じた有資格者（技術士・RCCM等）・建設コンサルタント登録制度の的確な活用をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・指名競争入札における指名業者については、業務の内容に応じて、「岡山県測量及び建設コンサルタント業務等指名業者等選定要綱」第2条に掲げる登録部門に係る資格を有する者のうちから、業務の履行に必要な技術的水準と同程度の業務の履行実績があることなどを考慮して選定しているところです。

- ② ボーリング調査の単価は市場単価が適用されています。単価は建設物価と積算資料に掲載されており、国土交通省ではその平均値を採用していますが、岡山県ではいずれか安い方を採用されています。国土交通省と同様に平均値での積算をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・いずれの市場単価も、実勢価格調査に基づく単価であり、低額であっても実施可能であると考え採用しており、これはボーリング調査だけでなく、その他の市場単価でも共通の考え方でありますので、単価の採用方法について引き続き検討して参りたいと存じます。

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取組みとして、受発注者合同現地踏査については、業務特性に応じて、特記仕様書に明示し、実施することになっています。国交省においては全ての業務において導入されており、その有効性が確認されています。引き続き、取組みの強化をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・引き続き、合同現地踏査については、業務特性を踏まえ必要に応じて実施して参りたいと存じます。
- ② 品質を確保するうえでは、適切な工程管理が重要と考えますので、条件確定や対外協議の円滑な実施と、これらが遅延した場合の履行期間の延期等については引き続きご配慮をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・業務の円滑な実施のため、速やかな条件確定や対外協議に努めているところですが、これらが遅延した場合の変更については適切に対応して参ります。

(2)詳細設計及び三者会議等における総合的な品質の確保

- ① 施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」を実施していただいております。地質技術者を加えた合同会議は、設計者、施工者、地質技術者相互にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果が期待されますので、引き続き、対象工事の拡大等、積極的な推進をお願いします。また、追加検討や修正が発生した場合には、適切な費用計上をお願いします。

【岡山県からの回答】

- ・三者会議は、重要構造物を含む工事や発注者が必要と認める工事を対象としているところであり、引き続き必要に応じて実施して参りたいと存じます。
- ・また、追加検討や修正が発生した場合の費用につきましても、発注者と設計者が契約を締結して支払うなど、適切に対応して参りたいと存じます。

(3)業務表彰制度の創設

- ① 業務成果の品質確保・向上のためにはコンサル側の業務担当者のモチベーションを高くすることも重要です。現在、業務ごとに評価点をつけていただいておりますが、さらにモチベーションを向上させる方策として業務表彰制度の創設を希望します。年度ごとに業務担当者及び受注企業を表彰対象とすることを提案します。

【岡山県からの回答】

- ・技術者の意欲向上と業者の技術力向上は、品質確保の観点から重要であり、委託業務表彰制度は有効な手法であると考えております。
- ・現在の岡山県の成績評定は、国の成績評定要領に準拠しておりますが、国は平成30年度に見直しを行っており、現在、県の成績評定について、見直しの検討を行っているところであります。表彰制度については、早急に成績評定の見直しを行い、厳正かつ的確な評定の実施を行ったうえで、導入して参りたいと考えております。

鳥取県との意見交換会（WEB併用方式）（R3.11.1開催）

令和3年11月1日（月）、鳥取県庁において、鳥取県と建コン協会中国支部及び鳥取県委員会の意見交換会が開催されました。

鳥取県からは県土整備部の森田部長をはじめ6名の幹部職員等が、中国支部からはWebで小田支部長、金本業務部会長、吉岡同副部会長が、鳥取県委員会は対面方式で下山委員長をは

じめ5名の委員の計8名が出席しました。

今回は、「担い手確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」の3項目について意見を交わすことができました。

議事の要旨は下表のとおりです。



鳥取県県土整備部参加者



建コン協中国支部参加者（画面右側）



建コン協鳥取委員会参加者

■鳥取県との意見交換会要旨

建設コンサルタント協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

I. 担い手の確保・育成のための環境整備

(1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

① 履行期限（納期）の平準化と標準履行期間の確保への取組み強化

- 1) 納期分散の実現のため、納期目標と整合を図った施策の強化と計画的展開（ゼロ県債・翌債などの活用、繰越の柔軟な運用など）

従来から履行期限の平準化にご配慮いただき感謝申し上げます。働き方改革、生産性の向上に向けて、納期（工期）の現状をご教示願います。また、目標（案）にありますように、一層の平準化をお願いいたします。（とくに、第4四半期及び3月納期）

【納期の分散目標（案）】

第1四半期：20%程度 第2四半期：30%程度（第1・第2四半期計：39.0%）

第3四半期：10%程度（11.6%） 第4四半期：40%程度（49.4%） 3月：30%以内（35.9%）

（ ）内は令和元年度の鳥取県実績

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・ゼロ県債、早期翌債を活用することで、今後とも履行期限の平準化、適正工期の確保に積極的に取り組みます。

なお、3月に工期が集中する傾向はあるものの、その割合は減少傾向にあり、引き続き3月工期を減らす取組みを進めていきます。

[期間別工期割合]

年度	4～9月期	10～12月期	17 3月期	3月工期
H27	20.2%	20.9%	58.9%	42.5%
H28	24.4%	20.3%	55.2%	37.3%
H29	32.8%	18.0%	49.2%	32.3%
H30	30.0%	19.8%	50.2%	32.1%
R1	39.0%	11.6%	49.4%	35.9%
R2	29.4%	22.3%	48.3%	32.2%

2) 発注時における条件明示の徹底による標準履行期間を確保した計画立案及び業務遂行

鳥取県において「設計業務品質確保ガイドライン」を活用した条件明示が行われています。品質確保・手戻り防止・生産性向上などに向けて、引き続き一層の徹底をお願いいたします。

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・設計業務品質確保ガイドラインは、設計業務における発注者側からの条件明示の明確化と工事発注時の施工条件の基礎資料とすることを目的に、平成30年3月に策定し、同年4月以降の設計業務から条件明示チェックシートの作成を行っています。
- ・設計業務の品質確保・向上、生産性向上のため、今後ともガイドラインの適用を徹底します。

② 受発注者協働によるワークライフバランスの改善に向けての施策の推進・強化

1) 「ウィークリースタンス※」の全業務への適用と実施報告の徹底

鳥取県においては「労働の改善に向けた取組」について文書通知に基づき、上記のような活動の浸透・拡大が行われていますが、引き続き一層の徹底をお願いいたします。

（※マンデー・ノーピリオド、ウェンズデー・ホーム（ノー残業デー）、フライデー・ノーリクエスト、資料作成依頼を正規の勤務時間外に行わない、資料作成依頼を行う場合は適切な期間を確保すること、など）

【鳥取県からの回答】（技術企画課（技術調査））

- ・平成28年度にワンデーレスポンス、ウェンズデーホーム等、受発注者双方が業務を進める上での基本スタンスを示した「労働環境の改善に向けた取組」について通知し、受発注者双方の労働環境改善を図っています。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

・災害等の緊急業務で一部適用できない業務はありますが、引き続き労働環境改善の取組を進めていきます。

2) ICTの導入・活用による業務効率化の促進

コロナ禍におきまして、Web会議システムが受発注間で浸透しつつあります。今後、テレワークの拡大なども視野に入れ、各種業務を効率化するためにICTの活用等DXの推進はますます重要になってくると予想されます。そこで、下記事例等の予定・方向性についてご教示願います。

【業務効率化促進の具体例】

- ・業務実施におけるASPサービスの活用（情報共有）
- ・業務基礎データ（道路台帳を始めとする各種台帳など）の電子化
- ・技術基準等の電子化
- ・電子契約の推進 等

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

【業務におけるASPサービス】

業務も情報共有システムの対象とするよう、鳥取県電子納品・情報共有運用ガイドラインの改正を検討します。

【業務基礎データ】

業務基礎データの電子化等については、令和2年度から工事監理システムの整備と併せて情報共有システム及び電子納品保管管理システムの整備を順次進めており、業務における活用も検討することとしています。

【技術基準等の電子化】

鳥取県の業務共通仕様書、業務関係基準等の主な基準は技術企画課ホームページで公表しています。今後、その他の基準についても、順次ホームページに公開します。

【電子契約】

契約手続き（契約締結、請負代金の請求等）を、紙を必要としない電子契約とすることは契約事務の効率化、コスト縮減等に大きく影響し、DX推進の観点から重要な課題です。

一方で電子認証やタイムスタンプなどセキュリティ面での課題も多く、インフラ分野に限らない契約業務に関わる課題でもあり、県庁全体としての取組についての検討も必要と考えております。

【総括】

いずれにしても業務の効率化は重要な課題と考えており、他自治体の動向などにも注視しながら、導入の可能性を探ってまいりたいと思います。

③ BIM/CIM活用による建設生産・管理システム全体に係る生産性向上への取組み

協会の具体方策として、平成28年度～今年度まで実施してきた会員企業の社員と鳥取県職員との合同による研修会・勉強会を継続的に実施していきたいと考えております。今後ともご協力、ご支援をお願いいたします。

（令和3年度：9月29日実施済み）

【確認事項】

国土交通省は2023年度（R5年度）にすべての詳細設計・工事で原則としてBIM/CIMを適用する予定となっています。鳥取県の推進・普及・活用等の予定についてご教示願います。

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・ ICT活用は平成30年度から試行を開始し令和3年度は令和2からの継続4件、新規1件の5件を実施しています。令和4年度以降も試行を継続することとしています。

(2)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

① インフラ整備の中長期事業計画の策定・公表と安定的な事業量の確保

「防災・減災、国土強靱化のための5ヵ年加速化対策」が令和2年12月に閣議決定されました。この加速化対策を受け、鳥取県においても「鳥取県国土強靱化地域計画（第2期計画）」に基づき各種事業が行われていると推察されますが、県土整備部に関わる事業概要ならびに重点施策（予算）につきましてご教示願います。

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・ 近年、自然災害が激甚化・頻発化しており、事前防災の観点による国土強靱化対策の強化が急務となっている。このため、本県では「鳥取県国土強靱化地域計画（第2期計画）」（令和3年3月策定）に基づき、「防災・減災、国土強靱化のための5ヵ年加速化対策」等を積極的に活用して対策を推進している。しかし、依然として対策が必要な箇所は数多く残っていることから、今後も一層対策を強化していくこととしている。

【5ヵ年加速化対策の概要】

令和2年度補正予算（県土整備部）：約111億円

※令和3年度の初年度分は令和2年度補正として配分、令和4年度以降の予算については未定

- ・ 河川関係：36億円（河床掘削、河川改修、流域治水対策等）
- ・ 治山砂防関係：15億円（砂防堰堤、急傾斜地・地すべり対策等）
- ・ 道路関係：59億円（落石対策、ミッシングリンク解消等） など

② 技術者単価の継続的な引き上げと実態に即した歩掛・積算体系への改善及び整備、適切な費用計上

9年連続で設計業務委託等技術者単価を上げていただき、感謝申し上げます。この技術者単価アップの動向は国の方針が大きく影響していると思いますが、継続的な引き上げをお願いいたします。

また、次に示します業務の歩掛改善につきましてご検討もよろしくをお願いいたします。

【歩掛改善が求められる業務例】

- ・ 橋梁補修にかかる点検及び設計

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・ 技術者単価、積算歩掛については、国の基準を基に適正な費用計上に努めています。
- ・ なお、橋梁補修に係る点検、設計歩掛については、改正を検討します。

③ 「土木設計業務等変更ガイドライン」の補足資料の策定と適切な設計変更

これまで業務環境に応じた設計変更等にご配慮いただいておりますが、一層の徹底をお願いいたします。（ガイドライン策定の予定なし）

【設計変更が適切に行われない事例・背景など】

- ・ 発注者内部の課題（担当者（人事異動等）の問題、担当者と上司の連携の問題 等）
 - ・ 受発注者の情報共有不足（確認書類の不備）
- （直接的な原因：条件確認の遅れ・業務終了間際での条件変更、予算不足 等）

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

【ガイドライン策定において規定する内容の例】

- ・変更の可否（履行期間、費用など）

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・発注者内部の課題については、受注者に手戻りを生じさせないように、各調査員が密に連携するよう周知徹底します。
- ・また資料提供の遅れ、工期末での条件変更については、内容によっては設計変更の対象となりますので、調査員と協議をお願いします。

③人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

① シニア人材の活用のための制度改善

業界の担い手不足が続いている状況のなかで、経験豊富なシニア技術者の活用も課題解決の方策のひとつと考えます。併せて、若手社員などの人材育成、品質確保・向上などへの貢献などにも重要な役割を絶たすことが考えられます。このため、シニア人材活用に対するインセンティブの付与についてご検討願います。

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・現在、国で試行していると伺っており、今後の国交省の動向を見ながら実施の可否を検討します。

② 建設コンサルタント技術者の社会的地位向上、やりがい創出を図るため、銘板への技術者名明記の取組み推進

国土交通省において各種公共構造物の銘板に設計技術者名の記載が行われるようになってきています。銘板への記載は、技術者のやりがいや誇りとなり、建設業界全般の担い手確保にもつながると考えられます。

昨年度も、このような取り組みについてご検討いただくようお願いいたしましたが、その後どのような方向性になったかご教示願います。

【鳥取県からの回答】（技術企画課）

- ・試行実施について関係機関と協議します。

II. 技術力による選定

(1)鳥取県における発注方式の改善（技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進）

改正品確法（令和元年6月）第22条の「発注関係事務の運用に関する指針（運用指針）」に基づき、発注者の役割・責任として以下の発注方式の改善への取組みの強化

① プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注量の増加

県内向け業務（「難易度が高い」業務）で試行されていた「簡便型総合評価入札方式」が、来年度から本格導入される予定です。このことは、「抽選の回避」、「落札率アップ」という点で大きな進展と考えます。

しかしながら、一方で、次項のような課題も挙げられます。

- ・受注減点が大きいため（技術点約40点満点に対し、1業務目の受注で30点減点）、特定企業が連続して受注することは無く、入札への全参加企業が概ね順番に受注可能な制度となっている。
- ・このため、応札行動は、業務内容よりも業務価格により支配される傾向が強い。
- ・とくに、年度当初（全社未受注の段階）は、低価格の業務が不調になるリスクが高い。

この方式は、参加企業すべてが同程度の規模・技術力であれば、合理的な制度と考えられますが、規模・技術力にバラツキがある場合は、総合評価本来の「品質と価格」による評価という目的から大きく乖離する可能性があります。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び鳥取県からの回答

一方、県内・県外向け業務は、調査基準価格での抽選による落札者決定という状況が続いております。

このような現状を踏まえ、総合評価落札方式の本来の目的である「品質確保・向上」という視点を適切に反映できるように、入札契約制度の継続的な改善をお願いいたします。

【改善(案)】

〈県内向け業務に対して〉

○簡便型総合評価方式の改善(例)

- ・業務特性(業務分野、難易度、予定価格等)に応じて適切な参加要件(入口条件)を設定
参加要件の例：業務実績、建コン登録、技術士などの資格、業務成績 等

〈県内・県外向け業務に対して〉

○簡便型総合評価方式の導入(例えば、配置技術者の資格、鳥取県内における同種業務の実績、鳥取県の業務成績評定点、「簡易な提案書」等を評価項目とする方式)

○プロポーザル方式、技術提案型総合評価方式の増加(提案書の簡素化も要検討)

【鳥取県からの回答】(県土総務課)

- ・県内向けの簡便型及び地域密着型総合評価入札については、極力簡易な方法で各社の技術力を評価することで、入札事務の簡素化と一定の品質が確保できるものと考えています。
- ・一方で、県内・県外向け業務においては、ご指摘のとおり調査基準価格での抽選による落札者決定という状況が続いており、課題があると認識しています。
- ・両件とも、品質確保・向上に向けて継続して入札契約制度の見直しが必要と考えており、例えば【改善(案)】のような方式の検討について今後も発注機関や県内コンサルタント(中小規模企業等)の意見も聞きながら改善を行っていきます。

② 国土交通省方式の業務成績評定や業務・技術者表彰の導入と活用の促進(増加と公表)

測量等業務成績評定要綱の見直し(国交省方式へ変更)の予定があればご教示願います。

【鳥取県からの回答】(技術企画課)

- ・令和2年11月に評価項目がない場合に、分母が減り不公平とならないよう、評定点の補正を行いました。現時点で更なる評定要綱の見直しの予定はありません。
- ・また技術者表彰については、活用に向けた見直しの予定はありません。

(3)地域の担い手づくりのための地域コンサルタントの活用と育成

① JV参加型業務の拡大(⇒鳥取県独自項目)

県内コンサルタントの技術力アップに繋げるため、業務内容に応じて県内・県外コンサルタントでのJV参加案件の拡大をお願いいたします。

【具体例】

- ・河川整備計画の策定検討
- ・港湾施設設計
- ・交差点設計(連続交差点の交通解析を含む)
- ・道路・交通等現況分析
- ・交通需要予測検討 等

【鳥取県からの回答】（県土総務課）

- ・ 県内コンサルタントの技術力向上を図り、県内でできる業務を増やすために平成27年度からトンネル定期点検業務を県外・県内JVで発注しており、これまでに県内技術者のトンネル部門RCCM資格者が増え、代表者として受注可能な会社が増えるなど、一定の成果は上がっています。
- ・ 提示された具体例を含めて、県内・県外コンサルタントのJV参加案件の拡大については、発注機関の意見も聞いた上で検討します。

Ⅲ. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

① 品質確保・向上に資する施策の継続的改善

- 1) 施工条件明示チェックシートの契約図書としての明確化及び効果的な運用・活用
公共施設の施工における品質確保・向上に向けて、国交省などで「施工条件明示チェックシート」を活用した試行が行われています。
鳥取県においても同様な取り組みを行っていく予定があるかご教示願います。

【鳥取県からの回答】【技術企画課】

- ・ 国交省の取組を参考に今後活用を検討します。

(2)維持管理・更新事業等における技術的課題の改善

- ① 設計者・施工者連携方式（設計の受注者が工事段階で関与する方式、工事の受注者が設計段階から関与する方式（ECI方式））の検討等合理的な入札契約制度の選定
橋梁補修などの分野において、上記のECI方式を導入する予定があるかご教示願います。

【鳥取県からの回答】（県土総務課）

- ・ 現時点で導入予定はありません。

② 地方自治体のメンテナンス事業の促進

老朽化した社会インフラの増大に対し、計画的にメンテナンス事業を実施していくことをお願いいたします。

【鳥取県からの回答】【技術企画課】

- ・ 平成25年に道路法が改正され、橋梁・トンネル等の道路施設の構造物を5年に一度、近接目視点検により点検することとなりました。
- ・ 点検時に健全性を判定し、結果を長寿命化計画に反映することとしており、長寿命化計画的に基づき計画的に点検・修繕を行っています。

■ 広島市との意見交換会（R3.11.30開催）

令和3年11月30日（火）広島市中区地域福祉センターにおいて、広島市と建コン協中国支部の意見交換会が開催されました。

広島市からは木村都市整備局次長をはじめ5名の幹部職員が、中国支部からは小田支部長、來山総務部会長、金本業務部会長をはじめ7名

が出席しました。

今回は、「担い手の確保・育成のための環境整備」、「技術力による選定」、「品質の確保・向上」「その他」の4項目について意見を交わすことができました。



木村都市整備局次長の挨拶



小田支部長の挨拶

■ 広島市との意見交換会要旨

建設コンサルタント協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

I. 担い手の確保・育成のための環境整備

(1)建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化

- ① 業務履行期限（納期）の平準化のため、発注時期の分散化や早期発注に努めていただいておりますが、引き続き、繰越の柔軟な対応を含む標準履行期限の確保に加えて、発注時や変更時における条件明示の徹底をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・（街路課）業務については早期発注に努めるとともに、業務規模に応じた適正な履行期間の確保に努めている。市の予算の都合上、業務の発注に際して年度末工期を設定する 경우가多いが、年度内に適正な履行期間が確保できない場合は繰越等の措置により適正な履行期間を確保し、完了工期が年度末に集中しないように取り組んでいる。
- ・（管路課）業務については現状においても極力早期に発注する状況であるが、予算上早期発注が難しい場合は、繰越措置等により適正な工期となるよう変更で対応している。

- ② ウィークリースタンスについては、実施要領を策定いただき、昨年度より施行いただいております。引き続き、実施状況をモニタリングしていただき、必要性に応じて改善施策の検討をお願いします。また、取組みが形骸化されないよう各所に対して継続的なご指導をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・（街路課）ウィークリースタンスについては、引き続き推進を図るため、打合せを業務時間内に行うことや、休日等に資料を作成しなければならない状況が発生しない配慮をするように努めていきたいと考えている。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

- ・(管路課) 作業指示等においては提出に余裕を持った中で対応している。就業時間外の業務打合せ等は極力避けるよう努めている。今後もこの体制で進めていきたいと考えている。
- ・(技術管理課) ウィークリースタンスについては令和2年9月に実施要領を策定し、受発注者で取り組みをしている状況である。今後この実施状況を踏まえ、また国や県の新たな取り組みがあれば、それを参考にしながら改善等を検討していきたいと考えている。
- ・業務の平準化について、国が目標値を定めて実施している定義は、分母が全業務件数、分子が第4四半期(1月～3月)に完了する件数であり、全国的にはこの数字を0.4以下にすることが目標になっている。令和元年度の中国ブロック(整備局を含む)の平準化は、一番進んでいるところが0.40、一番高いところが0.55で、目標を達している県がある。広島市については0.43ということで、かなり目標に近く平準化を進めているという状況である。
- ・令和2年度はまだ国土交通省から公表されていないが、本市が把握している範囲では、ほぼ同じもしくは若干改善している。引き続き平準化に取り組み、適正な工期の確保に努めていきたいと考えている。

③ 国においては、業務スケジュール管理表や条件明示チェックシートを活用した業務管理の有効性が確認されています。これらについての導入検討を引き続きお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課) 業務スケジュール管理表および条件明示チェックシートの導入について、国および一部の県ですでに取り組みされていることは認識している。このような自治体での取り組みにおいて、どのように効果を上げているか、有効性がどのように発揮されているかを確認しながら、今後本市としてどのように取り組むか引き続き検討していきたいと考えている。

④ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、Web会議等の積極的な活用が推進されています。一部で実施していただいているWeb会議の活用拡大の検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課) 本市でもWeb会議の活用は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として有効であると考えている。今後も引き続きWeb会議の活用を推進していきたいと考えている。ただ、業務の種類や感染状況で左右されるので、第6波の状況等を踏まえながら、必要に応じて対応していきたいと考えている。

⑤ BIM/CIM等、ICTの導入・活用推進により、計画～設計～施工～維持管理に係る生産性向上への取り組みが必要と考えています。ICTに関する貴市の取り組みの現状と今後の予定について教えてください(業務発注の現状および予定を含む)。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課) ICT技術の導入・活用は、平成30年度から工事について受注者希望型で導入している。現状は土工と舗装でICT活用工事を導入している。実績としては全て土工での適用である。現在はさらなる普及拡大に向け、ICTの活用要件(5要件)の部分活用が可能な、簡易型の導入の検討を行っている。
- ・CIMについては、まだ発注時点から取り入れた業務発注の実績はない。
- ・BIM / CIMの導入については現場の効率化、品質の向上など生産性の向上の観点から重要な取り組みと認識している。引き続き、国・県等の導入事例を参考にしながら検討をしていきたい。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

- ・広島市の場合、簡単な業務もある。今イメージしているのは橋梁の設計において、例えば鋼橋であれば3次元データをそのまま橋梁メーカーの製作に反映できるのではないが、橋梁下部工であれば過密配筋などのチェックに資するのではないかと考えている。まず橋梁設計への導入が可能かどうかを模索していきたいと考えている。
- ・BIM/CIMについては、特にCIMで先行している県から、コンサルタントが使っている3次元データが施工機械の3次元としてそのまま使えないため、変換や再度のデータ作成が必要となり、二重投資となってコスト増加の原因となっているという指摘もある。まだ事実関係を把握していないが、導入するとすれば設計から施工まで一連の流れでデータが有効に使えるのであれば、非常に有効なツールであると考えている。

(2)受発注者協働による災害対応に向けた環境整備

- ① 平成30年7月のような大規模豪雨災害や新型コロナウイルス感染症拡大等、緊急事態発生時には、履行中業務の一時中止や工期延伸等、配慮していただいています。今後とも、このような事象発生時には、同様のご配慮をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課)本市では平成30年7月の豪雨災害時に、国からの要請、広島市域での災害発生状況を踏まえ、災害応急対策を優先して行うために、一時中止について適切に対応するよう各工事担当課に通知している。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止については、それぞれの業務、会社の体制・事情を十分に聴取した上で、受注者の希望に応じた必要な一時中止期間を設定するという一方で、実際に一時中止を行った事例がある。
- ・今後も、特に新型コロナウイルス感染症の第6波に向けて同様の事例が発生した場合は、適切に業務の一時中止・工期延期を適切に対応していきたいと考えている。

(3)企業経営の安定と処遇改善に向けての環境整備

- ① 最低制限価格については、改善していただいておりますが、企業は安定経営のためだけでなく、健全な発展のための投資も必要ですので、最低制限価格の継続的な引き上げの検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(工事契約課)最低制限価格の水準については、基本的に国の基準に準拠することとしている。
- ・その中で、設計金額2,500万円以上における最低制限価格の水準については、今まで設計金額1,500万円未満における最低制限価格算定式に0.95を乗じた額としていたが、本年9月から設計金額1,500万円未満における最低制限価格と同等の水準まで引き上げ、本市の最低制限価格の算定式はすべて国の調査基準価格の算定式に合わせることにしている。

- ② 交通誘導員の慢性的な不足は未だ解消されていないため、業務実施時に、予定価格算定時の単価と著しい乖離が生じた場合、あるいは遠方から交通誘導員を確保した時の宿泊費・交通費等について実態に即した変更契約をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課)測量業務については、国土交通省が採用している積算基準書を準用しており、この中で安全費率により計上、調査業務については必要に応じて積上計上することとしている。こうした基準類に基づき適正に積算を行うよう努めている。

建設コンサルタンツ協会からの提案と要望、及び広島市からの回答

- ・交通誘導員の単価については、毎年実施される国の公共事業労務費調査に基づき決定された単価を採用している。
- ・実態に即した単価への変更については、国の調査との乖離が生じていることの判断が非常に困難であることを踏まえ、今後の国・県の対応状況を参考に検討していきたいと考えている。遠隔地から交通誘導員を確保する場合に生じる交通費・宿泊費についても同じように国・県の状況を踏まえて検討したいと考えている。
- ・広島県の警備業協会と意見交換をする場が年に何回かある。今年度はまだ実施していないが、昨年度末の状況では、警備業協会からは交通誘導員についてはそこまでタイトでないと聞いている。県北の方ではなかなか人が集まらないケースはあるが、広島地区は警備会社が多くそこまでタイトな状況にはないという認識である。今年度はまだコロナの関係で話を聞いていないが、近々に便があるので、交通誘導員の状況の把握に努めていきたいと考えている。

(4)人材確保・育成、新たな事業推進形態の環境整備

- ① 人材確保・育成のためには、若手技術者・女性技術者の活用・育成のための入札・契約制度、シニア人材活用のための制度が必要と考えています。引き続き、導入に向けた検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(工事契約課) 国、県および各政令市等の取り組み状況について、今後も調査・研究していきたいと考えている。

II. 技術力による選定

- ① プロポーザル方式・総合評価落札方式による発注の制度は既に導入していただいておりますが、技術力・品質に優れた企業を選定するため、技術競争による発注方式の拡大をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(工事契約課) 公共工事に関する測量・調査・設計業務等は建設生産プロセスの上流に位置し、社会インフラの品質を確保する上で非常に重要な役割を担っており、令和元年6月に改正された品確法において広く法律の対象として位置づけられた。
- ・総合評価落札方式やプロポーザル方式の技術競争による発注方式の導入・拡大については、今後発注関係事務の改善に向けた更なる取り組みを推進する必要があることを踏まえ、国の動向や他の政令市の状況等を注視していきたいと考えている。

III. 品質の確保・向上

(1)受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み

- ① エラー防止の取組みとして、業務特性に応じて、受発注者合同現地踏査を実施することが、共通仕様書に明示されています。国土交通省では既に全ての業務において合同現地踏査が導入されており、その有効性が確認されていますので、引き続き、取組みの強化をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課) 受発注者合同現地踏査については、特殊な構造物の設計等を実施する場合において、契約締結後に受注者からの提案に基づき受発注者合同現地踏査を実施することも可能であると考える。通常の業務での実施については、今後国や他の自治体の取り組み状況を参考にし、引き続き検討していきたいと考えている。

(2)詳細設計等での三者会議等の実施における総合的な品質の確保

- ① 国交省をはじめとして中国地方の多くの地方自治体においては、施工段階で、発注者、設計者、施工者、三者間の設計思想の伝達や情報共有のための「三者会議」や地質技術者を加えた合同会議が実施されています。設計者、施工者、地質技術者にとって、リスクの早期発見、品質確保、技術力向上に効果がありますので、引き続き、貴市においても導入の検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課)本市ではまだ三者会議の制度は導入していない。今後とも他自治体での取組・活用状況を参考に引き続き検討していきたいと考えている。

IV. その他

- ① 契約関係書類、業務関係書類等については、負担軽減のために、電子メールでの提出を認めていただく等、効率化・省力化のための取組みの検討をお願いします。

【広島市からの回答】

- ・(技術管理課)本市では令和3年度から、事業者等からの申請・届出等の行政手続きのオンライン化を見据え、事業者等の負担軽減、利便性向上や業務効率化を図るため、法律で押印が必要としているものを除き、行政手続きの押印廃止を行っている。この押印廃止により電子メールでの提出が可能となった書類等があり、契約担当課や業務担当課に電子化が対応可能となったものについて確認していただきたい。
- ・今後も引き続き効率化・省力化のための取組みを検討していきたいと考えている。

■ 協会本部と中国支部意見交換会（R4.2.1開催）

令和4年2月1日（火）WEBにより協会本部と中国支部の意見交換会が開催されました。

協会本部からは、野崎会長、重永副会長、酒井副会長、外常任理事4名、常任委員長、対活副委員長の皆様と、中国支部からは小田支部長、坪井副支部長、小谷副支部長、來山総務部

会長、金本業務部会長外4名が参加、支部理事はじめ12名がWEBにより参加しました。

あらかじめ本部で作成された令和4年度の「要望と提案」の第一次原稿について意見交換をすることができました。



技術部会の開催

●第1回技術部会・技術委員長合同会議

開催日：令和3年6月23日（水）

場 所：復建調査設計㈱6階会議室
会場参加とWeb参加併用

内 容：(1)各委員会活動報告
(2)オンライン講習会の実施概要と課題について
(3)中国支部広報活動について
(4)品質向上推進活動について
(5)工事見学会について
(6)その他

技術講習会、見学会

●マネジメントセミナー

開催日：Web配信 令和3年9月7日（火）

～9月12日（日）

主 催：本部技術部会マネジメントシステム委員会

内 容：・建設コンサルタントとマネジメント
・PPP/PFIの政策動向と事例紹介
～多様化する建設コンサルタントの役割から
・CM方式の更なる活用に向けて
～最新動向と多様な事例の紹介から
・「環境配慮経営の実践」に向けて
～最近の環境動向と企業・技術者の取り組みの紹介から
・マネジメントシステムの効率的運用に向けて
～負担感軽減のためにできることから～
・アセットマネジメント
～アセットマネジメントの社会実装に向けて～

参加者：1184名（うち中国支部97名）

令和3年度の「マネジメントセミナー」は、新型コロナの影響でWebでオンラインセミナーでの開催となりました。建設コンサルタント協会が果たすべき役割や、品質等の各種マネジメント、環境配慮、CM方式、PFI方式、アセットマネジメントの活用等の最新の動向など、社会動向に合わせたタイムリーな内容を説明。なお、マネジメントシステム委員会では、今年度新たにアセットマネジメント専門委員会を発足いたしました。



●「土研新技術ショーケース2021 in 広島

開催日：令和3年10月14日（木）

場 所：広島国際会議場 地下2階
第一講演会場（ヒマワリ） 第二講演会場（タリア）

主 催：国立研究開発法人土木研究所

共 催：（一社）建設コンサルタンツ協会中国支部

後 援：国土交通省中国地方整備局
広島県、広島市

（一社）全国建設業協会

（一社）全国測量設計業協会連合会

（一社）日本建設業連合会中国支部

参加者：会場参加者 97名

Web参加者 63名

土木研究所と建設コンサルタンツ協会とが「土木技術に関する研究開発、技術指導及び研究成果の普及等を通じた社会資本整備への貢献」を目的とし、開発技術の中から適用効果が

高く普及が見込めるもの等を重点普及技術及び準重点普及技術として選定するとともに、それらの活用促進方策を検討し、普及戦略としてとりまとめ、共通の目的を持つ建コンと連携し技術交流、新技術情報の共有、これらを通じた技術力の向上を目的として開催されたものです。

今回の実施方法は、新型コロナウイルス感染防止の観点から会場での参加とライブ配信での参加を同時に行いました。



会場参加状況

真備緊急治水対策プロジェクトの現地見学会

中電技術コンサルタント株式会社
情報事業部 石田 偲桜

真備緊急治水対策プロジェクトの主な内容

平成30年7月豪雨の影響で、高梁川水系小田川沿川の岡山県倉敷市真備町では、堤防の決壊や越水等により甚大な被害を受けた。

河川激甚災害対策特別緊急事業として、国・岡山県が連携して小田川合流点付替え事業の完成を前倒し、小田川及び岡山県管理の3河川（末政川、高馬川、真谷川）において重点的な堤防整備（嵩上げ、堤防強化）、洪水時の水位を下げるための河道掘削など5か年のプロジェクトを実施している。

本工事は「小田川合流点付替え事業」のうち、付替え後の小田川を渡河する橋梁を架設する工事である。現在、高梁川・小田川の合流地点では橋梁が建設されている。R2年度までに橋台橋脚は完成しており、R3年度に上部工・取付道路の建設、R4年度に道路の切り替えを予定している。



写真1 橋梁架設工事



写真2 南山掘削工事

見学時、上部工の工事は既に着工していた。橋梁施工中は鉄筋がむき出しになるため、降雨による部材の風化が進まないような様々な対策が施されていた。

本工事は「小田川合流点付替え事業」のうち、南山掘削及び柳井原貯水池内の築堤及び河道整正を行う工事である。R3年9月22日時点で山頂から約49mまで掘削が完了しており、R4年3月末時点でさらに約8m掘削を行う計画である。また、本工事はドローンによる測量を実施し、通常より大きな6㎡のバックホウでICT施工を実施していた。設計や地形の3次元データに気象情報や重機の稼働率・運行経路など様々なデータを組み合わせることで、「現場の可視化」を進めており、先進的なi-Constructionを体感することができた。

見学会で学べたこと

今回、橋梁架設工事や南山掘削工事を見学できたことで、現場ではICTが既にならぬ技術として、組み込まれていることを知ることができた。特に南山掘削工事の現場では、様々な情報を組み合わせて活用し、安全で効率的な施工管理を実現するため、ICTの果たす役割の重さを痛感することができた。私は、防災関連システムの設計・開発に従事しているが、今回の現場見学会に参加でき、現場で稼働・活用するシステムやデータの大切さを考えるよい機会となった。新たな技術や知識を実際の現場や利用者に役立つ技術として、適用・応用することのできる技術者として成長できるように、日々の自己研鑽を積んでいきたい。

見学場所の提供と説明をいただきました、国土交通省 中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所、鹿島建設・大本組・荒木組JV、株式会社横河NSエンジニアリングの方々に深謝申し上げます。

工事見学会参加報告

株式会社エイト日本技術開発
中国支社 森野 綾華

はじめに

令和3年10月7日に建設コンサルタンツ協会中国支部主催で開催された工事見学会に参加した。今回見学した工事現場は、真備緊急治水対策プロジェクトによる、南山掘削工事と柳井原地区鋼橋上部工事である。

真備緊急治水対策プロジェクトは、国、岡山県、倉敷市が策定したものであり、倉敷市真備地区を対象に、概ね5年間で平成30年7月豪雨を安全に流すことを目的としている。

ここでは、それぞれの工事の概要及び所感について報告する。

柳井原地区鋼橋上部工事

鋼橋は高梁川と小田川の新合流点付近に位置し、付替え後の小田川を渡河する橋梁である。橋長187.00m、幅員（標準）10.5mであり、上部工形式は鋼4径間連続非合成箱桁となっている。R4年度に開通予定である。

ここでは、ハーネスを付けて、橋桁の上に入り、施工中の橋梁について見学した。

橋梁の現場を見るのは初めてだったが、ボルトの閉め方や、施工の手順なども教えていただき、勉強になった。



写真-1 鋼橋上部工

南山掘削工事

南山は高梁川と小田川の現合流点付近にある。南山掘削工事は、i-Constructionの取り組みが推進されているため、ドローンによる測量を実施し、通常より大きい6㎡のバックホウに3次元データを搭載するICT施工を行っている。

ここでは、現場でICT技術により、重機や作業員の位置、稼働している時間等を把握している様子を見学した。初めて実際にICT技術が使用されている現場を見て、この技術は、効率的かつ安全に施工するために重要な技術だと感じた。また、現場には南山掘削工事で初めてICT技術を使用した方がいた。今回の業務をとおしてICT施工の良さが広まれば、今後ICT技術が浸透していくきっかけになるのではないかと思う。



写真-2 南山掘削箇所

おわりに

今回の現場見学では、普段資料で見ていた構造物、施工重機等を実際に目にすることができた。実際に見ることで、施工箇所での重機の規模や作業の大変さが実感できた。これからも積極的に現場見学等に参加し、現場の感覚が分かるようになりたいと思う。

現場見学会に参加して

株式会社荒谷建設コンサルタント
河川部 下石 真

【小田川付替え南山掘削他工事】

本工事は、小田川合流点付替え事業に伴い、南山掘削及び柳井原貯水池周辺の築堤及び河道整生を行う工事である。

現場では、実際の工事現場の見学や取り組みの説明を受けた。現場で行われていた主な取り組みは以下の通り。

- ・大型重機（40tダンプ、6m³バックホウ、95tブルドーザなど）の導入。
- ・3次元データ活用による施工計画立案やICT施工の実施、出来形管理。
- ・機械へのセンサー設置による接触事故防止。
- ・GPS及びタブレット端末導入による現場状況の一元管理。
- ・カメラ設置による遠隔地からの状況確認。

事前に予想していたよりも大規模な工事で、多くの協力会社・建設技能者が出入りしており、安全管理を徹底している様子が印象的だった。



図1：南山掘削現場を見学している様子

ICT導入と聞くと、生産性向上の取り組みをイメージしてしまうが、GPSやセンサーなどの、生活に身近な技術も活用して工事が行われていることがわかった。

生産性向上の取り組みについても、施工計画時の重機配置シミュレーションや、水中掘削におけるマシンガイダンスでの出来形管理など、具体的な活用状況を知ることができた。

【小田川付替え柳井原地鋼橋上部工事】

本工事は小田川合流点付替え事業の一環で、合流点付替え後の小田川を渡河する橋梁を架設する工事である。

まず、現場事務所で3次元モデルの活用事例の説明を受けた。本工事では、クレーンの干涉チェックへの活用を行っていた。架設時の状況がアニメーション化されていたため、第三者の目でも危険な範囲が一目瞭然であった。

その後、現場で実際に架設した上部工を見学した。ちょうど足場の増設作業をしている最中であったため、構造物だけでなく作業の様子も見学することができた。

また、現場は墜落等の危険を伴う現場であったため、実際の安全対策を体験することができた。



図2：架設した上部工を見学している様子

【現場見学会を終えて】

今回の現場見学会は、施工の過程を実際に見ることのできる貴重な機会であった。知識として頭でわかっている、実際の取り組み状況とイメージで異なる部分があったため、勉強不足を痛感した。今回の現場見学会を契機として、建設業界の最新の知見や実際の導入状況を広く学んでいき、実際の業務に生かしていきたい。

最後に、関係者の皆様お忙しいなか、大変ありがとうございました。以上

●品質セミナー “品質の確保・向上に向けて”

場 所：Web開催（令和3年11月19日（金）
～11月28日（日））

主 催：本部技術部会品質委員会

内 容：・品質委員会の活動状況と設計瑕疵
等の動向

・国土交通省品質確保対策への対応

・「品質向上推進ガイドライン」の活用ツール

～現場で使えるツール～

・「コロナ禍をチャンスに変える」

～品質管理の工夫～

・エラー防止のために

(1) 道路／トンネル

(2) 橋梁

(3) 鉄道

(4) 土質・地質

(5) 港湾

(6) 河川構造物

(7) 砂防・急傾斜

参加者：1,784名（会員 1,627名

非会員 22名 行政機関 135名）

令和3年度は、品質委員会の活動概況と設計瑕疵等の動向（第1講）、品質確保・向上施策の動向や会員企業の取り組み紹介（第2講から第4講）、エラー防止のための事例を分野別に紹介（第5講～第11講）する講演として実施しました。



講師の派遣

①中国地方整備局

研修名	実施日	派遣講師
基礎技術Ⅰ研修	R3. 7. 5 (月) ～ 7. 9 (金)	高宮晃一・安富泰弘・内田広明 (復建調査設計㈱)
構造物設計Ⅱ研修	R3. 9. 6 (月) ～ 9.10 (金)	高 龍・吉國大介・川平英史・村上陽子 (㈱片平新日本技研)
橋梁管理実務者(Ⅱ)研修	R3.10. 7 (木)	高 龍(㈱片平新日本技研)
基礎技術Ⅱ研修	R3.10.12 (火)	野田直樹(㈱ヒロコン)
構造物設計Ⅰ研修	R3.10.18 (月) ～ 10.22 (金)	高 龍・佐藤文彦・山田芳久・猫崎覚 (㈱片平新日本技研)
土石流対策に関する調査・ 計画および設計演習	R3.11.18 (木)	來須洋二(中電技術コンサルタント㈱)

②岡山国道事務所

研修名	実施日	派遣講師
橋梁に関する基礎講座	R4.1.18 (火) 延期	高 龍(㈱片平新日本技研)
交通計画に関する基礎講座	R4.1.18 (火) 延期	松本猛秀・市川晶・伊藤亜紀 (㈱片平新日本技研)

③広島市

研修名	実施日	派遣講師
土木専門研修(アスファルト舗装)	R3. 6.23 (水)	平尾保洋(復建調査設計㈱)
土木専門研修(構造物設計)	R3. 6.25 (金)	野田直樹(㈱ヒロコン)

④公益財団法人岡山県建設技術センター

研修名	実施日	派遣講師
会計検査指摘事項の検証	R3.11.18 (木)	安井 亨・金田博志 (㈱エイト日本技術開発)
コンクリート構造物の点検・ 診断・補修(上級)	R3.11.29 (月) ～ 11.30 (火)	増田 修・高木正行・竹岡敏朗・松浦寛司・ 寺田弘基(㈱エイト日本技術開発)

⑤広島県

研修名	実施日	派遣講師
中級Ⅱ講座(設計技術)	R3. 5.27 (木) ～ 5.28 (金)	坂本幸久・大住典嗣・後藤啓治・西本敦範・ 平尾保洋・松井均(復建調査設計㈱)
中級Ⅱ講座(設計技術)	R3. 6.10 (木) ～ 6.11 (金)	真鍋孝志・亀田雄二・森田知行 (復建調査設計㈱)

道路委員会の活動報告

●道路委員会の開催状況と主な活動内容

回数	開催日	主な活動内容
59回	4月7日(水)	・「BIM/CIM」「高齢者事故・事故対策」の活動方針(WG報告) ・「4支部連携」合同提言について中間報告(WG報告) ・道路設計に関わる技術的疑問に関する情報収集(各社報告)
60回	6月2日(水)	・自転車道の計画・設計について(復建調査設計) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(復建調査設計) ・「高齢者事故・事故対策」について意見交換(WG報告)
61回	7月7日(水)	・310橋の橋梁点検業務について(相生エンジニアリング) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告) ・「高齢者事故・事故対策」のとりまとめ発表(WG報告)
62回	8月4日(水)	・トンネル掘削に向けたポケット候補地の抽出について(荒谷) ・【新規】「人財育成」の活動方針(WG報告) ・【新規】「自転車利用環境」の活動方針(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告)
63回	9月1日(水)	・「人財育成」に関する情報提供(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(WG報告) ・今までの道路委員会の取り組みについて(荒本委員)
64回	10月6日(水)	・「自転車利用環境」に関する情報提供(WG報告) ・「BIM/CIM」に関する情報提供(NEXCOエンジ中国) ・「人財育成」に関する情報提供(WG報告)
65回	11月10日(水)	・「人財育成」について意見交換(WG報告) ・「自転車利用環境」に関する情報提供(WG報告) ・ICT土工見学会について(山本委員)
66回	12月2日(木)	・ICT土工見学会(広島県事業)

●道路技術者の共通課題の解決に向けて

道路委員長 木原 智晴

8年目を迎えた令和3年度の道路委員会は、4月委員会から12月委員会まで計8回(通期59回～66回)開催した。

本委員会は、共通課題の「BIM/CIM」に加え、夏から新たに「人財育成」「自転車利用環境」に対するWGと、2018年度より活動している「西日本4支部連携」の4つのWGを中心に活動した。

各回については、14社36名の委員の約7割以上が参加しており、コロナ禍の状況ではあったが活発な活動となった。

今年度の主な活動内容は、前出の一覧表のとおりであり、BIM/CIM、自転車利用環境の動向・

事例紹介をはじめ、人財育成といった業界の課題について、道路委員会として議論してきたところである。

「高齢者事故・事故対策」は7月に報告書をとりまとめ2年間の活動を終了した。

4支部連携は、近畿、九州、四国の各支部との意見交換を通じて、「西日本版スーパーメガリージョン構想の推進」を合同提言とするとともに、瀬戸内のイノベーションエリアのあり方等を議論した。

また、12月にBIM/CIM 活用を踏まえICT土工の見学会を実施し知見を高めた。

令和4年度も引き続きWGを中心に活動するとともに、交流の場、有益な知見を共有する場としたいと考えている。

以上

構造委員会の活動報告

●構造委員会の開催

回	開催日	内 容
1	3. 8. 6 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレストレスト・コンクリート建設業協会との意見交換 ・令和2年度PC技術講習会の実施報告 ・外部活動報告 ・分科会活動(補修更新WG,新道示WG) ・自由討議
2	3. 10. 8 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度PC技術講習会の実施方針説明 ・整備局との意見交換会に関する情報提供 ・分科会活動(補修更新WG、新道示WG) ・自由討議
3	3. 12. 3 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本橋梁建設協会との意見交換 ・整備局との意見交換会の実施報告 ・大型カルバートの耐震設計のアンケート結果報告 ・分科会活動(補修更新WG、新道示WG) ・自由討議



●令和3年度PC技術講習会

開催日：令和3年11月29日(月)
～12月10日(金)

開催方法：オンライン講習会

主催：(一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会中国支部
(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部

内容：1) PC橋の施工における新しい取組み
2) PC橋の補修・補強技術
3) PC橋の点検技術
4) PC建協の最近の取組み

●講師派遣

講習会名：令和3年度 橋梁管理実務者(Ⅱ)研修

開催日：令和3年10月7日(木)

派遣先：中国地方整備局

講義内容：耐震補強概論

●中国整備局との意見交換会

テーマ：大型カルバートの耐震設計

開催日：令和3年9月21日(火)、10月7日(木)

以上

港湾委員会の活動報告

● 港湾委員会の開催状況と主な内容

回	開催日	内 容
港湾委員会 第1回	3. 7.14 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術部会・委員会合同会議報告 ・ 令和3年度活動内容について ・ 現場見学会について ・ 港湾若手技術者の会 ・ 積算基準の見直し検討 ・ その他
港湾若手の会 第1回	3. 9. 1 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 港湾若手の会の方針検討 ・ 活動内容の決定と今後の予定
港湾委員会 第2回	3. 9.15 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施設計の標準歩掛見直し ・ 港湾若手技術者の会(勉強会報告)
港湾委員会 第3回	3.10.13 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施設計の標準歩掛見直し ・ 港湾若手技術者の会(勉強会報告) ・ その他
港湾若手の会 第2回	3.10.21 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会 13名参加(内Web 4名)
港湾若手の会 第3回	3.11.10 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強会 9名参加(Webでの開催)
現場見学会	3.11.12 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住友重機械プロセス機器株式会社工場内 ・ ハイブリッドケーソン函鋼殻製作現場の見学
港湾委員会 第4回	3.11.17 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準積算基準の見直し〔補正方法(案)〕について ・ 港湾若手技術者の会の取り組み成果について ・ 現場見学会について ・ 技術交流会について ・ その他(次年度以降の取り組み他)
技術交流会	3.11.17 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全7題の講演を行い、意見交換を行った。

今年度は、昨年度に引き続き「実施設計に関する標準歩掛の見直し」に関する議論を行い、標準積算に対する補正方法(案)を作成した。今後、実施設計業務の発注に際し、業務内容に即した設計金額の設定に活用されるよう関係各所へ働きかけを行っていきたいと考えています。

また、近年、港湾委員会への若手技術者の参加者が増加していることから、会員各社の横連携を強化する目的で「港湾若手の会」を組織し、本格的に活動を開始しました。

今年度は、新型コロナウイルスのまん延に伴い、活発な活動が出来ていませんが、次年度以

降、状況をみつつ発展的な活動を継続していく予定です。

対外活動としては、四国の西条市「住友重機械プロセス機器株式会社」工場敷地内で製作されているハイブリッドケーソンの現場見学を行い、12函同時製作という大規模な製作ヤードや異形函など普段見学することができない興味深い製作現場を見学することが出来ました。

また、昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止していましたが、施工会社との技術交流会を開催し、会員各位の知見を広げることができたと思います。

○対外活動1：ハイブリッドケーソン制作現場
見学会

- ・日 時：11月12日（金）
- ・場 所：住友重機械プロセス機器株式会社
工場敷地内

- ・見学内容：ハイブリッドケーソン12函他
鋼殻製作現場の見学
：製造業者 エム・エムブリッジ株
式会社
- ・参 加 者：11名



住友重機械プロセス機器側の会議にて、エム・エムブリッジ側の工事責任者から、事業概要・製作内容（手順）等の説明を受ける。



住友重機械プロセス機器の工場内でハイブリッドケーソン鋼殻の製作状況を見学・説明を受ける。
※工場内では、鋼構造物の製造過程を一通り見学させて頂いた。



○対外活動2：港湾関連技術交流会（講演会）

- ・日 時：11月17日（水）
- ・場 所：RCC文化センター
- ・参 加 者：60名（施工業者23名、建コン37名）
- ・内 容：全7題の港湾工事及び港湾調査
関連の講演を行った。



各発表に対し、活発な質疑応答を行い、i-Constructionに関する知見や港湾工事に関する最新の動向等を知ることができた。
特に施工会社からの発表は、港湾設計者にとって興味深い内容が多々あり、港湾行政で取り組まれている最新の技術が多く、有意義な技術交流会となった。

● 港湾関連技術交流会(講演会)報告

施工業者(建設会社)と設計者(建設コンサルタント)が発表を行い、相互の理解と技術力の向上を目的として、技術交流会を以下のとおり開催した。

- ・ 日 時 : 11月17日(水)
- ・ 場 所 : RCC文化センター
- ・ 参 加 者 : 60名(施工業者23名、設計者37名)

施工業者(建設会社)		設計者(建設コンサルタント)	
あ お み 建 設 (株)	1	(株) 荒谷建設コンサルタント	4
(株) 大 本 組	2	い で あ (株)	3
五 洋 建 設 (株)	3	(株) エイト日本技術開発	3
東 亜 建 設 工 業 (株)	3	基礎地盤コンサルタンツ(株)	5
東 洋 建 設 (株)	3	中電技術コンサルタント(株)	9
(株) 不 動 テ ト ラ	2	パシフィックコンサルタンツ(株)	2
(株) 本 間 組	2	広 建 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	1
み ら い 建 設 工 業 (株)	1	復 建 調 査 設 計 (株)	7
り ん か い 日 産 建 設 (株)	4	明 伸 建 設 コ ン サ ル タ ン ツ (株)	3
若 築 建 設 (株)	2		
合 計	23		37

・ 講演内容 : 以下のとおり。

- 1 題目 : 港湾工事におけるBIM/CIMの取り組みについて
五洋建設(株) 中国支店 土木営業部 係長 永守 学
- 2 題目 : 津波・高潮対策施設 フラップゲート式可動防波堤
東洋建設(株) 土木事業本部 土木技術部 水谷 征治
- 3 題目 : 大口径テーパ型基礎杭の港湾構造物への適用
りんかい日産建設(株) 執行役員土木営業担当 大下 英治
- 4 題目 : パイプライン敷設工事における3Dモデル導入効果について
(株)本間組 土木事業本部 技術部 神蔵 昌士 (Web発表)
- 5 題目 : 様々な地盤改良を行った港湾工事におけるFEM解析事例
若築建設(株) 建設事業部門 技術研究所 水野 健太 (Web発表)

- 6 題目 : 維持管理における3次元データの活用
中電技術コンサルタント(株) 沿岸整備部 保全計画グループ 近藤 良 (Web発表)
- 7 題目 : 水中可視化技術等の設計・維持管理への活用事例
いであ(株) 中国支店 沿岸・港湾部 水野 博史

・ 講演風景 : 以下のとおり。



防災委員会の活動報告

●防災委員会の開催

回	開催日	内容
1	3. 4. 21 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「(仮) 広島県沿岸の高潮浸水シミュレーションについて」他1題 ・決算報告、予算の審議 ・令和3年度の活動方針について(防災教育、防災講演会、社会貢献活動、委員会HP、防災見学会) ・運営、役割分担について
2	3. 7. 19 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「当社のBCPについて」他1題 ・防災教育 実施報告(広島市)、岡山市及び倉敷市との事前協議について ・第1回WEB防災講演会について ・社会貢献活動(太田川総合水防演習、災害冊子作成)について ・現場見学会について
3	3. 10. 21 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「熱海・逢初川土石流災害について」他2題 ・防災教育 実施報告(広島市)、岡山市及び倉敷市との事前協議について ・第2回WEB防災講演会 実施計画 ・社会貢献活動(災害冊子作成) 実施計画
4	3. 12. 17 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「島根県西部に分布する都野津層切土法面における変状及び対策について」 ・防災教育 実施報告(広島市)、来年度の実施計画について、岡山市及び倉敷市との事前協議について ・第2回WEB防災講演会 準備について ・社会貢献活動 災害冊子案の検討、案の選定



●第1回WEB防災講演会

「東日本大震災から10年、分かったこと、学んだんこと」

東日本大震災をテーマに、様々な立場・視点から当時の対応の振り返りや復興支援や取り組みについてご講演頂いた。大規模災害の復旧・復興には、多くの時間と異分野の専門家や地域住民の連携が重要であることを再認識させられた。

コロナ感染対策として会場とWEB配信のハイブリット形式で行った講演会は、300名以上の参加がありとても好評であった。

開催日：令和3年8月4日(水)13:00～17:00

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部

(公社)日本技術士会中国本部防災委員会

広島県災害復興支援士業連絡会

後援：中国地方防災研究会

参加者：315名

内 容<第1回>

- 講演1「専門士業の連携による災害支援のモデル」
広島県災害復興支援士業連絡会会長
今田健太郎
- 講演2「東日本大震災の被災地を離れた県外
避難者について」
ひろしま避難者の会「アスチカ」代表
三浦 綾
- 講演3「東日本大震災後のインフラ整備について」
中国地方整備局企画部建設専門官
高崎 修
- 講演4「復興まちづくりの計画と経過」
日本技術士会中国本部防災委員長
山下 祐一
- 講演5「福島原発を踏まえた原子力発電所の
安全対策について」
中国電力原子力土木グループマネージャー
國西達也
- 講演6「防災・減災と情報システム」
日本技術士会活用促進副委員長
長原基司

●第2回WEB防災講演会

「再発する大規模災害への備えⅡ（洪水等）」

近年、毎年のように日本各地で豪雨による大規模災害が発生しています。中国地方では、平成26年8月の広島豪雨災害、平成30年7月の西日本豪雨災害により多大な被害が発生しました。現在それらの災害対策は行われていますが、今後もいつ大規模災害が発生するか気を緩めることはできません。テーマ「再発する大規模災害への備えⅡ（洪水等）」と題し、洪水に関する講演、災害への備えや対策についてご講演をいただきました。

開催日：令和4年2月4日（金）13:00～17:00

主 催：（社）建設コンサルタンツ協会中国
支部防災委員会

（公社）日本技術士会中国本部防災委員会

協 賛 広島県災害復興支援士業連絡会

後 援 中国地方防災研究会

内 容<第2回>

- 講演1「気候変動下の激甚化する水害とその
対応について」
一般財団法人経済調査会理事長
森北佳昭
- 講演2「近年の広島県における洪水被害の特
徴と教訓～水害多発時代に向けて～」
広島大学大学院先進理工系科学研究科
准教授 内田龍彦
- 講演3「ご存じですか？『洪水キキクル』」
広島地方気象台気象防災情報調整官
小島 豊
- 講演4「太田川の特徴と河川整備について」
中国地方整備局太田川河川事務所長
平野明德
- 講演5「広島県における想定最大規模の高潮
浸水予測シミュレーション」
復建調査設計株式会社沿岸・地震防災部
若槻好孝

●防災教育

社会貢献活動として行っている防災教育は、平成17年から小中学生と高齢者を対象として行っており、この活動は本年で17年目を迎え、合計72箇所で開催しています。

今年行った防災教育は以下の6回です。

9月3日	広島市立温品小学校4年生	63名
9月17日	広島市立安北小学校5年生	86名
11月5日	広島市立井原小学校全学年	21名
11月22日	馬木公民館高齢者	7名
12月3日	広島市立古田台小学校5年生	34名
12月13日	竹屋公民館高齢者	11名

以下に令和3年9月17日広島市立安北小学校で行った例を紹介します。

1. 授業内容

本講座は、広島市立安北小学校において、5年生86名を対象に、土砂災害、地震災害、洪水災害の危険性について、「災害についてみんなでかんがえよう！」をテーマに防災教育を行ったものである。授業は午後の2時限に連続で行った。1時限目では、座学として、災害の

種類・内容および事例、避難の方法を概説した。2時限目は、児童各人でハザードマップを作成するとともに、避難場所、避難経路とその周辺の危険箇所を抽出し、最後にその発表をもらった。

(1) 座学

座学では、主に以下の内容について説明した。

①災害って何？ 雨や地震で起こる悪いこと

- ・地震（津波）災害、洪水災害、土砂災害の概要
- ・災害事例（H7 阪神淡路大震災、H23 東日本大震災、H30 小田川堤防決壊、H17 宮島白糸川、H26 広島豪雨、H30 西日本豪雨 等）
- ・がけ崩れや土石流の動画を交えた説明とこれらを防ぐ方法（法枠、防護柵、砂防ダム 等）
- ・平成30年豪雨災害について、広島県の被害状況、雨量の状況、復旧内容

②災害時の避難について

- ・災害時には何が大切？
- ・学校で地震が起こったらどのような行動をとる必要があるのか？
- ・土砂災害を中心とするハザードマップの説明
- ・土砂災害が起こる前に、どこへ、どうやって逃げるのか（避難所、避難時の注意点）
- ・パソコンやスマホの活用；「広島災害ポータル」、「避難所へGO!」の説明

(2) ハザードマップ作成

洪水想定最大規模浸水深、土砂災害警戒区域、避難所を記載したハザードマップ図を用いて、以下の実習を行った。コロナ禍のため、A3版のマップを使って児童の席で個別に行うことにした。最後に、実習の成果・感想などについて、代表者に発表してもらった。

- ①自宅を地図にプロットし、自宅周辺の危険箇所を確認する
- ②自宅に近い避難所を選び、自宅から避難所までの道のりを記入する。
- ③避難する間の危険箇所を抽出する。

2. 防災教育を受けた児童の感想（アンケート結果抜粋）

- ・授業を受け、災害について、改めて、家族と話し合おうと思いました。
- ・スマホなどでハザードマップを見られると知って、みてみようと思いました。
- ・災害がおきたときに、こんな（避難する）道があるんだ、ここはとてもきけんなんだっていう場所が分かりました。
- ・色がついて分かりやすいハザードマップに、ペンで書いたりしながら、楽しくひなんルートを覚えることができました。

3. 講座を行った感想

安北小学校区は、土砂災害警戒区域が多く、浸水想定箇所と合わせると被災リスクの低い箇所が少ない。また、土砂災害時の避難場所は、学区内では安北小学校だけである。さらに小学校は土石流危険渓流沿いに校舎があり、避難するタイミングによっては、避難中に被災する



座学の様子



ハザードマップの作成

恐れのある学区である。学区の大半を占める住宅団地は土石流危険渓流の下流にあるので、これを考慮した避難経路の選定や早いタイミングでの避難行動が大切なことも説明した。コロナ禍のため、講師のみの対応となり、指導補助がない分だけハザードマップ指導が細かくできなかったことが残念であった。

本講座後に、生徒たちに実施したアンケートでは、「自分の家があぶない場所にあることが分かった」、「避難場所や避難経路が分かった」等の回答が数多くあり、児童の災害や避難に対する考え方の変化の一助となったと考える。

●防災冊子

社会貢献活動の一環として、小学校での防災教育において利用できる教材として、児童が自分で考えながら適切に行動できるよう、自分の住むまちの災害リスクと取るべき行動をストーリー形式で紹介する冊子を作成しました。

今回作成した災害ケースは、「高潮災害」と「洪水災害」です。

ストーリーの場面は、①平常時、②発災前（台風上陸前など）、③避難時、④避難後とし、それぞれの場面で何を考えどのように行動すれば良いかを、クイズに答えながら考えるように作成しました。



地域計画委員会の活動報告

中国支部（地域計画委員会）では、社会貢献活動としての取り組みを行うため、定期的に委員会（会議）を開催し、(1)まちづくり出前授業、(2)自転車マップWEB版の作成、(3)公共空間活用に向けた「シャレオ」との連携策、及び報告書のとりまとめなどの活動を行ってきました。

●地域計画委員会の開催

回	開催日	内 容
1	R3.4.21（水）	・令和2年度の活動報告・令和3年度の活動テーマについて
2	R3.5.19（水）	・令和3年度の活動テーマについて
3	R3.6.16（水）	・自転車マップの作成について
4	R3.7.21（水）	・シャレオとの連携策について
5	R3.8.25（水）	
6	R3.9.15（水）	
7	R3.10.20（水）	
8	R3.11.24（水）	

(1) まちづくり出前授業

広島市立三篠小学校（西区）の総合的な学習の時間において、下表の通り、出前授業を実施し、子どもたちのまちづくりや環境保全等への関心を高め、意識啓発を行いました。今年も感染症対策として、学年を半分に分け、各学年2回、計4回実施しました。（講師：森島誠司・中電技術コンサルタント株式会社）

テーマ	まち（三篠）のやさしさ （ユニバーサルデザイン）	大切なまち（三篠）の環境
実施日	令和3年7月2日（2コマ）×2グループ	令和3年9月24日（1コマ）×2グループ
対象者	三篠小学校3学年（児童135名+教員6名）	三篠小学校4学年（児童130名+教員6名）
概要	JR横川駅を中心としたまちのユニバーサルデザインについて、PPTによる説明やクイズ形式での出題、車イスでの通行体験や透水性舗装の浸透実験など実物サンプルを使った仕組みの解説やルールなどについて講義を実施。児童は後日、実際に駅の周りの街を調べて歩き、きづきをまとめて発表した。	学校を取り囲む太田川や三滝山、廃棄物の埋立後に整備された竜王公園の歴史等を通じ、自然環境・生活環境・3R等についてPPTでの説明を中心に講義を実施。また、調査用のUAVの展示・解説も実施。児童は後日、実際に太田川放水路での調査や清掃活動を実施し、グループ発表を行った。

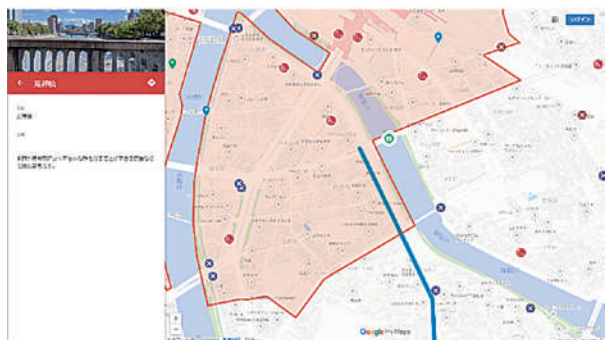
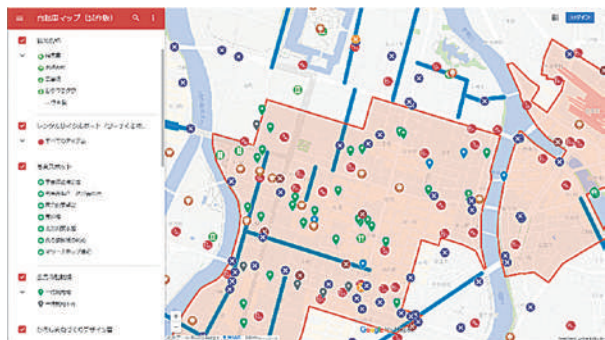


(2) 自転車マップWEB版の作成

地域計画委員会では、平成18(2006)年度から7年間にわたり、自転車とまちづくりをテーマとして活動し、各種調査やイベント運営支援、フォーラムの開催、自転車マップの作成、提言書の作成などを行ってきました。

今年度は、過去に自転車マップを作成してから8年が経過していること、また新型コロナ禍を受けて自転車へのニーズが変化していること等から、新たに自転車マップを作成することとしました。

新しいマップは、多様なデータを載せるとともに、随時更新も可能とするため、WEB版としました。Google Mapのマイマップ機能を活用した試行版では、広島市中心部における観光名所やレンタサイクル「ぴーすくる」のポート、市営駐輪場等の情報等を掲載しています。今年度中にはマップを完成させ、ホームページ等で公表する予定としています。



自転車マップWEB版

(3) 公共空間活用に向けた「シャレオ」との連携策

地域計画委員会では、公共空間の活用に向けた取り組みを進めています。令和2年度には、今後の課題や施策を検討するため、「まちなかの居心地の良さを測る指標(案)」(国土交通省)を用いて、広島市中心部の地下街「シャレオ」で調査を実施しました。

今年度は、「シャレオ」とのつながりを活かした連携策として、公共空間の利活用を通じた来街者への居心地の良い空間づくりの提供等による社会貢献と、当委員会運営に携わるスタッフのまちづくりに関する技術・ノウハウの蓄積を目的として活動しました。

具体的には、シャレオ内に整備された「多目的スペース」を活用して、テーブルやベンチ、植栽などを配置し、飲食可能な無料休憩スペースを試験的に創出しました。また、休憩スペースの壁面を利用して、広島のみちづくりに関する年表や主なトピック、委員会のこれまでの活動などを紹介するポスターを展示しました。さらに、利用者向けの参加型コンテンツとして、将来のみちづくり等に関する要望を付箋に書いて貼り付けてもらいました。これをアンケートの代替とし、今後の活動の課題や展望の洗い出しに活用する予定としています。



実施状況

令和3年度親睦活動

厚生部会では、支部協会員の親睦と健康維持を目的としてスポーツ大会を開催しています。今年度は11月12日（金）にゴルフ大会を開催しました。昨年に続いて新型コロナウイルス感染の影響により、例年開催していますフットサル、ボウリング大会は中止となりました。

新型コロナウイルス感染の収束が不透明な状

況下においても、開催できる種目や方法はないものか検討もしましたが、他の種目においては、悪天候時の対応や開催場所の確保等問題が多く、実施には至りませんでした。来年こそは、平常を取り戻して以前のように3種目が開催できることを願っています。

■第56回ゴルフ大会

- (1)個人戦は、中電技術コンサルタントの蔵重耕一さんが優勝！
ベスグロも！
- (2)団体戦は、甲斐雅和さん(セトウチ) 森脇勝彦さん(相生)
森貞安雄さん(荒谷) 松井章弘さん(中電)チームが制覇！
- (3)栄えある第1回会社対抗戦を制したのは、中電技術コンサルタント(株)！
(縄田和成さん、蔵重耕一さん、松井章弘さん) チーム

この時期にしては暖かく日差しもあるゴルフ日和の令和3年11月12日（金）、今回で第56回目となる親睦ゴルフ大会を「広島東映カントリークラブ」で開催しました。

今回は新型コロナに負けずゴルフ大会だけでも参加者を多く募り盛り上げたいものと、初の会社対抗戦も企画しました。2名以上の参加がある会社を条件に全員のNET平均で順位を決めることとし、参加は9社（2名以上7社）、人数は5名の初参加を含め24名（6組）と、これまでで最多となりました。新型コロナ対策でラウンド後のミーティングは行なわないこととしていましたので、どの組が、どの会社が優勝しても、このJCCA中国で紹介できるように各々写真（優勝した顔で）を撮影してから、リラックス

してのスタートとなりました。

広島東映カントリークラブは、赤・黄フラッグの2グリーンがあり、今回は難しい方の赤フラッググリーンでした。特に前半のOUTは傾斜のきついところにカップが切っており、4パットはざらで5パットの人さえありました。その結果、今年も参加者平均スコア（グロス）は110点と、100点切りの目標は夢のまた夢となりました。ハンディはダブルペリア方式で行い、個人優勝は中電技術コンサルタントの蔵重さんが獲得されました。

今回初企画となりました会社対抗戦は、次回も行いたいと考えていますので、今回以上の会員数で開催できますよう多数参加のご協力をお願いします。



スタート前の集合写真

成績

(1)〈個人戦〉

順位	氏名(会社名)	OUT	IN	G	HD	NET
優勝	蔵重 耕一(中電技術CT)	43	39	82	4.3	77.7
2位	森 貞安 雄(荒谷建設CT)	54	46	100	21.6	78.4
3位	大河 淳(陸地CT)	48	48	96	17.3	78.7

《ゴルフ大会優勝者の声》

蔵重 耕一さん(右写真)

中電技術コンサルタント株式会社

年齢：43歳

所属 役職位：経営企画部 副専門役

出身地：山口県

家族構成：妻一人、子三人

趣味 特技：休日出勤のフリしてゴルフ

ゴルフ歴：30年くらい



ゴルフを始めたきっかけ

父親の練習について行ったことがきっかけです。中学の頃、うまくなりたいと思ってからは夏休み、春休み、冬休みに小野田市(現山陽小野田市)の若山ゴルフや宇部市のメキシコゴルフで日の出から日の入りまで一人でバックを担いでラウンドをしていました。雑誌やテレビ、色々な人のスイングを見ながら、良いと思ったところを取り入れながらスイングを作ってきましたがベースは我流です。

一番思い出に残っていること

大学時代には男子プロトーナメントで友人のキャディをしていました。(大学の授業は最低限の必要出席数を満たすようマネジメントし効率よく単位取得していました。)数十試合担当しましたが、予選落ちしたことはありません。私はプレーヤーよりもサポート側のほうが向いているのかもしれませんが。とあるトーナメントでジャンボ尾崎さんと同じ組になったときは平常を保っていましたが内心大興奮していました。

ゴルフが上手くなるには

大学ではゴルフ部に入ったものの、指導者不在の弱小ゴルフ部で我流のスタンスは変わりませんでした。ここ数年は学生の頃からの知り合いである2020年日本シニア賞金ランキング3位の岡茂洋雄プロにスイングを教わっています。我流も良いですが、他の人の意見を聴くことも上達の近道だと思います。また、ライバルと目標も必要だと思います。私は月1回30名程度のゴルフ仲間が集まり競い、いつかまた全国クラスの競技に進めることを夢見て研鑽しています。

今回の勝因

朝一番にチョコを打ちましたが、それでリラックスできたと思います。天候は、風が吹き寒さも有り厳しかったです。前半のグリーンは傾斜の厳しい場所にカップが切ってありましたが、辛抱強くプレーしようと思いました。同伴競技者の皆さんありがとうございました。

(2)〈団体戦〉

順位	メンバー(会社名)		NET平均点
優勝	甲斐雅和(セトウチ)	森脇勝彦(相生エンジ)	82.45
	森貞安雄(荒谷建設CT)	松井章弘(中電技術CT)	
準優勝	藤原節雄(基礎地盤CT)	大河 淳(陸地CT)	82.85
	若槻好孝(復建調査設計)	岩苔 宏(荒谷建設CT)	



団体優勝
甲斐さん 森貞さん 森脇さん 松井さん

(3)〈会社対抗戦〉

順位	会社名	メンバー	NET平均点
優勝	中電技術コンサルタント	蔵重耕一、縄田和成、松井章弘	80.6
2位	基礎地盤コンサルタント	藤原節雄、為藤 聡	80.9
3位	長大	出来谷則夫、柚山隼人	84.3

7位の平均NET86.1と3位以下は接戦となりました。



会社対抗戦優勝の中電技術コンサルタント (NET平均 80.6)
松井さん 縄田さん 蔵重さん



ゴルフ場スタート前

会社対抗戦チーム



2位の基礎地盤CT (NET平均 80.9)
藤原さん 為藤さん



3位の長大チーム (NET平均 84.3)
出来谷さん 柚山さん



4位の陸地CT (NET平均 84.6)
大河さん 住本さん 安田さん



5位の復建調査設計 (NET平均 85.2)
村上さん 西田さん 若槻さん



6位の荒谷建設CT (NET平均 85.9)
岩谷さん 新谷さん 森貞さん
島田さん 林さん 宮本さん



7位のセトウチ (NET平均 86.1)
土肥さん 立野さん 甲斐さん

(4) <平均スコア>

	56回 (今回)	55回	54回	53回
参加人数	24	16	16	20
平均スコア (グロス)	110.0	103.4	110.6	101.0

前回終了時点での目標を100切りとしたものの!?

外国人インターンを受け入れた夏

株式会社ウエスコ
海外事業推進室 渡辺 敏

■最初

3年前、「外国で仕事してみたいですか?」と全社員にアンケートをとってみたら、約2割の社員が「してみたい」と回答した。だったら「日本国内だけでなく外国でも仕事をしてみようよ」と動き始めたら、社内には相当な構えがある。初めてのことは怖いし仕方がない。それに我々業界の今は国内需要がすごい。「なんで今?」と。

弊社は今、海外展開に挑戦している。簡単ではないしコロナも重なり思うように進まない。社内の英会話教室も続けているけど刺激が足りない。そんな折JICA留学生受け入れの案内があり若手に相談したら、「受け入れちゃえば」っと。英語もできないのに。

■JICAプログラム

応募したのは“JICA留学生インターンシッププログラム”（詳しくはネットで）。出身国・地

域の発展への貢献や日本と各国の架け橋になる人材の育成等が目的とされる。外国人留学生（以下、外国人）はとにかく職場体験をしたい（大学で学ぶよりも?）。私たちにとってのメリットは、高度外国人材と友達になれる、外国の課題やニーズが知れる、ビジネス展開の基礎ができる、それに国際化に向けての社内理解が進む。

■実施

2021年8～9月において、シリア、南アフリカ、セネガル、パキスタン、ベトナムからそれぞれ計5名の外国人を受け入れた。受け入れ期間は約2週間～1ヶ月。受け入れたのは外国人の専門性に合わせて、リモセン、環境調査、地盤調査、交通計画、水質保全の5つの部署をホストにして、リクエストがあれば同じ支社やフロアの他部署が日替わりでアテンドした。

アットホームな社風、受け入れ部署の積極的



やっぱり現場は面白い

な協力もあり、受け入れた外国人からは身に余る感謝の言葉をいただいた。印象的だったのは、みんなが親切に対応してくれたので普通の毎日のように過ごせた、強い友情が築けた、現地調査に行けてよかった、母国の情報を共有できてよかった、母国の課題が再認識できた、外国人同士の交流会は楽しかった、休みの日も一緒に観光できて楽しくてしょうがなかった、パンデミックな中でも受け入れてもらえて涙が出るほど嬉しかった、日本の職場に適應できる自信ができた、5人もいたので書ききれない。それぞれ最後の日はお互いに涙がこぼれた。

受け入れた部署の全てが来年も受け入れたいと答えた。個人・チームともに日常とは異なる良い刺激を受けた、優しい気持ちがフロア全体に流れた、週末観光でより友情が深まった、職場全体の協力がうれしかった、大学まで会いに行きたい、普通に外国人がいる職場になって欲しい、世界で仕事をするのが自分に近くなった、英語がもっとできればどれだけ楽しかったか、だけど繁忙期の受け入れは難しいなどがあった。

■気づき

ダイバーシティは世界のトレンドである。同じ属性で同じ目標に向かう同質なチームの生産性は高い。一方で、女性の働き方改革でダイバーシティが認知され、若手の加入で価値観やスキルの多様性に気づき、さらにいろんなバックグラウンドがある人が集って力を合わせればこれまでになかった発想や創造ができる、新しいビジネスに挑戦したくなる、機会が広がる。今回の外国人インターン受け入れによってそれらをリアルに感じる事ができた。

■おわりに

国際化、インクルージョン、振舞い、友情、新鮮かつ自然に理解した熱い夏であった。

ウエスコに来てくれた5名の外国人のみなさん、終始親切にサポートしていただいたJICEの森由紀さん、忙しい中協力してくれた社員のみんな、機会を与えていただいた会社に感謝します。本当に有難うございました。



外国人による発表会



ラップで国家を演奏して歓迎



先進機器に興味津々



各支社の受け入れ部署をオンラインでつないで交流会



アニメ大好き



オフの日は観光

ラントリップ（旅×ラン）のススメ ～ランニング紀行～

中電技術コンサルタント株式会社
井野口 慎之輔

1. 私にとってのランニング

中学校から陸上競技を始め、高校・大学と長距離走に打ち込んできた私にとって、ランニングはトレーニングであり、生活の一部であった。

各年代での主な実績を以下に列挙する。

○中 学 全国中学校駅伝大会（山口県）
準優勝

○高 校 広島県高校新人陸上競技大会
5000m 準優勝

○大 学 中国四国学生陸上競技選手権大会
10000m 優勝

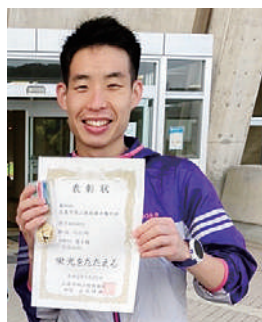
○社会人 広島市陸上競技選手権大会
3000mSC 優勝

どうやら中学の成績がピークのように見えるが、高校以降はいわゆる強豪校の超一流選手たちが立ちはだかり、なかなか彼らを越えることはできなかった。競技スポーツはシビアだ。

これまでは、駅伝やトラック種目で仲間と走ってきたが、今後は市民ランナーとしてフルマラソン42.195kmで自分の限界に挑戦しようと思っている。フルタイム出勤で時間外労働もこなしながら、地道に走り続けていくつもりだ。

2. ランニングを楽しみたい

広島市に本社を構える中電技術コンサルタント(株)に入社し、社員寮に住んでいる私は、寮を起点に広島市内の各所でランニングをしている。しかし、いつも同じようなコースを走っていると次第に飽きてきて、走ることに楽しさを感じなくなってきました。

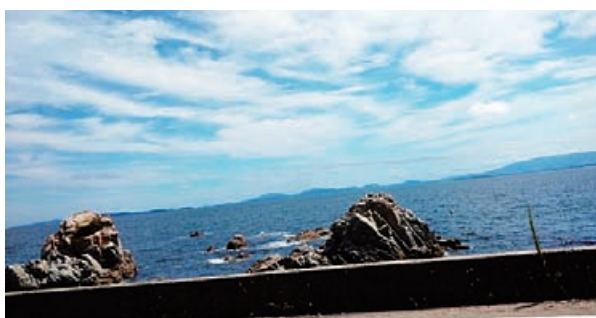


そこで、“環境を変え”て、“心を軽く”して楽しく走るためにはどうしたらよいか考えた。



その時に思いついたのが、旅行に出かけその土地の観光地でランニングをすることだった。ラン×旅の組み合わせラントリップだ。旅行先の景色を楽しみながら、普段とは違う空気をたくさん浴びて走るのは気持ちがよいだろう。

3. 絶景！解放感！志賀島一周ランニング



私が旅先、いやランニング先に選んだのは福岡県福岡市東区、博多湾の北部に位置し、海の中道から陸続きの島である志賀島である。この島はサイクリングコースで人気のようであり、自転車を使わず体ひとつで私も走ってやろうというスタンスだ。1周約10kmで、信号もないため走りやすいコースである。

島を左回りに走ると、右手には常に玄界灘の海が見える。絶景だ。島の入り口である海の中



道からの陸続きの道は、両手に海を眺めながら走れるので、とても気持ちがいい。少し走り疲れた頃にも、疲労を忘れさせてくれる。

4. ランニング後の楽しみ

走り終わったら、爽快感と達成感に浸るのだが、今回はそれだけではない。島ランの醍醐味は、走り終わった後にもある。火照った体、熱を持った足の筋肉を海に入って冷やすのだ。自然のアイシング・ケアである。これまた涼しくて爽快だ。

また、志賀島には「休暇村志賀島」といった温泉施設もあるので、ゆっくり温泉に浸かって回復させるのもよい。

ちなみに私は、この志賀島ランを夏と冬両方行い、夏は海に飛び込み、冬は温泉に浸かっ

た。もちろん締めはビールである。

5. ラントリップのススメ

コロナ禍で外出機会が減った方や、コロナ太りが気になる方には、ぜひランニングを紹介したい。誰でも気軽に、いつでもどこでも始めることができる。アドバイスとして、ランニングシューズはクッション性がよく、安定性のあるものを選ぶとよい。

そして、既にランニングを生活に取り入れていて、慣れてきたという方には、ラントリップをお勧めしたい。

観光気分でランニングしながら体全体で空気を感じ取り、心も体もスッキリさせることができる。最近では、ランニングステーションと言って、着替え、荷物預かり、シャワーが利用できるランナーのための施設があるので旅先でのランニングに非常に便利である。ウェアとシューズのレンタルや、オリジナルのプロテインを販売している所もある。ぜひ一度利用してみて頂きたい。

城の周り、河川敷、小さい島などなど、全国で自分のお気に入りのランニングコースを見つけてみてはどうだろうか。くれぐれも、走る際には水分補給等の体調管理や、走行車両や周囲の安全に十分注意していただき、存分にランニングを楽しんでください。

オートバイとの旅

株式会社 荒谷建設コンサルタント
松本 宏二

1. Motorcycle makes a man.

これはイギリスのバイクに関する格言？とされています。日本製オートバイが世界市場を席卷する1960年代後半まで、オートバイ大国は間違いなくイギリスでした。そのイギリスでこのような言葉が生まれたのは、オートバイが特殊な乗り物であり、人との関係性が、有機的・擬人的な性質を帯びているからだだと思います（例：『アラビアのロレンス』の主人公、T.E.ロレンスは熱烈なオートバイマニアで、ブラフ・シュペリアという英国製バイクに「ジョージ」というニックネームを付けて7台乗り継いでいました）。自動車と比較すると、乗り手の技量や経験が如実に現れますし、オーナーとの関係性がオートバイそのものに漂ってきます。



高知県内 四国横断自動車道にて、同行者が走行中に筆者を撮影（2014年5月GW）

オートバイは、自動車と比較すると危険度は高く、環境の影響を直接受ける、リスクの高い乗り物です。現行のオートバイは、電子制御等の技術により扱いやすく乗りやすくなっていますが、所謂「旧車（私見で概ね1980年以前）」に属するオートバイは、扱うための知識、技術、経験が必要になります。

今、私が乗っているオートバイは1981年に米国のミルウォーキーで製造され、今年（2021年）でちょうど40歳になり、私のもとに「嫁いで」きて12年以上が経ちました。恐らくですが、米国本土よりも長く（距離も時間も）日本の道を走っています。

たまにグズることもありますが、走行距離はまもなく12万kmになります。自分で出来る限りのメンテナンスをして、走行中も振動やエンジン音の変化を感じ取りながら、少しでも好調子を維持できるように心掛けています。それに応えるように、大きなトラブルも無くここまで走っています（とはいえ大分くたびれていますので、来年はオーバーホールの予定です）。

面倒を見ているようで、実はオートバイに、オーナーとして乗り手として訓練されたのかもしれませんが。時間と距離を共有するなかで、“More the Machine”（ただの機械ではない）を実感しながら、まだまだこの関係は続くと思います。



山形県内 国道7号の休憩所にて。晴れていれば鳥海山が見えるはずが、雨雲と霧で全く見えなかった。（2019年4月30日）

2. All travelling becomes dull in exact proportion to its rapidity.

「あらゆる旅はその速さに比例してつまらなくなる」（ジョン・ラスキン：19世紀のイギリスを代表する評論家・美術評論家）

年間平均1万kmは走りますが、そのほとんどがソロツーリングで、且つ一般道（下道）をメインに走っています（目的や目的地が決定済で、日程がタイトなときは高速道路を走りますが…）。

1000kmを超えるようなツーリングであれば、2泊3日程度の日程を想定します。これは「一般道は平均時速40km」という「距離の壁」があるからです。信号や渋滞により、一般道では頻繁に停車しますし、自動車専用道路（無料区間）や広域農道などを走っても平均時速は40km前後です。よって1日400kmを走るならば正味10時間、給

油・休憩を考えれば12時間程度の走行時間が必要になります。午後4時には宿泊場所に到着したい…となれば、午前4時前後の出発（夏場でも夜明け前）です。夜が明け徐々に明るくなる、ほとんど車がない早朝は走っていて非常に快適です。郊外に出れば信号も点滅状態で、ほぼノンストップで純粋に走りを堪能できます。



宮城県都井岬にて。
都井岬は野生馬（御崎馬）の生息地・保護区。野生馬と「鉄馬」とのツーショットを狙ったガバイクで近づくと逃げてしまった。（2018年10月28日）

ひたすら下道を走り続けて、県をまたいでいくと様々な変化を感じられます。九州を南下すると、木々の葉が分厚くなり緑が濃くなります。阿蘇を走るとカルデラという地形を、身をもって感じる事が出来ます。

日本海側を北上すると、信号機がやがて横列から縦列になります（信号機への着雪の影響を軽減させるため）。そして北陸に入ると、右手に立山連峰が見え、5月のGWでも山頂には雪が残っています。更に北上すると、空気が冷たく澄んできたように感じます。こうした体感の変化は、西日本ではあまり感じることはなく、5月に山頂の雪を見るようなことは先ず経験できません。

高速道路で同じ距離を走行しても、感覚や肉体に響く変化を感じることは困難です。時速80kmで5時間と平均時速40kmで10時間では、体感する変化や景色は全く異なると思ひ



山形県鶴岡市 道の駅 あつみ
コロナ禍での2泊4日の強行軍。
(2020年9月21日)

ます。

「スピード感」に最大価値を置くライダーには物足りないかもしれませんが、古いオートバイに気を使いつつ淡々と距離を刻み、オートバイとの関係を紡いでゆくことが益々楽しくなっています。

3. Old motorcycle never die, but Time is unlikely to forgive it.

皆さんは、愛車(自動車でもオートバイでも)に乗るとき、どんな気持ちですか？

私が愛読しているオートバイ雑誌のコラムに、「毎回、自分のバイクに乗るときは今でもワクワクする」旨の記述がありました。こうした自動車やオートバイに出会えることは中々難しいかもしれませんが、どんな車であれ、やはり乗る時間・距離と掛ける手間暇に大きく左右されると思います。こうした状況が周囲の人達をも幸せにするか否かは疑問が残りますが、このような境地に達すると、益々「オーナー本人の人生」が充実するのは間違いなさそうです。

コロナ禍で「一人で楽しめる趣味」としてオートバイが再評価され、免許取得も一苦労、中古車両の価格も高騰しているようです。ナカナカ困難な状況下ではありますが、現役で乗っている方も、これから免許を取得されオートバイを購入される方も、「愛馬」と思える1台に出会えたら余すことなく堪能していただきたいです。

化石燃料が有限で、二酸化炭素排出規制が強化される昨今、近い将来ガソリンエンジンを搭載した乗り物は、地上から姿を消すかもしれません。いずれにせよ「残された時間は長くはない」ことはほぼ確実ですから、「ワクワク」できる時間を少しでも長く味わっていただきたい、と心から申し上げたいです（私はEVの二輪ではワクワクできそうにありません）。

肉体的に乗車不可能になると、ガソリン車の走行禁止のいずれが早く訪れるかは分かりませんが、健康に留意して自分の「稼働年数」を1日でも引き延ばし、状況が許す限り乗り続けたいと思います。

それではいつの日か、路上でお会いしましょう！

創立50周年記念事業 絵本の寄贈活動紹介

株式会社 ウエスコ
岡山支社 寒竹 悠子

■はじめに

株式会社ウエスコは、2020年9月に創立50周年を迎えました。その記念事業の一環である、絵本の寄贈活動を紹介させていただきます。



寄贈した絵本

■活動紹介

記念事業として社会貢献活動を企画した当初、社員からは、ボランティア活動や環境学習等のアイデアが出されていました。しかし、新型コロナウイルスの影響を受け、そうした対面型の活動は実施が難しい状況でした。

そうしたなかでも、環境保全や、橋梁・道路、上下水道などの社会インフラを扱う建設コンサルタントである当社らしい活動に、との思いから、若手社員が中心となって、自然環境の大切さや、土木に関わる車や仕事などを紹介する絵本の寄贈活動を企画しました。

幼稚園から小学校くらいまでの子供たちが楽しく読んでくれそうな絵本を、社員で紹介しあって選び、岡山市の幼稚園・保育園（103園）や市立図書館（10館）に計522冊を寄贈させて頂きました。

■絵本の紹介

寄贈した絵本をいくつかご紹介します。

水の循環や命の繋がりを描いた「もったいないばあさん かわをゆく（講談社）」。見るたびに新しい発見がある「みんなで！どうろこうじ（偕成社）」。道路や橋などの工事現場を観察する「だんだんできてくる」シリーズ（フレーベル館）。また、地理情報を扱う社員が選んだ「にっぽん地図絵本（戸田デザイン研究室）」は、日本の地図や地理に親しむことができます。

■おわりに

寄贈する絵本を選ぶ過程では、社員同士の新たな交流が生まれるとともに、私たちの仕事の意義や、社会との関わりを見直すきっかけにもなったように思います。

寄贈後には、子供たちからお礼の絵や手紙が届き、社員一同、とても温かい気持ちになりました。

子供たちには、絵本との出会いをきっかけに、身近にある土木や自然に興味を持ってもらえれば、嬉しく思います。そして将来、そうした分野に関わる仕事に進んでくれたらいいなと願っています。



大野幼稚園の子供たち

広島駅南口広場再整備に CMRとして関わった感想

株式会社 エイト日本技術開発
中国支社 鷲津 宏明



1. はじめに

私は、H30年度に入社してからこれまで、主に公園や広場等の設計業務を中心に行っていました。そうした中、昨年度7月にURリンクージと弊社でJVを組み※1、CM業務の担当として市役所内に常駐して「広島駅南口広場再整備等事業」に携わるとい話を頂きまして、この度、広島へ赴任して参りました。今回、入社3年目でCM業務に関わった所感を述べさせていただきます。(※1 URリンクージ・エイト日本技術開発設計共同体)

2. CM業務とは

最初に、CM（コンストラクション・マネジメント）業務についてですが、本業務は建設プロジェクトを円滑に進めるために、発注者に代わって、事業全体をマネジメントしていくことを目的とした業務です。

今回の事業では、交通事業者による関連事業や民間開発事業との設計・施工に関する調整が重要となりますので、関係者らの間に立ち、こ

れらの技術的な調整や業務全体の調整・マネジメント等を行っています。

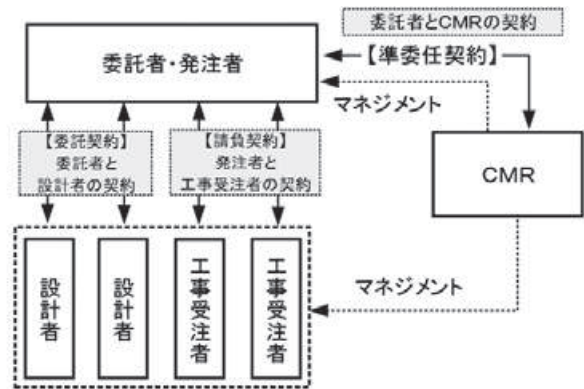


図1 CM業務のイメージ図
(出典 JCCA CM方式活用の手引き(案))

3. 広島駅南口広場再整備事業概要

続いて、私が現在携わっている「広島駅南口広場再整備等事業」について、ご紹介します。

本事業は、広島市の陸の玄関口である広島駅ビルの再開発に合わせて、駅前広場の交通結節機能を強化し、集約型都市構造への転換を目的



図2 現在の広島駅の様子(2021年11月29日撮影)

として広島駅南口広場の再整備及び、広島駅からの路面電車ルートの新設などを旨とした事業です。

とりわけ、本計画では新広島駅ビルと既設ビル間をペデストリアンデッキで結び、歩行者動線を2階レベルへと引き上げる計画になっています。また、歩行者動線に合わせて、路面電車を駅ビル2階部へ直接乗り入れるなど、世界的にも珍しい駅前空間が成される予定です。



図3 広島駅ビル完成イメージ
(提供 西日本旅客鉄道株式会社)

4. 業務を通しての所感

本事業は、先述のように非常に珍しい駅前空間の形成を計画しており、土木技術者として、こうした事業に携われることを嬉しく思います。

一方で、CM業務として本事業に携わるにあたり、これまでのコンサル業務内容や立場の違いなどから、悩むことも少なくありませんでした。

特に、本業務では事業全体を調整・マネジメントしていくということで、自分の専門分野だけでなく、多岐に渡った広い視点が求められて

いました。事業全体のスケジュールが決まっている中で、施工性、維持管理性をそれぞれ意識した上で設計業務の監理を行うのは初めての経験であり、自分の見識の狭さを実感しました。

また、本事業のような大規模なプロジェクトでは、各交通事業者はもちろん、地下広場の管理会社、周辺民間開発事業者、地元住民など非常に多くの関係者がいます。こうした中で、各者と話し合い設計内容の調整を行って行くのですが、関係者からの意見や要望を受けて、設計内容の大きな見直しが必要になると言うこともあり、関係機関調整の難しさと言うのを痛感しました。

しかし、関係機関との話し合いを根気強く続け、意見に耳を傾け、寄り添いながら進めていくことで、私達だけではあまり意識していなかった気づきを得る機会も多く、とても勉強になりました。

5. おわりに

今回、本業務を通して行政側の業務内容を経験したことで、行政の方が事業を進めるにあたり、普段どのような点を気にしているのか、また方針を決定するにあたりどのように考え、どのような手順を踏んでいるのかを知ることが出来るなど、通常では体験することが出来ない貴重な経験をさせて頂きました。

当初は、初めての業務内容ということもあり、漠然とした不安を感じていましたが、振り返ると自分自身の知見を広げるうえで、とても良い機会になったと思います。

入社して感じたこと

株式会社 ウエスコ
技術部 河川防災課 森井 沙緒



令和3年4月に株式会社ウエスコに入社いたしました森井と申します。

現在、私は河川の設計・計画に関する業務に携わっております。学生時代には、河川に関して深く学ぶ機会が少なかったため、入社後すぐは専門用語を覚えることから始まりました。解析ソフトや設計ソフトなどの使い方を覚えること、基準書やマニュアルを理解すること、書類の整理・作成の仕方など業務を行う上で多くの知識を身に付けていく必要があります。日々学ぶことは尽きません。分からないことばかりですが、丁寧に指導して下さる上司や先輩方のおかげで、仕事に対し難しさを感じる半面で楽しみながら日々の業務を行うこ

とができています。

近年、雨の降り方が変化しており、短時間に強い雨が降る頻度が増加傾向にあります。それに伴い豪雨災害による河川の堤防決壊や浸水被害の件数は増加しており、また被災規模も年々大きくなっているため全国的にも河川整備は喫緊の課題といえます。河川整備を適切に行うことは多くの人命を救うことに繋がると考えており、とてもやりがいのある仕事だと感じています。まだまだ未熟ですが、たくさんの経験を積み、早く一人前の技術者になれるよう日々精進していきたいと思



1年を振り返って

株式会社ウエスコ
農林振興事業部 岡山農林振興課 清水 杏香



2021年4月に株式会社ウエスコに入社し、農林振興課に配属となりました。大学時代は環境保全学を専攻しサンゴ礁の研究をしていたため、まさか卒業後に農業土木に携わるとは夢にも思っておらず、人生って何が起るかわからないな、と実感しております。

私はこれまで設計というものに触れてこなかったため、右も左もわからず不安に感じる事が多々ありました。しかし、上司や先輩方、同期に恵まれ、少しずつではありますがこなせる業務が増えてきたように思います。特に先輩方は、質問や相談ばかりの私に対して丁寧に教えてくださる方ばかりで、感謝の思いで一杯で

あり、早く技術者として一人前になり恩返ししたいと考えております。

入社して早くも9か月が経過しましたが、今でも毎日が勉強の連続です。しかし、仕事を覚える事が大変である一方、日に日にこなせる仕事が増えていく喜びも実感することができ、毎日楽しい日々を過ごしております。

1年目はまだまだ成長しかない段階だと思いますので、あらゆる仕事に積極的に取り組み、自分の成長の糧にしていきたい所存です。いずれは誰もが認める技術者になれるよう、日々精進していきたいと思

就職のきっかけと抱負

株式会社エイト日本技術開発
広島支店 道路・構造グループ 西村 大輝



2021年4月に株式会社エイト日本技術開発に入社した西村と申します。配属先では主に道路設計に携わっています。

私は大学入学時、建設コンサルタントという業種を恥ずかしながら全く知りませんでした。なぜかという、私が入学したのは農学部で、食品化学等を学びたいと考えていたからです。そんな私が土木や建設コンサルタントを知るきっかけとなったのは、農業土木系のコースの、地震に対する防災について研究されている教授のお話を伺ったことでした。そこで建設コンサルタントは私たちの生活を支える、「縁の下の力持ち」のような仕事ということを知り、

非常に魅力を感じました。そして気づけば農業土木のコースを選択していました。色々なご縁があって、現在希望通りに建設コンサルタントに就職できたことを嬉しく思っております。

入社して半年以上経ちましたが、勉強するべきことが非常に多いと痛感しております。やはり技術力は一朝一夕では身につかないものなので、日々の業務に真摯に取り組み、学んでいく姿勢は重要であると気付きました。先輩方を目標に、まずは一つずつ着実にできることを増やしていきたいです。そして早く一人前の技術者となり、地元である広島や、日本全国の「縁の下の力持ち」を目指したいと思います。



現場に出て感じたこと

株式会社 荒谷建設コンサルタント
鳥取支社 技術部 地盤調査課 小林 和生



令和3年4月に荒谷建設コンサルタントに入社しました小林と申します。鳥取支社の地盤調査課に配属されました。大学では土木工学について学び、常時微動の研究をしていました。業務はボーリング調査の現場管理や道路施設や砂防施設などの点検、水位観測、軟弱地盤での安定解析や圧密沈下の検討などを行っています。

つい最近、現場で点検や調査をした際には、マムシが間近にいたり、マダニが何匹も服についていたり、足元が崩れ山の急斜面から滑り落ちそうになったりするなど、身の危険を感じま

した。危険予知活動を形式的にボンヤリと行うのではなく、想像力を働かせて現場に潜む危険とその対処法について考えることは勿論のこと、ヒヤリハットの事例集に目を通すなどをして無事故を貫き通したいです。

入社してから8か月以上経過しましたが、業務の中でまだまだ分からない部分やぎこちない部分がたくさんあります。その自分の不足している部分を埋められるよう日々努力していきたいです。

入社して感じたこと

株式会社 荒谷建設コンサルタント
本社事業部 営業部 営業課 唐澤 佳慧



令和3年度に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社しました唐澤と申します。

長野県で生まれ育ち、進学の際に広島にやってきました。充実した大学生活を送ったこの広島の地で勤務できることに、喜びをかみしめています。

入社当初、文系の私にとって土木の世界は未知の領域で、右も左もわからない状態でしたが、自分を成長させてくれる上司や、切磋琢磨

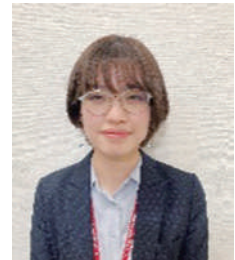
し合う同期の存在のおかげで、建設コンサルタントの仕事の魅力や、やりがいを少しずつ見出せるようになりました。

日々お世話になっている方々にご恩を返せるように、そして建設コンサルタントの一員として社会に貢献できるように、自分の役割とは何なのか、日々自問自答しながら仕事をしたいと思っています。



入社して感じたこと

中電技術コンサルタント株式会社
沿岸整備部 設計解析グループ 荒木保乃香



2021年3月に松江工業高等専門学校を卒業し、同年4月に中電技術コンサルタント株式会社に入社しました荒木保乃香と申します。

1年前、就職先として建設コンサルタントを選んだ時に、忙しく大変な日々を過ごすことを覚悟し、入社当時は不安しかありませんでした。約8カ月経った今、思った通り大変な日々ではありますが、自分でも驚くほど楽しく仕事をしています。共に成長し、励まし合い、語り合う個性豊かな同期と、優しく最後まで丁寧に指導し、時には一緒に悩んでくださる上司や先輩方と一緒に仕事ができるこの環境がとても恵まれたものだと感じています。

現在私は沿岸整備部の設計解析グループに配属になり、主に波浪計算や構造計算に携わっています。港湾施設や空港は、島国日本を支える重要なインフラの一つですが、学校ではほとんど学んだことのない分野でした。そのため、学

生の間に学んだことだけでは立ち向かえない難しさを痛感し、常に新しいことを学ぶ毎日です。

初めは同席するだけでも緊張し、飛び交う専門用語に追いつけず内容が全く理解できなかった打合せも、気付けば説明の一部を任せてもらえるようになりました。社外の方と連絡を取る機会も増え、メールを打つ時間は短くなり、電話は緊張しなくなってきました。小さな積み重ねですが、気付けば出来ることが増えている喜びを感じています。また、社内研修でBIM/CIMについて学び、他部署の人と一緒に様々な視点から考え、その成果を社内で発表する等、貴重な体験もさせていただきました。今後もこのような小さなチャンスも逃さず成長していきたいと思っています。いつか自分が携わった構造物が誰かの命を守り、生活を豊かにできるように、頑張っていきます。

入社して感じたこと

中電技術コンサルタント株式会社
河川砂防部 坪井 勇樹



2021年度に中電技術コンサルタント株式会社に入社しました坪井と申します。入社して早くも8カ月が経ちました。入社当初に比べ、最近では仕事にも慣れ、出来る作業も増えてきました。新しい経験や勉強することが多く、大変な日々ですが、自分を成長させてくれる上司や先輩方、仲の良い同期がおり、とても恵まれた環境で仕事に取り組むことができていると感じております。

私は現在河川砂防部の計画グループに所属しており、主に河川計画の業務などに携わっています。河川計画の仕事では初めての経験が多々あり、日々勉強の毎日です。また、今年7月と8月に豪雨があり、西日本各地で大きな被害が出ました。私は、痕跡調査のため山口県防府

市と広島県竹原市の現地に行きました。現地では、倒壊した護岸、土砂が堆積して埋まった河川、道路に広がる土砂など河川の氾濫の痕跡を見て、改めて河川が氾濫することの危険性を痛感しました。私は、このような災害から社会インフラを整備して地域を守る仕事に携われることを嬉しく思います。また、早く地域に貢献できる技術者になりたいと考えております。

その中で、私が感じたことは「目的をもって仕事を行うこと」が重要だということです。ただ言われたことを何も考えずやるのではなく、「なぜ」「なんのために」行うのかを考えることで、仕事の理解や自分の成長に繋がると考えております。この先、地域に貢献できる技術者になることを目標に日々精進していきます。



入社して感じたこと

復建調査設計株式会社
保全構造部 構造技術課 松谷 将吾



2021年4月に復建調査設計株式会社に入社し、構造技術課に配属されました松谷と申します。現在、私は主に橋梁の設計業務に携わっております。入社時は、希望した部署ということもあり、本配属されるまでとても楽しみでした。いざ業務につくと、知識・経験不足を痛感しましたが、上司や先輩方から理解するまでご指導していただき、少しずつですが業務内容などを理解できるようになりました。基準書やマニュアル以外にも現地状況、発注者の意図等の様々な条件をもとに最適な計画が求められ、業務に取り組みながら勉強の毎日です。

また、業務の中で、BIM/CIM推進による橋梁の3次元化等に取り組み、配属された当初に施工シミュレーションを作成しました。発注者に成果を見ていただいた時、反応が良く安心したことを覚えています。成果図面の作成以外に、施工時の工程管理等で生産性向上に寄与できることを嬉しく思います。

まだ、できる事は少ないですが、社内、社外で活躍できる場を自ら探し取り組んでいきたいと思っております。日々の業務の中で一つでも多くのことを吸収し、一人前の技術者となれるように日々精進していきます。

課題と今後の目標

復建調査設計株式会社

総合計画部 交通まちづくり課 中野 友弘



私は、2021年4月に復建調査設計株式会社に入社し、総合計画部交通まちづくり課に配属されました。配属後は、グリーンスローモビリティの導入実験のためにバス停やチラシなどの資料を作成・設置したり、自治体のまちづくりの方針と地域の現況を照らし合わせて地域ごとのバリアフリーの目標を定めたりと、様々な業務に取り組んでいます。

これまで業務に携わり、適切なコミュニケーションを取れるようになることが今後の課題だと感じています。入社半年頃から、上司や発注者と協議でコミュニケーションをとることが増えてきましたが、自分の言いたいことをまくしたてるように話したり、質問の意図がわからないまま回答したり、相手方を困らせてしまうこ

とが何度もありました。自分なりに“これでよし”と思える成果物を作っても、上司や発注者が納得できるものになっていなければ仕事にはなりません。

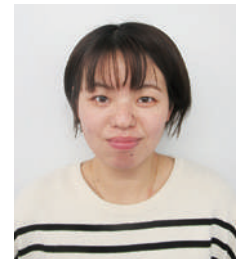
成果物を作るためには、自分の考えをわかりやすく伝え、相手の質問や指示の意図を正確に汲み取ることが必要です。能力は一朝一夕では身につきませんが、上司や先輩方の力を借りながら、技術者として力をつけていこうと思います。「質問は意図を考えながら聞くようにしましょう」とアドバイスをいただいているので、まずは、そこから取り組んでいきます。早く一人前の技術者となって、誰もが豊かな生活を送れる社会の実現に貢献したいです。



入社して感じたこと

復建調査設計株式会社

空間情報部 情報技術課 前岡 夏槻



2021年3月に広島工業大学を卒業し、同年4月に復建調査設計株式会社へ入社いたしました。入社して2か月はビジネスマナー研修や他部署での業務研修、BIM/CIM活用のための研修があり、6月から空間情報部情報技術課に配属となりました。配属先の部署では、陸・海・空の様々な場所で測量を行っており、私も陸班で測量業務に携わっています。

測量に関しては、大学在学中から講義で学ん

でいたものの、実際に仕事をする中で勉強不足を痛感しています。また、ミスや見落としも多く、同じ現場を何度も計測したこともありました。ですが、上司の方々の丁寧な指導により、少しずつですが仕事を任せていただけることも増えています。

まだ1人ではなにもできませんが、日々の経験を無駄にせず上司の方々と肩を並べて仕事ができるよう努力していきたいと思っています。

入社1年目を振り返って



いであ株式会社

中国支店 道路橋梁部 増井 優哉

2021年4月に“いであ”株式会社に入社いたしました増井と申します。

道路に関する設計に携わりたいという思いを胸にいであに入社し、希望通りの道路部に配属させていただいたことへの感謝と共に、実際に道路設計を経験できることを嬉しく思います。そして、土木技術者へのスタートラインに立つことができたのだと実感しています。

入社から約9ヶ月が経過しましたが、少しずつ任せていただく仕事が増え、設計基準書や指針書を片手にわからないことを上司に尋ね、業務を進めています。そのような中で最も印象に残った業務は災害対応業務です。近年、日本で

は豪雨災害が激甚化・頻繁化しています。広島では、今年も豪雨災害が発生してしまいました。災害対応業務に同行した際には、被災調査・応急復旧設計に基づき道路規制が解除される瞬間に立ち会い、この仕事の人々の生活を支える仕事であることを再認識し誇らしく思いました。さらに、迅速な対応が求められる中で、発注者と適切な協議を行い、規制解除に向けて業務を取りまとめた上司に対する憧れを抱き、私もそのような土木技術者になりたいという思いが強くなりました。今後も尊敬する上司の背中を追いかけて、一日も早く一人前の土木技術者となれるよう努めてまいります。



入社して感じたこと



八千代エンジニアリング株式会社

広島支店 業務企画部 営業課 藤槻 友依

2021年4月に八千代エンジニアリング株式会社に入社いたしました藤槻と申します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、東京にある本店（東京都台東区）での研修へ参加できるか懸念しておりましたが、感染症対策に十分留意しながら無事に同期との1か月間の研修を終えることができました。その後5月より広島支店へ本配属となり、現在業務企画部営業課で主に契約業務に携わっております。

契約関係書類の作成やシステムへの登録、営業活動資料データの取りまとめ等を行う中で、知識不足を痛感する日々ですが、段々と業務の全体像を理解できるようになってきたと感じて

おります。

また今年度の新入社員の中で広島支店への配属が私1人ということもあり、本配属前は様々な不安を抱えておりましたが、ご指導いただく上司の方々や先輩方のおかげで、まだまだ未熟ながらも責任とやりがいを感じながら業務に励むことができいております。

入社してまもなく1年となりますが、周囲の皆様の丁寧なご指導やお心遣いを無駄にすることのないよう、教えて頂いたことを自分なりに咀嚼しながら理解を深め、一歩ずつ着実に成長していけるよう努めてまいります。

入社して半年が経ちました

株式会社 長大

社会創生事業本部 環境事業部 社会環境3部 針谷 周平

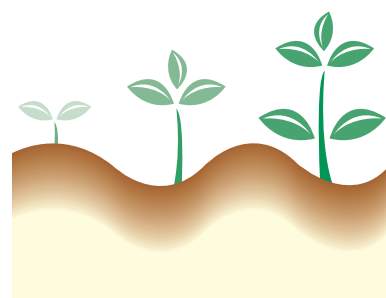


令和3年4月に株式会社長大（広島支社）に入社しました針谷です。この投稿を執筆しているのは11月で入社してから約半年が経ちました。

仕事について、諸先輩方が優しくフォローしてくださるお陰で毎日楽しく勤務できています。私の業務は主に社会インフラ事業の環境アセスメントです。現地調査や報告書作成など、忙しい毎日を送らせて頂いています。今は先輩の指示のもとで動いていますが、今後は発注者目線で業務を捉え自発的に行動していくことを心がけます。そのために、発注者との協議に参加し、社内ミーティングでは自分の意見を積極的に発信していきます。近年、洋上風力など環

境アセスメントの需要も多様化している中で長大の環境事業部を牽引できる技術者になりたいです。

私生活について、私は大学院まで埼玉の実家から通っていたので、4月から人生初の一人暮らしとなりました。初めは誰にも干渉されず、好き勝手に生活できることが心地よかったです。段々と寂しさが上回るようになり、自分は誰かと生活を共にする方が向いているようです。コロナも収束してきたので広島で友人を探したいと思います。最近ゴルフを始めようと思っているのでゴルフ仲間も見つかけたいです。





ご挨拶

株式会社 片平新日本技研
中国支店長 高 龍

このたび、前任の田淵智秀の後を継いで、株式会社 片平新日本技研 中国支店長を仰せつかりました。

地元大阪の大学を経て、新日本技研株式会社に入社して25年間、橋梁の設計に携わらせて頂きました。近畿で10年、中国で15年と住み心地の良い広島での勤務の方が長くなりました。4年前には株式会社片平エンジニアリングとの合併により現在の社名に改め、企業力・技術力の強化に努めています。

橋梁設計では、予備、詳細、補修、補強、点検と、また鋼橋、PC橋等幅広く経験させて頂きました。その中で長大橋の設計が僅かなのが寂しいですが、諸先輩方の築かれてきた技術を勉強し、コンサル業務を通じて社会に貢献出来

ることは嬉しい限りです。

昨年からのコロナ禍の状況においても、国土強靱化政策のもと、安定・継続した受注環境にある社会基盤整備事業の魅力が多く、若者や学生にも少しずつ浸透してきているのか、新入社員が継続的に多く入社頂けるようになってきました。反面、業界全体においても同様に30代の中堅技術者が不足する傾向は当面続き、若手技術者の育成が緊結の課題として捉え、鋭意模索し取り組んでいます。

建設コンサルタツ協会においても、技術者育成支援より多くの講習会、研修会を企画・運営頂き、微力ながら私も協力し、業界全体の発展に寄与出来れば幸いです。今後とも、ご支援のほど、宜しくお願い致します。



ご挨拶

株式会社 パスコ
中四国事業部長 篠原 真樹

このたび、前任の佐々木敏之の後を継いで、株式会社パスコ 中四国事業部長を仰せつかりました。

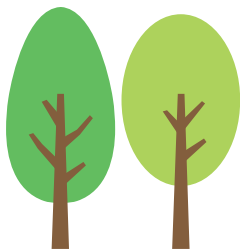
弊社 関西事業部から単身で赴任し、はや4年目となります。出身は関西(大阪)ですが、昭和61年に入社し、当時の開発事業部(不動産開発部門)にて、静岡の別荘、近畿地区のマンション等の建築、販売に携わり、平成5年に現在の公共部門に属し関西事業部、現在の中四国事業部に至っております。社内では、まれな経歴だと言われていると思います。

今年になって、猛威を振るっていたコロナが、ようやく落ち着きを見せ、緊急事態宣言も解除され、世の中も安堵の空気に包まれていることと思います。また、これに伴い「働き方改革」も加

速的に進行し、我々の生活習慣も大きな変化を受けていることと思います。しかし、一方弊社では、まだまだ過渡期であり、社員の意識を変え、とともに社内環境を整備し、良い方向で定着できるよう苦慮しているところです。

とはいえ、このような状況下においても、激しい気象変動の中、自然災害は容赦なく発生するでしょう。自然の驚異と向き合い、備え、対処していく事が、我々の業界が担うべき役割であり、社会の一員として時代の要請に応え、社会に貢献出来ればと思っております。

また、微力ではありますが、建設コンサルタント協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、今後ともご指導・ご支援のほど、よろしくお願いいたします。





新任ご挨拶

株式会社 ニュージェック
中国支店 竹本卓司

このたび、前任の佐藤至紀の後を継いで、中国支店長を仰せつかりました。

出身地は大阪で関西の学校を経て、平成3年4月に入社し31年間、ずっと営業畑の仕事に携わってきました。入社当時からのバブル期を経て現在までに営業環境も大きく変わったように思います。

近年はコロナの影響で私たちの営業環境が更に大きく変わりしました。これまでの営業訪問を前提とした活動が出来ず、社員に対する営業の指導方法やコミュニケーションのとり方、営業マネジメントのやり方も変えていく必要に迫られています。アフターコロナにおける営業の在り方や対応策を今後、考えていきたいと思えます。

公共事業においてもコロナ禍の状況で打合

せなど面談形式を取りやめ、Web会議で開催する事で感染予防、移動時間の削減など新しい様式に移行しています。全ての状況ではありませんがWeb会議は今後も取り入れられ労働時間の短縮、残業の削減と働き方改革にも繋がっていくように思います。PC環境の整備も進み、リモートワークとオフィス勤務を併用する働き方にも慣れてきたところです。

近年の異常気象により激甚化する災害に対しても建設コンサルタントとして如何に社会貢献できるか、社会に役立つ企業になれるか、今後一層努力してまいります。

最後に建設コンサルタンツ協会中国支部の一員としてお役に立てるよう頑張りますので、何卒宜しくお願い申し上げます。





新任のご挨拶

明伸建設コンサルタント株式会社
渡 邊 聖

このたび、前任の福原真爾氏（弊社社長）の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

出身は広島県広島市で修道高校から九州大学を経て、広島県庁に入庁して37年間、陸、海、空の様々な分野の仕事に携わってきました。特に、新広島空港関連事業の計画、設計や安芸灘大橋、豊島大橋、第二音戸大橋の調査、設計、施工に従事できたことは、今でも大きな思い出となっています。3年前に県を退職し、現在は、

明伸建設コンサルタントで微力ながら頑張っています。

私はこれまで、建コンの活動に関わることがありませんでしたが、これからは、これまでの経験を活かし、建設関係者との繋がりを大切にしながら、また新しいことにも少しずつチャレンジしながら、さまざまな支部活動や業務部会などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご指導並びにご支援のほど、よろしくお願い致します。



ご挨拶

株式会社 荒谷建設コンサルタント
中 川 孝 浩

このたび、前任の久保業務部会委員の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

広島県三次市で生まれ育ち、中学時代から陸上競技を始め、駅伝の強豪である世羅高校、国士館大学に進学し競技を続けていましたが、縁あって、平成6年に株式会社荒谷建設コンサルタントに入社しました。以来27年間、総務、品質企画、営業企画等に携わり、近年は

営業企画職として、各発注機関の入札制度への対応など、営業支援業務に注力してまいりました。

私はこれまで、平成27年より独占禁止法に関する特別委員会にて建コンの活動に携わらせて頂きましたが、これからは、業務部会での活動も通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご指導のほど、よろしくお願い致します。



新任のご挨拶

株式会社 ヒロコン
中 田 武

このたび、前任の内海業務部会委員の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

広島工業大学付属工業高校から広島工業大学を卒業後、数社の建設コンサルタントを経て、ヒロコンに入社して8年間が経ちます。建設コンサルタントにおいては、一貫して橋梁の設計に携わってきました。

私は4年前に2年間業務部会委員を務めておりました。今回再任となります。これからは前任時の経験を活かし、さまざまな支部活動や、毎月一回の本部業務委員会などを通じて、建設コンサルタント協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



ご挨拶

株式会社 長大
広島支社 和 田 昌 也

このたび、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

令和2年4月に中国地方整備局を退職し、6月から株式会社長大に入社いたしました。整備局では37年間、主に道路関係の仕事に携わってきました。その間、道路の都市計画決定や環境影響評価、橋梁設計など、建設コンサルタント各社の皆様には大変お世話になりました。

入社後1年半が経過しましたが、コロナ禍で仕事のやり方も様変わりしたように思えます。

在宅勤務やWEB会議が当たり前のように行われ、人と直接接する機会が少なくなりました。アフターコロナでは「リモート」と「対面」を上手く使い分けていく必要があるでしょう。これから業務部会を通じて、「働き方改革」、「生産性向上」、「担い手確保」といった課題解決に向けて、微力ではございますが建設コンサルタント協会のお役に立ちたいと思っておりますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。



新任ご挨拶

中電技術コンサルタント株式会社
池上 慎司

このたび、前任の曾我部の後を継いで、中国支部技術部会委員ならびに災害対策中国支部委員を仰せつかりました。

出身は山口県ですが、大学進学より広島に移り、そのまま半生以上を広島の地で過ごしております。大学助手を経て中電技術コンサルタントに入社し、軟弱地盤対策、港湾、建設環境、測量・計測、都市土木、道路、河川など多岐に

わたる事業分野に従事してきました。

これまで地盤工学会など学会活動が中心で建コンへの関わりは希薄でしたが、委員就任を機に技術部会をはじめとした様々な支部活動にて幅広い経験を活かし、当協会ならびに会員の方々の発展にお役に立ちたいと考えています。ご支援・ご指導のほど、よろしく願いいたします。



ご挨拶

株式会社 エイト日本技術開発
管理本部総務部 西 生郎

このたび、前任の宇高（前任の中国支部総務部会委員）の後を継いで、中国支部委員を仰せつかりました。

平成元年に入社して32年間、事務部門に携わってきました。

私はこれまで、建コンの活動に関わることが

ほとんどありませんでしたが、これからは、さまざまな支部活動や、総務部委員会などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えていますので、ご支援のほど、よろしく願いいたします。



ご挨拶

大日本コンサルタント株式会社
樋 口 学

このたび、前任の橋本尚昌の後を継いで、中国支部業務部会委員を仰せつかりました。

1995年に大日本コンサルタント株式会社に入社し、27年間主に四国地区の営業・企画に携わってまいりました。昨年7月より中国支店勤務となり、広島での新生活をスタートさせましたが、依然としてコロナ禍収束の兆しは見え

ず、皆さまとお会いする機会も少なく大変もどかしい日々が続いている今日この頃です。このような状況下ではございますが、今後は業務部会の活動を通じ、建設コンサルタンツ協会中国支部の発展に微力ながらお役に立ちたいと考えていますので、ご指導・ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新任のご挨拶

株式会社 ウエスコ
大 川 啓 輔

このたび、前任の川端の後を継いで、中国支部 技術部会委員を仰せつかりました。

私は、岡山朝日高校から香川大学を経て、ウエスコで25年間、道路設計、造成設計等に携わってきました。

私は、これまで建コンの活動に関わることで

ほとんどありませんでしたが、これからは、さまざまな支部活動や技術部会などを通じて、建設コンサルタンツ協会の発展にお役に立ちたいと考えております。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

■ 支部日誌（令和3年4月～4年3月）

- 4月 7日（水）第1回道路委員会
- 4月12日（月）令和2年度中国支部監査
- 4月21日（水）第1回地域計画委員会
- 4月21日（水）第1回防災委員会
- 4月23日（金）第51回定時総会
- 4月28日（水）令和3年度土木技術者育成会議
- 5月12日（水）第13回都市政策ゼミナール
- 5月12日（水）第1回河川委員会
- 5月19日（水）第2回地域計画委員会
- 5月27日（木）～ 28日（金）
研修講師派遣 広島県「中級Ⅱ講座（設計技術）」
- 5月29日（土）太田川総合水防演習（現地開催中止）Web参加
- 5月31日（月）第1回業務部会
- 6月 2日（水）第2回道路委員会
- 6月 2日（水）第2回河川委員会
- 6月10日（木）～ 11日（金）
研修講師派遣 広島県「中級Ⅱ講座（設計技術）」
- 6月11日（金）広島県及び23市町村と災害協定締結
- 6月15日（火）第1回総務部会・県委員長合同会議
- 6月16日（水）第3回地域計画委員会
- 6月21日（月）倉敷市との防災教育に関する意見交換
- 6月23日（水）研修講師派遣 広島市「アスファルト舗装」
- 6月23日（水）第1回技術部会・技術委員長合同会議
- 6月25日（金）研修講師派遣 広島市「構造物設計」
- 7月 2日（金）まちづくり出前授業 広島市立三篠小学校
- 7月 5日（月）～ 9日（金）
研修講師派遣 中国地方整備局「基礎技術Ⅰ」
- 7月 6日（火）第1回厚生部会
- 7月 7日（水）第3回道路委員会
- 7月 7日（水）第14回都市政策ゼミナール
- 7月 7日（水）第3回河川委員会
- 7月14日（水）第1回港湾委員会
- 7月16日（金）第1回役員会
- 7月19日（月）第2回防災委員会
- 7月20日（火）国土交通功労表彰式
- 7月21日（水）第4回地域計画委員会
- 8月 3日（火）中国地方ブロック意見交換会
- 8月 4日（水）第1回Web防災講演会
- 8月 4日（水）第4回道路委員会

- 8月 6日(金) 第1回構造委員会
- 8月11日(水) 第4回河川委員会
- 8月25日(水) 第5回地域計画委員会
- 9月 1日(水) 第24回若手の会
- 9月 1日(水) 令和3年度災害時対応演習
- 9月 1日(水) 第5回道路委員会
- 9月 1日(水) ～ 10月31日(日)
RCCM資格試験
- 9月 2日(木) 第2回厚生部会
- 9月 3日(金) 防災教育 広島市立温品小学校
- 9月 6日(月) ～ 10日(金)
研修講師派遣 中国地方整備局「構造物設計Ⅱ」
- 9月 7日(火) ～ 12日(日)
令和3年度「マネジメントセミナー (Web・集合併用)」
- 9月 8日(水) 第5回河川委員会
- 9月 8日(水) 第2回業務部会
- 9月15日(水) 第2回港湾委員会
- 9月15日(水) 第6回地域計画委員会
- 9月17日(金) 防災教育 広島市立安北小学校
- 9月24日(金) まちづくり出前授業 広島市立三篠小学校
- 10月 6日(水) 第6回道路委員会
- 10月 6日(水) 第6回河川委員会
- 10月 7日(木) 研修講師派遣 中国地方整備局「橋梁管理実務者Ⅱ」
- 10月 7日(木) 現場見学会
- 10月 8日(金) 第2回構造委員会
- 10月12日(火) 研修講師派遣 中国地方整備局「基礎技術Ⅱ」
- 10月13日(水) 第3回港湾委員会
- 10月13日(水) 第25回若手の会
- 10月14日(木) 土研新技術ショーケース 2021 in 広島
- 10月18日(月) ～ 22日(金)
研修講師派遣 国土交通省中国地方整備局「構造物設計Ⅰ」
- 10月20日(水) 第7回地域計画委員会
- 10月21日(木) 第3回防災委員会
- 10月28日(木) 倉敷市防災教育事前協議
- 11月 1日(月) 鳥取県との意見交換会
- 11月 2日(火) JCCA中国編集会議
- 11月 4日(木) 広島県との意見交換会
- 11月 5日(金) 防災教育 広島市立井原小学校
- 11月10日(水) 第7回道路委員会
- 11月10日(水) 第15回都市政策ゼミナール
- 11月11日(木) リクルート (鳥取西高等学校)
- 11月12日(金) 中国地方整備局との意見交換会

- 11月12日 (金) 第56回ゴルフ大会開催
- 11月12日 (金) ハイブリッドケーソン制作現場見学会
- 11月17日 (水) 第4回港湾委員会
- 11月17日 (水) 港湾技術交流会
- 11月18日 (木) 研修講師派遣 国土交通省中国地方整備局「土石流対策に関する調査・計画および設計演習」
- 11月18日 (木) ～ 19日 (金)
建設技術フォーラム2021inちゅうごく開催
- 11月18日 (木) 研修講師派遣 岡山県建設技術センター「会計検査指摘事項の検証」
- 11月19日 (金) ～ 11月28日 (日)
品質セミナー
- 11月19日 (金) 4支部連携意見交換会
- 11月22日 (月) 寿大学防災教育 広島市 馬木公民館
- 11月24日 (水) 第8回地域計画委員会
- 11月29日 (月) ～ 30日 (火)
研修講師派遣 岡山県建設技術センター「コンクリート構造物の点検・診断・補修(上級)」
- 11月29日 (月) ～ 12月10日 (金)
PC技術講習会(Web講習会)
- 11月29日 (月) 全国事務局長会議
- 11月29日 (月) リクルート(鳥取東高等学校)
- 11月30日 (火) 広島市との意見交換会
- 11月30日 (火) 流域治水シンポジウム
- 12月 2日 (木) 第8回道路委員会
- 12月 3日 (金) 防災教育 広島市立古田台小学校
- 12月 3日 (金) 第3回構造委員会
- 12月 4日 (土) ～ 12日 (日)
広島都心地下街公共空間利用実験
- 12月 6日 (月) リクルート(呉工業高等専門学校)
- 12月10日 (金) リクルート(鳥取大学)
- 12月13日 (月) 寿大学防災教育 広島市 竹屋公民館
- 12月15日 (水) 岡山県との意見交換会
- 12月15日 (水) リクルート(松江工業高等専門学校)
- 12月15日 (水) リクルート(島根大学)
- 12月17日 (金) 第4回防災委員会
- 12月22日 (水) 第2回総務部会
- 1月 4日 (火) 官民合同新年互例会
- 1月17日 (月) リクルート(徳山工業高等専門学校)
- 1月18日 (火) 第3回業務部会
- 1月21日 (金) 第2回役員会
- 2月 1日 (火) 本部・支部意見交換会
- 2月 4日 (金) 令和3年度第2回Web防災講演会
- 3月下旬 JCCA中国 Vol.50 発行

■ 事務局からのお知らせ

●JCCA中国会誌のホームページへ掲載について

この中国支部の広報誌は、JCCA vol.38の発行から中国支部ホームページにPDF版にて掲載していますのでご利用ください。

<http://jcca-cg.jp/>

●JCCA中国へのご寄稿依頼

中国支部の広報誌JCCA中国は、年1回発行しています。

会員の皆様のグループ活動、読者のコーナー、連載寄稿等の自由なご寄稿を頂きますようお待ちしております。

ご寄稿頂きますと心ばかりのお礼をさせていただきます。



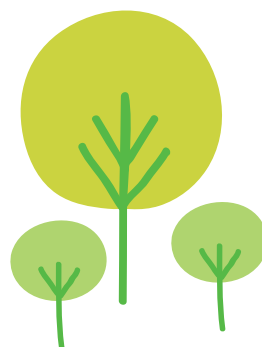
■ 編集後記

世界中がコロナ禍に見舞われてはや2年が過ぎました。1年遅れで開催された東京オリンピックでは日本選手のメダルラッシュもありテレビ越しに多くの感動をもらいましたが、無観客の会場で競技が行われる様子には少し寂しさも感じました。しかしながら感染対策と大会競技運営を両立させられる事を示した良い事例になったと思います。

国民生活に不可欠な各種インフラ施設の専門家である建設コンサルタント業界で働く方々はエッセンシャルワーカーです。このコロナ禍でのニューノーマルの時代では、基本的な感染対

策に留意しながらも、企業活動・社会活動の持続と更なる発展が求められています。働き方改革やDX技術の活用など、新しい考え方やより良い手法を積極的に取り入れながら、この時代を前向きに進んでいけたらと思っています。

最後になりましたが「JCCA中国」50号の制作にあたり、何かとご支援・ご協力をいただきました皆様にあらためて御礼申し上げます。編集委員一同、これからも業界の明るい話題を提供できるよう努めて参ります。今後とも協会活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。(T. N)



■「JCCA中国」の編集は次の者が担当しております。今後とも皆様のご協力をいただきますようお願い申し上げます。

来山 尚 義 (復建調査設計株式会社)
樋野 光 宏 (株式会社福山コンサルタント)
檜崎 拓 也 (株式会社エイト日本技術開発)
大下 倫 明 (株式会社荒谷建設コンサルタント)
仲井 貴 義 (株式会社ウエスコ)
大場 健太郎 (中電技術コンサルタント株式会社)
下 紺 裕 人 (復建調査設計株式会社)
中 村 正 和 (八千代エンジニアリング株式会社)
石 田 勝 己 (建設コンサルタンツ協会中国支部)

「JCCA中国」に対する照会は事務局へ

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
中国支部事務局
「J C C A 中国」編集グループ
〒730-0013
広島市中区八丁堀1番8号
エイトビル8F
TEL (082) 227-1593
FAX (082) 227-4940
E-mail cg-jcca@sage.ocn.ne.jp

R4.3 発行

一般社団法人建設コンサルタンツ協会倫理綱領

会員は、社会のニーズに応じて、技術に関する知識と経験を駆使し、社会の健全な発展に寄与する建設コンサルタントの使命と職責を自覚し、信義に基づき誠実に職務の遂行に努め、職業上の地位及び社会的評価の向上を図らなければならない。

そのため次の事項を遵守するものとする。

1. 品位の保持

会員は、常に建設コンサルタントとしての品位の保持に努めるものとするとともに、会員相互の名誉を重んじなければならない。

2. 専門技術の権威保持

会員は、常に幅広い知識の吸収と技術の向上に努め、依頼者の良き技術的パートナーとして、技術的確信のもとに業務にあたらなければならない。

3. 中立・独立性の堅持

会員は、建設コンサルタントを専業とし、建設業者又は建設業に関係ある製造業者等と、建設コンサルタントとしての中立・独立性を害するような利害関係をもってはならない。また、依頼者の支払う報酬以外いかなる利益をも受けてはならない。

4. 秘密の保持

会員は、依頼者の利益を擁護する立場を堅持するため、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

5. 公正かつ自由な競争の維持

会員は、公正かつ自由な競争の維持に努めなければならない。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部会員名簿

・支部長 小田 秀樹（復建調査設計㈱代表取締役会長）

・副支部長 坪井 俊郎（中電技術コンサルタント㈱代表取締役社長）・副支部長 小谷 裕司（㈱工イト日本技術開発代表取締役社長）

会 社 名	会 社 名	会 社 名
相生エンジニアリング㈱	㈱建設技術研究所中国支社	㈱千代田コンサルタント広島支店
アサヒコンサルタント㈱	国際航業㈱西日本支社広島支店	㈱東京建設コンサルタント中国支社
アジア航測㈱広島支店	国土防災技術㈱鳥取営業所	㈱なんば技研
㈱荒谷建設コンサルタント	シンワ技研コンサルタント㈱	西日本高速道路エンジニアリング中国㈱
いであ㈱中国支店	西部技術コンサルタント㈱	㈱日水コン広島支所
㈱ウエスコ	㈱セトウチ	日本工営㈱広島支店
㈱宇部建設コンサルタント	セントラルコンサルタント㈱広島支店	日本シビックコンサルタント㈱広島事務所
㈱エイテック中国支社	㈱総合技術コンサルタント中国支店	㈱ニュージェック中国支店
㈱工イト日本技術開発	㈱大広エンジニアリング	パシフィックコンサルタンツ㈱中国支社
応用地質㈱広島営業所	大日本コンサルタント㈱中国支店	広建コンサルタンツ㈱
㈱オリエンタルコンサルタンツ中国支社	ダイホーコンサルタント㈱	㈱パスコ
㈱片平新日本技研中国支店	㈱ダイヤコンサルタント関西支社中国支店	㈱ヒロコン
川崎地質㈱中国支店	中央開発㈱中国支店	㈱福山コンサルタント中四国支社
基礎地盤コンサルタンツ㈱中国支社	中央復建コンサルタンツ㈱中国支社	復建調査設計㈱
ケイ・エム調査設計㈱	中国開発調査㈱	明伸建設コンサルタント㈱
㈱計測リサーチコンサルタント	中電技術コンサルタント㈱	八千代エンジニアリング㈱広島支店
㈱建設環境研究所広島支店	㈱長大広島支社	㈱陸地コンサルタント



JCCA

*Japan Civil Engineering Consultants Association
Chugoku Branch.*